

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ポケット・ゼミ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会人として必要な国語力を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける				考え抜く力 コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】常に手帳を持参するようにしましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	生活デザイン設計・講義の受け方 保育の基本用語(漢字の練習)		一年間の生活スケジュールを組み立てる。専門学校の講義の種類や特徴を知りノートの取り方や提出物の方法を知る。		個人
2	保育学生としてのマナー① 保育の基本用語(漢字の練習)		保育学生の基本的なマナー(表情・挨拶・お辞儀)を理解する。		グループ
3	保育学生としてのマナー② 保育の基本用語(漢字の練習)		保育学生として感謝や謝罪のマナー・訪問時のマナーを理解する。		グループ
4	保育学生としてのマナー③ 保育の基本用語(漢字の練習)		保育学生として病気や感染症への事前対応について理解する。		グループ
5	保育場面におけるマナー① 保育の基本用語(漢字の練習)		実習オリエンテーションの準備や保育学生としての服装・メイクについて理解する。		グループ
6	保育場面におけるマナー② 保育の基本用語(漢字の練習)		保育の場で気を付けたい所作を理解する。		グループ
7	保育場面におけるマナー③ 保育の基本用語(漢字の練習)		保育の場での持ち物や保育者への質問の仕方について理解する。		グループ
8	保育場面におけるマナー④ 保育の基本用語(漢字の練習)		保育の場での物の借り方や返し方、メモの取り方を理解する。		グループ
9	保育の場におけるマナー⑤ 保育の基本用語(漢字の練習)		保育の場での環境整備について理解する。		グループ
10	保育の場におけるマナー⑥ 保育の基本用語(漢字の練習)		お茶の入れ方や個人情報・守秘義務について理解する。		グループ
11	保育学生としての言葉① 保育の基本用語(漢字の練習)		話し言葉のトレーニングについて理解する。		グループ
12	保育学生としての言葉② 保育の基本用語(漢字の練習)		書き言葉(日誌・レポート・原稿用紙の使い方)について理解する。		個人
13	保育学生としての言葉③ 保育の基本用語(漢字の練習)		書き言葉(さまざまな文章の書き方)について理解する。		個人
14	学校行事に参加する 矢吹		学校行事のねらいや目標を考えチームワークの大切さを理解する。		個人
15	定期試験の準備		試験の形式やルールを理解し、それに必要な準備や見通しを立てる。		グループ
期末試験	漢字・専門用語筆記試験		評価方法	受講態度 30% 課題の達成度 70%	
【教科書】	保育のマナーと言葉(わかば社) 保育の基本用語(わかば社)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活をしましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ポケット・ゼミ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会人として必要な知識を身につける ②専門学校での学ぶ意味を説明できる ③基本的な学習方法を実践する ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける ⑤保育学生としてのマナーを身につける				コミュニケーション技術 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】常に手帳を持参するようにしましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生活デザインの再構成 保育の基本用語(国語表現)	前期から夏休みまでの生活や目標、授業態度を振り返り後期の生活や目標を再構成する。			個人
2	学びの振り返り 保育の基本用語(国語表現)	科目ごとに前期の学習を振り返り、何を学びどれだけ理解しているか再確認して、後期の学習の対策を考える。			個人
3	特別講義 矢吹	芸術鑑賞を通して豊かな感性を身に付ける。			個人
4	アーサティブコミュニケーションとチーム力 保育の基本用語(国語表現)	アーサティブコミュニケーション力を高める意識をしながら、チームでプレゼンテーションを行う。			グループ
5	自己紹介の書き方 保育の基本用語(国語表現)	自分の強みや弱みについて考える。			個人
6	個人調書の書き方 保育の基本用語(国語表現)	個人調書の記入上の留意点を理解する。			個人
7	学校行事に参加する 矢吹	行事のねらい・目標を立て、行事の参加の仕方を考える。			グループ
8	保育実習日誌の書き方① 保育の基本用語(国語表現)	実習日誌の意味と書き方について理解する。			個人
9	保育実習日誌の書き方② 保育の基本用語(国語表現)	実習日誌記入上のふさわしい表現や文章を理解する。			個人
10	保育実習日誌の書き方③ 保育の基本用語(国語表現)	実習日誌記入上のふさわしい表現や文章を理解する。			個人
11	保育現場におけるマナー① 保育の基本用語(国語表現)	実習事前オリエンテーションまでの準備・心構えを再確認する。			グループ
12	保育現場におけるマナー② 保育の基本用語(国語表現)	保育学生として電話をかける時のマナーを理解する。			グループ
13	保育現場におけるマナー③ 保育の基本用語(国語表現)	保育学生として気を付けたい所作を確認する。			グループ
14	定期試験の準備 矢吹	各試験の形式を振り返り、試験の準備に必要なことを確認する。			個人
15	一年次の振り返りと二年次の目標 矢吹	一年間を振り返り、学校生活・家庭生活の反省を踏まえ、二年次の目標を立てる。			個人
期末試験	振り返りレポート 筆記試験	評価方法	受講態度 課題の達成度	30% 70%	
【教科書】	保育のマナーと言葉(わかば社) 保育の基本用語(わかば社)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		本講義で立てた生活目標や学習内容を日頃から意識して生活しましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育原理 ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
保育の意義と目的を理解し、乳幼児期の保育の基本についての理解を具体的に深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育の意義と目的、内容と方法を理解する。 ②保育の法制度について理解する。 ③保育所保育指針に基づく保育の内容と方法を理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。				考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【履修上の注意】		予習課題の励行と事前提出			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。			個人
2	保育の理念と概念	乳幼児保育の役割と機能について理解する。			個人
3	保育の社会的役割と責任	子ども家庭福祉に関わる法律や制度について理解する。			個人
4	子ども・子育て支援新制度と保育に関わる関係法令	新制度創設の趣旨と概要、社会的養護について理解する。			個人
5	保育の実施体系	保育施設の設置や運営基準、保育施設を利用する際の申請や利用の手続きを理解する。			個人
6	保育所保育指針に基づく保育	保育所保育指針の内容や制度的位置付けについて理解する。			個人
7	保育の目標と方法	保育の目標を達成するための乳幼児期の保育に適した方法について理解する。			個人
8	乳児の保育	乳児の発達過程や保育の基本と子育て支援の重要性について理解する。			個人
9	1歳以上3歳未満児の保育	発達過程や保育の基本を踏まえ、具体的な援助や関わりについて理解する。			個人
10	3歳以上児の保育	世界への関心や多方面への知性の扉を開く幼児期の保育のあり方を理解する。			個人
11	子ども理解に基づく保育の過程①理論編	保育の計画・実践・再構成のプロセスについて理解する。			個人
12	子ども理科に基づく保育の過程②実践編	学びの連続性を考えた小学校との接続について理解する。			個人
13	諸外国・日本の保育の思想と歴史	諸外国や日本の教育の思想と歴史、子育ての思想について理解する。			個人
14	諸外国の保育の現状と課題	諸外国と日本における保育の思想と歴史を知り、現代の保育とのつながりを理解する。			個人
15	日本の保育の現状と課題	諸外国と日本の保育の現状と課題について学ぶ。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%		
【教科書】	保育原理(中央法規)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館) 最新保育小六法資料集(ミネルヴァ書房)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次回講義予定の予習とノート整理などの復習			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの理解と援助 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもの発達や学びに関する心理学の知見を保育現場で実践できるよう、保育者としての活用や具体的な援助行動を学ぶことで子どもについてさらなる理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【履修上の注意】教科書・参考書は忘れずに持参すること。学習内容をよく考えること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	子どもの生活や遊び		乳児期の生活習慣の獲得と遊びについて学び、保育者の関わりや援助について実践的に考える。		個人
2	保育の人的環境としての保育者		保育者は子どもを取り巻く環境の構成要素としてその理想的な在り方を学ぶ。		個人
3	子ども相互の関わりと関係づくり		子どもと子どもの関わりについて、そのきっかけや継続性をもたらす際の保育者の役割を学ぶ。		個人
4	集団における経験と育ち		保育現場で生じる集団について、発達段階別の特性や活動における性質の違いを学ぶ。		個人
5	葛藤やつまずき		仲間との生活を通して経験する葛藤やつまずき等による影響を理解し、自我の発達を促す関わりを学ぶ。		個人
6	保育の環境の理解と構成		保育者は自らもその構成要素として子どもに適した環境を整えるべく、その構成を学ぶ。		個人
7	環境の変化や移行		家庭から保育の場への移行、生活の中の場面の切り替え、その経験と日々の適応を促す援助について学ぶ。		個人
8	観察・記録・省察・評価		子どもを理解するための視点から日々の観察、記録、省察と評価の活用を学ぶ。		個人
9	職員間の協働と情報共有		より良い保育実践へ向けて職員同士の協働、多職種連携と情報共有の重要性を学ぶ。		個人
10	保護者との情報共有		保育現場と家庭が共有すべき情報とその共有方法について学ぶ。		個人
11	生活・生育環境とその影響		子どもを取り巻く環境の昨今の変化とその影響、この先の変化への対応を学ぶ。		個人
12	子どもの健康に関わる問題		乳幼児期に明らかになる各種障害について、その特徴と支援について学ぶ。		個人
13	発達の課題に応じた援助と関わり		発達課題についての理論を基に、段階別の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ。		個人
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		子ども一人一人のニーズについての理解と個別の配慮・支援方法、法制度について学ぶ。		個人
15	発達の連続性と就学への支援		就学へ向けて先を見通した保育の実践と幼保小連携、保護者支援について学ぶ。		個人
期末試験			評価方法	課題の達成度 60% 受講態度 20%	レポート 20%
【教科書】	最新 保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育の計画と評価 ※実務経験のある教員の授業科目		渡邊 佐江子			渡邊
		保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
保育の内容の質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。また、全体的な計画と指導計画について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体の構造をとらえ理解する。					考え抜く力 発達援助技術 遊びの展開技術
【履修上の注意】 保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を熟読すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		講義内容や履修上の注意点を理解する。		個人
2	保育の計画と評価 基本1		カリキュラムの基礎理論を理解する。		個人
3	保育の計画と評価 基本2		保育における計画と評価の意義を理解する。		個人
4	保育の計画と評価 基本3		子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上を理解する。		個人
5	保育所における保育の計画1		保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景を理解する。		個人
6	保育所における保育の計画2		保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方を理解する。		個人
7	保育所における保育の計画3		全体的な計画について学び、指導計画の関係性を理解する。		個人
8	保育の計画と評価1		長期的指導計画の作成について理解する。		個人
9	保育の計画と評価2		短期的指導計画の作成について理解する。		個人
10	保育の計画と評価3		実際に短期的指導計画(日案:部分実習)を作成してみる。		個人
11	保育の計画と評価4		実際に作成した計画(日案:部分実習)に沿って演習してみる。		個人
12	保育の計画と評価5		実際に実践した保育の記録及び省察を演習してみる。		個人
13	保育所における保育の評価1		保育士及び保育所の自己評価を理解する。		個人
14	保育所における保育の評価2		保育の質向上に向けた改善の取組を理解する。		個人
15	保育所における保育の評価3		生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録を理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		プリントを整理し、課題に取り組むことで復習・予習につなげること。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育内容総論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		勝見 恵子			勝見
		保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育所保育指針「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育内容」の関連性を理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、実践に即した保育の過程につなげて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育所保育指針第1章「総則」と第2章「保育の内容」の関連を理解できる。 ②保育所保育指針を基に、保育の全体的な構造を理解できる。 ③子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる。 ④保育の多様な展開について具体的に理解できる。				考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術	
【履修上の注意】 毎回資料をお渡しいたしますのでファイルを用意し、授業には必ず持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		講義概要や学習目標を理解する。 保育所保育指針とは何かを理解する。		個人
2	保育の全体構造と保育内容 1		保育所保育指針に基づく保育の全体構造について理解する。		個人
3	保育の全体構造と保育内容 2		保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。(養護)		個人
4	保育の全体構造と保育内容 3		保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。(教育)		個人
5	保育の全体構造と保育内容 4		保育内容の歴史の変遷とその社会的背景について理解する。		グループ
6	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1		子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方を理解する。		グループ
7	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2		養護及び教育が一体的に展開する保育を理解する。		グループ
8	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3		子どもの主体性を尊重する保育を理解する。		グループ
9	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4		環境を通して行う保育を理解する。		グループ
10	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5		生活や遊びによる総合的な保育を理解する。		グループ
11	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 6		個と集団の発達を踏まえた保育を理解する。		グループ
12	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 7		家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育を理解する。		グループ
13	保育の多様な展開 1		長時間の保育(子育て支援について)を理解する。		グループ
14	保育の多様な展開 2		特別な配慮を要する子どもの保育を理解する。		グループ
15	保育の多様な展開 3		多文化共生の保育を理解する。		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林)				
【参考書】	保育内容総論Ⅰ(中央法規)				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		事前学習の提示について保育所保育指針やネット等で調べて授業に臨む。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
健康指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		矢吹 ヒロ子			矢吹
		保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育の内容・方法に関する科目として位置づけ、保育の基本をどう考えれば良いのか、生きる力の基礎となる豊かな体験をどのようにして保育に取り入れていくのかを理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども達の生きる力の基礎を培うには、どのような内容や方法があるのかを理解する。 ②子ども達の心と体の健康を保つためには、どのような園・所生活にしていくべきかを考える。 ③保育環境や具体的な援助の大切さは何かを主体的に考える力を身に付けることができる。				考え抜く力 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】 予習復習してから授業に望みましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 領域「健康」の理解		幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育を参照に領域「健康」について理解する。		個人
2	子どもの発育と発達		乳幼児期の身体的、精神的発達の特徴と発育発達の過程について理解する。		個人
3	発達を踏まえた健康支援		発達過程に応じた健康支援と個人差への配慮、保育者の関わりについて理解する。		個人
4	子どもの心の健康		愛着形成と情緒の安定、心の健康を支える保育者の援助について理解する。		個人
5	生活習慣と健康①食事		食事の意義と食育、望ましい食習慣の形成について理解する。		個人
6	生活習慣と健康②睡眠・排泄・清潔		睡眠、排泄、清潔など基本的な生活習慣の形成と援助方法について理解する。		個人
7	生活リズムと健康		生活リズムの形成と健康の関係、家庭と連携について理解する。		個人
8	運動と健康		身体を動かす遊びや運動の意義と健康な身体づくりについて理解する。		個人
9	安全管理と事故防止		保育における事故防止、安全管理、安全教育の基本について理解する。		個人
10	健康と環境		保育環境や自然との関わりが心身の健康に与える影響について理解する。		個人
11	子どもの病気と予防		感染予防や生活習慣の乱れなど現代的健康課題と保育現場での対応について理解する。		個人
12	健康指導案作成		子どもの発達に応じた健康指導のねらいと内容を考え、指導案作成の方法について理解を深める。		個人
13	健康指導教材の製作①		健康や生活習慣をテーマとした視覚的教材を構想し、製作を行い、教材作成の工夫について理解を深める。		個人
14	健康指導教材の作成②		視覚教材の完成に向けて製作を進め、子どもに分かりやすく伝える工夫について理解を深める。		個人
15	教材発表と振り返り		製作した教材と指導案を発表し、健康指導の実践と教材活用について理解を深める。		個人
期末試験	筆記試験・実技試験		評価方法	実技試験 40% 課題の達成度 40%	受講態度 20%
【教科書】	子どもと健康(みらい) 保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		保育所保育指針・幼稚園教育要項、認定こども園保育指針の「健康」のねらい、内容の取り扱いを理解しましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間関係指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		勝見 恵子			勝見
		保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもの理解を深め、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うための援助を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 領域「人間関係」のねらい、内容について理解し、説明することができる。 ② 乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる問題について理解することができる。 ③ 子どもの生活や遊びに対して保育内容や援助について学び、保育実践に活用することができる。 ④ 事例を通して保育者の援助について理解することができる。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】教科書やファイルなど忘れ物がないよう気を付けましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 領域「人間関係」とは	領域「人間関係」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解する。			個人
2	子どもの人間関係の発達	0歳以上3歳未満児の人間関係の発達を理解する。 (愛着・自己主張・自己発揮)			個人
3	子どもの人間関係の発達	3歳以上児の子どもの人間関係の発達を理解する。 (自己調整力・自己発揮と自己抑制)			グループ
4	保育者の役割と援助	乳幼児の子どもの人とかかわる力を育む保育者のかかわりについて理解する。			グループ
5	保育者の役割と援助	自立心を育むために適切で多様な環境および援助について学ぶ。			グループ
6	保育者の役割と援助	幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生えについて理解する。			グループ
7	保育者の役割と援助	個の育ちと集団の育ちを踏まえ、協同性を育む保育者の役割を理解する。			グループ
8	遊びと人間関係の発達	遊びから育まれる人とかかわる力について子どもの発達を踏まえ理解する。			グループ
9	遊びの中で育つ「人間関係」	人と関わる力が育まれる遊びを考え、指導計画を作成する。			グループ
10	遊びの中で育つ「人間関係」	指導計画を基に模擬保育を行う。			グループ
11	遊びの中で育つ「人間関係」	指導計画を基に模擬保育を行う。			グループ
12	遊びの中で育つ「人間関係」	特別な配慮を必要とする子ども一人一人を大切にする保育について理解する。			グループ
13	保育者の役割と援助	家庭・地域など子どもを取り巻く人間関係と子どもの育ちとの関係や社会との連携と保育者の役割について理解する。			グループ
14	保育者の役割と援助	ICTを活用した保育の実際について理解する。			グループ
15	保育者の役割と援助	社会問題を踏まえ、これからの保育者に求められる専門性について理解する。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%	
【教科書】	保育内容「人間関係」と指導法 考える・調べる・学び合う(中央法規) 保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		体験学習などで出会った子どもの姿や保育者の援助を観察すること。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
環境指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
<p>養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を、主に環境の領域の観点から捉え、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う発達の援助について具体的に理解する。</p>					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<p>①子どもの発達を環境の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に理解する。          ②子どもが好奇心や探求心をもってかかわりたくなる環境をどのようにするか理解する。          ③子どもが環境とかかわり、生活に取り入れていこうとする力をどのように養うか理解する。          ④幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。</p>				<p>発達援助技術          生活援助技術          環境構成技術          遊びの展開技術          コミュニケーション技術</p>	
【履修上の注意】 予習をしてから、授業に臨みましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	子どもと環境について学ぼう	保育における子どもの環境を理解する。			個人
2	保育内容・領域「環境」について学ぼう①	保育・幼児教育の基本について理解する。			個人
3	保育内容・領域「環境」について学ぼう②	環境の「ねらい」・「内容」・「内容の取扱い」について理解する。			個人
4	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう①	乳児保育の「3つの視点の展開」について理解する。			個人
5	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう②	未満児・以上児の領域における「環境の展開」について理解する。			個人
6	保育の過程について学ぼう①	子ども理解と指導計画の作成を理解する。			個人
7	保育の過程について学ぼう②	保育の実践と評価・省察について理解する。			個人
8	ものとかかわりの実践について学ぼう①	保育とものの関りについて理解する。			個人
9	ものとかかわりの実践について学ぼう②	乳児・未満児・以上児とさまざまな物とかかわりについて理解する。			個人
10	自然とかかわりの実践について学ぼう①	様々な遊びや活動が広がる植物とかかわりや、生命の尊さ			グループ
11	自然とかかわりの実践について学ぼう②	多様な遊びや活動が広がる植物とかかわりや、生命の尊さに気付き、生き物をいたわり大切にすることのかかわりを理解する。			グループ
12	数量・図形とかかわりの実践について学ぼう	子どもの生活、子どもの遊び、子どもの発達と数量・図形について理解する。			グループ
13	標識・文字とかかわりの実践について学ぼう	子どもの必要性に基づく標識・文字について理解する。			グループ
14	身近な施設・地域、さまざまな文化とかかわりの実践について学ぼう	日々の保育からつながる地域の人とかかわりについて理解する。			グループ
15	行事とかかわりの実践について学ぼう	保育における行事の意義や留意点について理解する。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70% 受講態度 30%		
【教科書】	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法(わかば社) 保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日頃から、季節の移り変わりや、地域の行事に興味関心を持ちましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(表現と運動) ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】 運動遊びと子どもの成長と子どもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面が子どもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つかを理解し、具体的な援助方法を習得する。同時に、子どもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】 ①子どもが主体的に曾比に取り組める援助方法を習得する。 ②演習で取り扱う運動あそびと成長発達の関係を理解する。 ③運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 ④創作活動を通してチームの中で互いに協力し、コミュニケーション技術を習得する。 ⑤楽しく安全に遊べる環境づくりを学ぶ。				【受講して得られる力】 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 チームで働く力	
【履修上の注意】運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参しましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	学習内容を理解する。幼児期の運動遊びの体験の振り返りをする。			個人
2	自然を素材とする遊びや戸外での遊び 固定遊具を使った遊び	自然を素材とする遊びの知識と技術を把握する。固定遊具の遊びの種類と遊び方について子どもの成長発達に与える内容を理解する。			個人
3	有酸素運動・ストレッチ運動① リズムダンス①	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。			個人
4	遊具(操作性遊具)を使った遊び (様々なボール遊び)	ボールを使用した遊びの種類や、楽しく安全に協力して遊びを支援する方法を学び、遊びの技術を習得する。安全性の配慮を学ぶ。			グループ
5	有酸素運動・ストレッチ運動② リズムダンス②	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。			個人
6	遊具を使った遊びⅡ (フープ、輪、ロープ、新聞紙、タオルなど)	転がす、回す、投げる、くぐるなどの技術を習得する。また、これらの運動遊びで調整力が育まれることやゲーム性を取り入れることで競争意識や社会性が形成されることを理解する。			グループ
7	有酸素運動・ストレッチ運動③ リズムダンス③	有酸素運動やストレッチ体操を通して身体を整え、音楽に合わせてダンス表現を楽しむ。			個人
8	大型遊具を使った遊具 (マット、跳び箱、平均台など)	多様な運動を展開することで子どもの運動への興味関心を高め、柔軟性、協応性、巧緻性などが育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。			グループ
9	有酸素運動・ストレッチ運動④ 創作ダンス①	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。			グループ
10	サーキット遊び	遊具を組み合わせることで創造性を養うことができることや、相手への思いやりの心や社会性が育まれることを理解する。安全性の配慮を学ぶ。			グループ
11	有酸素運動・ストレッチ運動⑤ 創作ダンス②	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。			グループ
12	身体表現による伝承遊び① (お手玉、おはじき、ビー玉、あやとり、けん玉、コマ回し)	伝承遊びをとおして、左右の手や指を使うことで脳の発達に効果的であることや、集中する力が養成されることを理解する。			グループ
13	有酸素運動・ストレッチ運動⑥ 創作ダンス③	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。			グループ
14	身体表現による伝承遊び② (鬼ごっこ、ケンケンパー、縄跳び、ゴム遊び、まりつき)	伝承遊びをとおして、子どもの思考力や役割意識・規範意識が養われることを理解する。			グループ
15	有酸素運動・ストレッチ運動⑦ 創作ダンス④	想像しながら身体を動かすことで、豊かな創造性が身に付き器用な身のこなしができるようになる。			グループ
期末試験	創作ダンス発表	評価方法	課題の達成度 40% 授業への貢献 30%	受講態度 30%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		幼児体操や幼児ダンスは、反復練習をしっかりと行いましょう。			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び(言葉と児童文化財) ※実務経験のある教員の授業科目		鈴木 恵夏			鈴木
		保育園(保育士)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
昔から受け継がれている遊びや、絵本、紙芝居など様々な児童文化財に触れ、実践を通して保育技術を習得する。また、児童文化財と子どもの育ちとの関わりについて考え、保育者の役割を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 子どもの発達と児童文化財の知識や保育技術を身に付けることができる。 ② 児童文化財に親しみ保育環境を考えることができる。 ③ 保育教材を製作し、保育の展開について理解する。 ④ 保育に活かせる遊びを身に付けることができる。				発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせいたしますので、忘れものがないように気を付けてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 児童文化財とは	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 児童文化財について理解をする。			個人
2	保育に活かす児童文化財 (1)絵本	絵本の特色や読み聞かせのポイントについて理解する。			個人
3	演習「絵本の読み聞かせ」	読み聞かせの技術を身に付ける。			グループ
4	保育に活かす児童文化財 (2)紙芝居	紙芝居の特色や、紙芝居を演じるときのポイントについて理解する。			個人
5	演習「紙芝居」	紙芝居の演じ方の技術を身に付ける。			グループ
6	保育に活かす児童文化財 (3)ペープサート	ペープサートの特色や作り方、演じ方について理解する。			個人
7	教材研究「ペープサート」	作り方を確認しながら、ペープサートを製作をする。			グループ
8	演習「ペープサート」	子どもの前で演じる時のポイントについて確認しながら、作ったペープサートを演じ、実践力を身に付ける。			グループ
9	保育に活かす児童文化財 (4)パネルシアター	パネルシアターの特色や作り方、演じ方について理解する。			個人
10	教材研究「パネルシアター」	作り方を確認しながら、パネルシアターを製作をする。			グループ
11	演習「パネルシアター」	子どもの前で演じる時のポイントについて確認しながら、作ったパネルシアターを演じ、実践力を身に付ける。			グループ
12	児童文化財の保育への展開(1) 保育教材の製作①	子どもが楽しめる工夫や安全面への配慮をしながら、保育教材の製作を行なう。			個人
13	児童文化財の保育への展開(2) 保育教材の製作②	子どもが楽しめる工夫や安全面への配慮をしながら、保育教材の製作を行なう。			個人
14	児童文化財の保育への展開(3) 保育教材を演じるときの実践案作成	作った保育教材を子どもの前で演じるときの実践案を作成する。			個人
15	児童文化財の保育への展開(4) 保育教材を用いた模擬保育	作成した実践案を用いた模擬保育の実践をする。			グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 40% 受講態度 30%	課題の達成度	30%
【教科書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版(みらい)				
【参考書】	0～5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		絵本や紙芝居など、沢山の児童文化財に触れてください。			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
乳児保育 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		矢吹 ヒロ子			矢吹
		保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
乳児保育の意義・概念と現状、乳児保育の基本的な知識について学ぶ。人として人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者との連携や子育て支援について総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①乳児期の意義、目的、役割と背景や歴史的変遷を理解する。 ②多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、知識を得る。 ③3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と保健・衛生・安全管理について理解する。 ④乳児保育における職員間・保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤乳児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。				発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】自分の考えを積極的に発言したり、意見を聞いたりして考えることを大切にしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。乳児保育の基本について理解する。		個人
2	乳児保育の意義・目的と役割 乳児保育の歴史的変遷および社会的状況と課題		乳児保育の役割と機能を理解する。 乳児保育の背景や歴史的変遷、子育ての家庭の現状と課題について理解する。		個人
3	乳児保育における養護と教育		養護と教育の一体性について理解する。		個人
4	保育所における乳児保育		保育所、認定こども園における乳児保育について理解する。		個人
5	保育所以外(乳児院)における乳児保育		乳児院における乳児保育について理解する。		個人
6	地域型保育等における乳児保育		地域型保育事業について理解する。		個人
7	乳児(0歳児)の発達と保育内容		乳児の発達過程を理解する。 乳児の保育のねらいおよび内容を理解する。		個人
8	1歳以上3歳未満児の発達と保育内容		1歳以上3歳未満児の発達過程を理解する。 1歳以上3歳未満児の保育のねらいおよび内容を理解する。		個人
9	3歳未満児の発育・発達		0～3歳児の身体・生理的機能の発達、言葉・コミュニケーションの発達、社会性の発達を理解する。		グループ
10	乳児保育の生活の基本と配慮		3歳未満児の基本的な生活習慣を理解する。 保育者の配慮について学ぶ。		グループ
11	0歳児の遊びと環境		0歳児の発達を踏まえた遊びと環境について学ぶ。		個人
12	1歳～3歳児の遊びと環境		1歳～3歳児の発達を踏まえた遊びと環境について学ぶ。		個人
13	乳児保育における計画		保育における計画・記録・評価の意義を理解する。 保育のPDCAサイクルを理解する。		個人
14	職員間の連携・協働		職員間の連携・協働について理解する。 他職種の連携について知る。		個人
15	保護者との連携・協働		保護者との連携・協働について理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】	ワークで学ぶ 乳児保育 I・II(みらい)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の予習(教科書の該当ページを一読)や課題に意欲的取り組んでいきましょう。					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
乳児保育Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目		矢吹 ヒロ子			矢吹
		保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基本や養護と教育について、演習を通して理解する。 乳児期の発達を踏まえた生活と遊びの援助、健康・安全への保育者の配慮を演習しながら習得する。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえ、実践的な援助や関わり方を習得する。 ②3歳未満児の発達を踏まえながら子どもの興味・関心、発達を促す遊びを実践する。 ③指導案を理解し、映像から乳児保育の実際を具体的に学び、実践力を養う。 ④乳児の健康・安全管理を踏まえた保育の実際を理解し、実践的な保育力を養う。 ⑤乳児保育における様々な連携を理解する。					発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術
【履修上の注意】 演習やグループ学習が多いので、意欲的に参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 保育者の役割		講義概要と学習目標について理解する。 養護と教育の一体性を事例から具体的に理解する。		個人
2	子どもと保育者との関係性		個々の子どもに応じた援助について理解する。 受容的・応答的関わりを事例から考える。		個人
3	個々の子どもの体験と育ち		子どもの主体性を尊重した保育を事例から考える。 子どもの体験と学びの芽生えの関係性を理解する。		個人
4	3歳未満児の保育における生活の援助① (調乳)		発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。		グループ
5	3歳未満児の保育における生活の援助② (おむつ替え)		発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。		グループ
6	3歳未満児の保育における生活の援助③ (睡眠)		発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。		グループ
7	3歳未満児の保育における生活の援助④ (着脱)		発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。		グループ
8	3歳未満児の保育における生活の援助⑤ (沐浴)		発育・発達を踏まえた生活の援助の実際を学ぶ。		グループ
9	3歳未満児の保育における遊びの援助① (体を動かす遊び)		映像や事例を通して子どもの姿を捉え、保育所保育指針を基に考察し理解する。		グループ
10	3歳未満児の保育における遊びの援助② (ものと関わる遊び)		映像や事例を通して遊びの意味や環境構成について保育所保育指針を基に考察し理解する。		グループ
11	3歳未満児の保育における遊びの援助③ (人と関わる遊び)		映像や事例を通して保育者との関係性や援助の意図について保育所保育指針を基に考察する。		個人
12	乳児保育における健康・安全		集団生活における健康と安全管理の配慮について理解する。 全体的な配慮および個別的な配慮の理解を深める。		個人
13	乳児保育における計画と評価		長期的な計画、短期的な計画について理解する。 個別計画の意義と作成の際の留意点について学ぶ。		個人
14	乳児保育における具体的な連携		保護者との連携について具体的に理解する。 連絡帳の記入の仕方を実践する。		個人
15	乳児保育における具体的な連携		職員間、保護者、地域との連携の重要性を理解する。 おたよりの作成を実践する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 課題の達成度 20%	受講態度 20%
【教科書】	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ(みらい)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 講義の予習や課題に意欲的に取り組んでいきましょう。					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導 I (1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		勝見・田母神・1) 矢吹・鈴木			矢吹
		1) 保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。 ②実習における留意点を理解することが出来る。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。					発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術
【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 勝見		講義内容や履修上の留意点を理解する。保育士の資格を理解する。		個人
2	保育実習の意義 勝見		保育実習の目的・概要について理解する。		個人
3	保育実習に際して留意点 勝見		子どもの権利条約や子どもの最善の利益について理解する。		個人
4	保育実習の心構えと準備 田母神		実習の進め方や求められるマナーについて知る。		個人
5	保育環境と安全・キッズ東都学園保育園の概要 田母神		子どもが安心して過ごすことができる環境について理解する。		個人
6	子ども理解① 矢吹・鈴木		子どもの発達過程について、調べ学習を通して理解する。		グループ
7	子ども理解② 矢吹・鈴木		子どもの発達過程を踏まえ、その時期の興味・関心について理解する。		グループ
8	子ども理解③ 矢吹・鈴木		調べ学習した内容を資料にまとめ、子どもの発達過程や興味・関心に関連した教材について理解する。		グループ
9	子ども理解④ 矢吹・鈴木		作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に 応じた教材について考察し作成する。		グループ
10	子ども理解⑤ 矢吹・鈴木		作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に 応じた教材について考察し作成する。		グループ
11	子ども理解⑥ 矢吹・鈴木		作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に 応じた教材について発表し、他者の考えを踏まえて理解を深める。		グループ
12	子ども理解⑦ 矢吹・鈴木		作成した資料を基に、子どもの発達過程や興味・関心に 応じた教材について発表し、他者の考えを踏まえて理解を深める。		グループ
13	保育実習の記録① 田母神		実習を記録することの意義とその具体的な記入の方法について理解する。		個人
14	保育実習の記録② 田母神		実習を記録することの意義とその具体的な記入の方法について理解する。		個人
15	保育体験学習 矢吹・鈴木		附属保育園・附属放課後等デイサービスの体験を通して子ども理解を深める。		個人
期末試験	実技試験		評価方法	課題の達成度 20% 受講態度 30%	実技試験 50%
【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			附帯施設での実習やボランティアでは保育学生としての服装や態度に十分気を付ける。		
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導 I (2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		勝見・田母神・1)矢吹・鈴木			矢吹
		1) 保育園(保育士)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	1	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実習の意義・目的・内容を理解することが出来る。 ②実習における留意点を理解することが出来る。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解することが出来る。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				発達援助技術 前に踏み出す力 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することが出来なくなるため十分に注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	夏休み体験学習の事後指導 矢吹		実習地保育体験学習を振り返り、保育士の仕事や子どもの援助について理解を深める。		個人
2	施設実習の理解① 勝見		調べ学習を通して施設の理解をする。		個人
3	施設実習の理解② 勝見		DVDを通して児童養護施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。		個人
4	施設実習の理解③ 勝見		DVDを通して知的障害児施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。		個人
5	施設実習の理解④ 勝見		DVDを通して乳児院を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。		個人
6	施設実習の理解⑤ 勝見		DVDを通して重症心身障害児施設を理解し、感想及び疑問点についてレポートを作成する。		グループ
7	施設実習の理解⑥ 勝見		DVDで見た施設に対する感想、疑問への回答を通して施設と施設実習の理解を深める。		グループ
8	保育所における計画案① 田母神		保育施設の指導計画案について理解する。		個人
9	保育所における計画案② 田母神		実習生が作成する指導計画案の意義について理解する。		個人
10	保育所における計画案③ 田母神		実習における指導実習の計画案を書いてみよう。		グループ
11	保育所における計画案④ 田母神		実習における指導計画案に基づいて実践してみよう。		個人
12	附属保育園体験学習 矢吹		保育園の一日の生活の流れを理解する。		個人
13	附属保育園体験学習事後指導 矢吹		体験学習を振り返り、記録の書き方を理解する。		個人
14	実習直前指導 鈴木		実習の目標と抱負を明確にし、事前オリエンテーションの内容を理解する。		個人
15	実習事後指導 鈴木		自己評価と実習先評価を照らし合わせ、今後に向けた課題を明確化し、自己課題を理解する。		個人
期末試験	実技試験		評価方法	課題の達成度 20% 受講態度 30%	実技試験 50%
【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成連絡会) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌林書林) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子ども家庭支援論 ※実務経験のある教員の授業科目		渡邊 佐江子			渡邊
		保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
現在の日本社会における子育て家庭に対する支援の意義と必要性について理解し、保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。また、その体制と展開、現状と課題についての理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①子ども家庭支援の意義と役割について理解する。 ②保育士による子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ⑤子ども家庭福祉に関する現状と課題について説明できる。				考え抜く力 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】		毎回の授業の予習課題の励行と事前提出			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	この科目を学ぶ必要性和授業の進め方、履修上の注意点について理解する。			個人
2	子ども家庭支援の意義と必要性	子ども・家庭をめぐる環境変化と現状、支援の意義について理解する。			個人
3	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と範囲、機能と専門性について学ぶ。			個人
4	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	保育所・認定こども園の特性、保育の専門性を生かした家庭支援について学ぶ。			個人
5	子どもの育ちの喜びの共有	保護者と協働するための子どもの育ちの喜びの共有について理解する。			個人
6	子育てを自ら実践する力の向上	保護者の「子育てを実践する力」を支持するための方法について学ぶ。			個人
7	保育士に求められる基本的態度	家庭支援において保育士に求められる基本的態度について理解する。			個人
8	家庭の状況に応じた支援	保護者の就労状況や子ども、保護者自身の問題等状況に応じた支援について学ぶ。			個人
9	子育て家庭に対する支援の展開Ⅰ	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について学ぶ。			個人
10	子育て家庭に対する支援の展開Ⅱ	子育て支援施策・次世代育成支援施策について学ぶ。			個人
11	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ	子ども家庭支援の内容と対象について理解する。			個人
12	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ	保育所等を利用する子育て家庭への支援について学ぶ。			個人
13	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ	地域の子育て家庭への支援について学ぶ。			個人
14	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ	要保護児童およびその家庭に対する支援について学ぶ。			個人
15	子ども家庭支援に関する現状と課題	制度・行政上、相談体制、施設、社会の意識等について理解する。			個人
期末試験	筆記試験(レポート)	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 20%	授業への貢献 20%	
【教科書】	最新保育士養成講座第10巻「子ども家庭福祉支援」(全社協)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習課題の励行と事前提出					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育者論 ※実務経験のある教員の授業科目		渡邊 佐江子			渡邊
		保育園(保育士)16年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
保育者の役割や保育士の責務を理解する。さらに、専門職として子どもを見る柔軟な視点を養い、生涯成長する保育者であると認識することを目的として、その向上のための理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の連携・協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術	
【履修上の注意】 実習を振り返りながら、グループワークや意見発表に積極的に参加すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。			個人
2	保育者の仕事と役割	保育者の仕事について確認し、それぞれの保育現場での仕事と役割について理解する。			個人
3	保育者の制度的位置づけ	各保育現場の保育者の位置づけと資格・要件・欠格事由等について理解する。			個人
4	保育者の倫理と子どもの権利擁護	保育者の倫理を再確認し、保育場面における子どもの権利擁護とは何かについて事例を通して考える。			グループ
5	保育者になるための学び	保育を实践する者への意識転換と保育者になるための道筋について理解する。			個人
6	保育者に求められる資質	保育者に求められる資質、期待される役割について理解し、学生時代に学ぶべきことを考える。			個人
7	学びあう専門家としての連携と協働①	職員間の連携・協働について考え、理解を深める。			グループ
8	学びあう専門家としての連携と協働②	専門職間および専門機関、関係機関との連携・協働について理解する。			グループ
9	保育者の資質向上とキャリア	資質向上のための研修、キャリア形成、チームとしての保育とリーダーシップについて理解する。			個人
10	子どもの育ちの危機と子育て支援	子どもを取り巻く生活環境から子どもの育ちと保護者の子育てを考え、保育者としての役割を理解する。			個人
11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	映像から現代の子育ての現状を知り、保育者の役割について考える。			個人
12	これからの保育者に期待されるもの	おおよそ5項目について取り上げて具体的に理解する。			個人
13	資料に見る保育者の姿	社会の変化と保育者の役割、働く保育者の実態から学び、その専門性とライフコースについて考える。			グループ
14	保育者の育ち① ～保育者になる人へのメッセージ～	テキストのコラムからグループ討議、意見交換を行い、保育者の育ちへの理解を深める。			グループ
15	保育者の育ち② ～保育者になる人へのメッセージ～	保護者の立場から保育者に求める役割の特別講義を聞き、感じたことをレポートにまとめる。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	授業への貢献 10% レポート 20%	
【教科書】	今に生きる保育者論第4版(みらい)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業を振り返ってレポート課題に取り組むこと。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
言葉指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		鈴木 恵夏			鈴木
		保育園(保育士)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うための技術を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 領域「言葉」のねらい、内容について理解し、説明することができる。 ② 言葉を育てる遊びを構想することができる。 ③ 環境による保育と子どもの言葉の育ちの関係について理解する。 ④ 言葉の発達の基本的な道筋を理解する。 ⑤ 保育教材を作り、実演を通して実践力を身に付ける。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせしますので、忘れ物がないように気を付けてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 保育内容「言葉」	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 保育内容「言葉」の意義について理解する。			個人
2	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (乳児保育)	乳児保育に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。			グループ
3	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (1歳以上3歳未満児)	1歳以上3歳未満児の保育に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。			グループ
4	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (3歳以上児)	3歳以上児に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。			グループ
5	子どもの言葉と環境	子どもの言葉が育つ環境や話しことば、読み・書き言葉と環境について理解する。			グループ
6	保育者の関わり (0歳児～2歳児)	6か月未満、6か月～1歳3か月未満、1歳3か月～2歳未満、2歳児の言葉と保育者の関わりについて理解する。			個人
7	保育者の関わり (3歳児～6歳児)	3歳児～6歳児の言葉と保育者の関わりについて理解する。			個人
8	言葉での関わりに配慮が必要な子ども	言葉の発達の課題について理解し、保育者の関わりや保護者、専門機関との連携について学ぶ。			個人
9	保育者の言葉	自分自身の言葉を振り返り、言葉の発達を支援する保育者の言葉について理解を深める。			個人
10	言葉を豊かに育む活動(1)	言葉遊びやわらべうたなど、子どもと楽しむ言葉遊びや伝承遊びの実践をする。			グループ
11	言葉を豊かに育む活動(2)	身近な素材を使用し、日常的なお話しや物語、なぞなぞなど、広いテーマを楽しむことができるパペットの製作に取り組む。			グループ
12	お話し会 プログラムの作成	言葉を楽しむお話し会のプログラムを検討し、実践に向けた準備を行なう。			グループ
13	お話し会 プログラムの作成・教材製作	お話し会のプログラム作成や、言葉を楽しむ保育教材の製作を行なう。			グループ
14	お話し会 模擬保育の実践	お話し会のプログラムをグループごとに実演し、評価し合いながら、実施内容の検討を行なう。			グループ
15	お話し会 実践と振り返り	学内でのお話し会を実施し、実践力を身に付ける。また、その振り返りを行なう。			グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 40% 受講態度 30%	課題の達成度	30%
【教科書】	保育者をめざす人の保育内容「言葉」(みらい) 保育所保育指針(チャイルド本社)				
【参考書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】保育所保育指針の「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いを覚えましょう。					
【本講義に関しての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害児保育(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		障害児入所施設(指導指導員)11年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児保育についての理解を深める。また、各種障害についての知識と理解を深め、障害児の援助方法や環境構成について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①「障害」について説明できる。 ②各種障害について説明できる。 ③障害児の援助方法や環境構成について説明できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】 予習課題の励行と事前提出					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業内容と進め方、評価方法、履修上の注意点等について理解し、また、「障害」についての基本的理解を持つ。			個人
2	障害児保育を支える理念Ⅰ	講義:①障害があるとは?②障害がある子どもの保育とは?について理解する。			個人
3	障害児保育を支える理念Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
4	障害児保育の基本Ⅰ	講義:発達の見方と発達の評価、障害児保育の対象と保育の場について学ぶ。			個人
5	障害児保育の基本Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
6	知的障害の理解と支援Ⅰ	講義:知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴、支援の方法などについて学ぶ。			個人
7	知的障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により知的障害の理解と支援について理解を深める。			グループ
8	肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と支援Ⅰ	講義:肢体不自由、聴覚障害、視覚障害がある子どもの理解と支援について学ぶ。			個人
9	肢体不自由児、聴覚障害児、視覚障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
10	発達が気になる子の理解と支援Ⅰ	講義:発達が気になる子とは?また、その支援について学び、理解を深める。			個人
11	発達が気になる子の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、発達が気になる子の支援について理解を深める。			グループ
12	発達障害の理解と支援Ⅰ	講義:自閉症、ADHD、LDの理解と支援について学ぶ。			個人
13	発達障害の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により発達障害のある子どもの理解と支援について学び、理解を深める。			グループ
14	保育の計画の作成と記録・評価Ⅰ	講義:子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価について具体的に学ぶ。			個人
15	保育の計画の作成と記録・評価Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、より具体的に理解を深める。			グループ
期末試験	なし	評価方法	課題の達成度 80% 授業への貢献 10%	受講態度	10%
【教科書】	障害児保育ー子どもとともに成長する保育者を目指してー(萌文書林)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回の授業の予習と課題の事前提出					
【本講義についての質問先】 科目責任者		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害児保育(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		障害児入所施設(児童指導員)11年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
障害児が他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について学び、理解を深める。さらに障害のある子どもの保護者への支援や、保健、医療などの関係機関との連携について学び、理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①個々の発達を促す生活や遊びの環境づくりと他者との関わりと育ちあいへの配慮ができる。 ②職員間の連携と協力関係づくりの重要性を説明できる。 ③保護者理解と家庭や関係機関との連携の必要性を説明できる。 ④早期発見と就学に向けての支援の重要性を理解する。 ⑤保健・医療・福祉・教育における現状と課題と展望について理解する。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術	
【履修上の注意】 予習課題の励行と事前提出。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅰ	講義:子ども一人一人の発達を促す生活や遊びの環境づくりについて学ぶ。			個人
2	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅱ	演習課題についてのグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
3	他者との関わりと育ちあいⅠ	講義:保育者の関わりと集団保育における配慮について学ぶ。			個人
4	他者との関わりと育ちあいⅡ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
5	職員間の協力関係Ⅰ	講義:いくつかのエピソードを通して職員間の連携、協力、情報共有について学ぶ。			個人
6	職員の協力関係Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。			グループ
7	家庭や関係機関との連携Ⅰ	講義:保護者の気持ちを理解した上での連携による支援について学ぶ。			個人
8	家庭や関係機関との連携Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。			グループ
9	早期発見と支援Ⅰ	講義:健康診査制度、発達相談と療育資源について学ぶ。			個人
10	早期発見と支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。			グループ
11	就学に向けての支援Ⅰ	講義:障害のある子どもの就学先と就学に向けた支援について学ぶ。			個人
12	就学に向けての支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。			グループ
13	保健・医療における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題について学ぶ。			個人
14	福祉・教育における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題について学ぶ。			個人
15	支援の広がりにつながり	事例を通して支援に関する縦と横のつながりについて学ぶ。			個人
期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 60% 授業への貢献 20%	受講態度	20%
【教科書】	障害児保育ー子どもとともに成長する保育者を目指してー(萌文書林)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		毎回の授業の予習と課題の提出			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子育て支援 ※実務経験のある教員の授業科目		勝見 恵子			勝見
		保育園(保育士)18年勤務 幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育士の行う子育て支援について、保育士と保護者の関係形成方法や保育所が行う支援について理解する。また、様々な場面や対象に即した支援の方法や技術を実践的に習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援(保護者支援)について、その特性と展開を具体的に理解できる。				考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーション技術 相談支援技術	
②保育士の行う子育てについて、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できる。					
【履修上の注意】 毎回、資料を配布いたしますのでファイルを準備してください。ファイルは忘れず授業に持ってきてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	保育士が行う子育て支援の特性1		授業内容や履修上の注意点を理解する。 子どもの保育とともに行う保護者の支援を理解する。		個人
2	保育士が行う子育て支援の特性2		日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成を理解する。		グループ
3	保育士が行う子育て支援の特性3		保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。		グループ
4	保育士が行う子育て支援の展開1		子ども及び保護者の状況・状態の把握を理解する。		グループ
5	保育士が行う子育て支援の展開2		支援の計画と環境の構成を理解する。		グループ
6	保育士の行う子育て支援の展開3		支援の実践・記録・評価・カンファレンスを理解する。		グループ
7	保育士の行う子育て支援の展開4		職員間の連携と協働を理解する。		グループ
8	保育士の行う子育て支援の展開5		社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働を理解する。		グループ
9	保育士が行う子育て支援とその実際1 (内容・方法・技術)		保育所等における支援を理解する。		グループ
10	保育士が行う子育て支援とその実際2 (内容・方法・技術)		地域の子育て家庭に対する支援を理解する。		グループ
11	保育士が行う子育て支援とその実際3 (内容・方法・技術)		障害のある子ども及びその家庭に対する支援を理解する。		グループ
12	保育士が行う子育て支援とその実際4 (内容・方法・技術)		特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を理解する。		グループ
13	保育士が行う子育て支援とその実際5 (内容・方法・技術)		子ども虐待の予防と対応を理解する。		グループ
14	保育士が行う子育て支援とその実際6 (内容・方法・技術)		要保護児童等の家庭に対する支援を理解する。		グループ
15	保育士が行う子育て支援とその実際7		多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解をする。		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 授業への貢献 20%	課題の達成度 20%
【教科書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	子育て支援(中央法規) 学習の主題に応じて適宜資料を配布する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書の一読や課題の予習やノート整理による復習。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
発達障害児の理解と対応 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		障害児入所施設(児童指導員)11年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
発達障害をもつ子や気になる子の行動の意味を捉え、実際の保育場面での様々なつまづき行動に対する理解を深めながら、実際の工夫についての実践的な手だてを身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①発達障害児や気になる子の行動特徴について理解する。 ②それらの行動の意味を考えることができる。 ③その行動の意味に合わせた対応の工夫を考えることができる。 ④実習体験からそれらの行動の意味や対応を考えることができる。				考え抜く力 コミュニケーション技術 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【履修上の注意】 予習課題の励行と事前提出及びグループ討議への積極的参加。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業概要の説明と進め方、評価の方法と履修上の注意点について理解する。			個人
2	発達障害の共通認識	「発達障害」についての理解の歴史の変遷について理解し、現時点での共通理解が持てるようになる。			個人
3	発達障害と幼稚園・保育園	保育現場での発達障害への支援と対応のポイントについて学び理解を深める。			個人
4	気になる子どもたちへの理解と対応	①対応の基本について理解する。②回避感情を持たないこと。③保護者に寄り添う支援について考える。			個人
5	支援目標の設定	①Self-esteemを育てること。②基本的な生活習慣形成の重要性について考える。			個人
6	効果的な支援方法についてⅠ	①行動療法について理解を深める。②SSTについて理解を深める。			グループ
7	効果的な支援方法についてⅡ	①「ほめる」ということについて具体的に理解する。②「説明できる」ようにする。			グループ
8	効果的な支援方法についてⅢ	①ハンドリングについて学ぶ。②ハイタッチについて学ぶ。			グループ
9	関わり方の原則について	①言葉かけの仕方の基本について学ぶ。②「叱る」ということについて理解する。③会話をつなげていく工夫について学ぶ。			グループ
10	言葉以外の関わり方の工夫	いわゆる「視覚支援」について、具体的に理解を深める。			グループ
11	「困った行動」への対応について	①こだわり行動に対する理解と対応について学ぶ。②暴力的な行動に対する理解と対応について学ぶ。			グループ
12	基本的な生活習慣形成の重要性と教え方	①教え方の工夫のポイントについて学ぶ。②「あいさつ7」の重要性について学び、理解を深める。			グループ
13	小学校入学に必要なこと	①小学校入学は人生のゴールではないこと。②発達障害をどう伝えるか。			個人
14	発達障害について願うこと	①「見守り」の有効性と限界。②してはいけないことについての理解について考える。			グループ
15	まとめ	①保育所・幼稚園に望むことについて学び、保育者としての在り方について理解を深める。			グループ
期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 授業への貢献	60% 20%	受講態度 20%
【教科書】	幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応 幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応(役に立つ実践編)				
【参考書】	少年写真新聞社				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業前の予習とその課題の事前提出。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
在宅保育 ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神	
		幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務・保育所(保育士)11年勤務				
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2	
【授業の概要・目的】						
様々な社会的ニーズによって発生してきたベビーシッターの役割を理解する。在宅での保育に必要な技術や安全管理方法を学び、ベビーシッターとして必要とされる専門的な技術を身につける。						
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】		
①在宅保育の意義や役割を理解する。 ②ベビーシッターとして必要な知識、技術を習得することができる。 ③家庭訪問保育の模擬保育実践を通して、ベビーシッターとしての倫理観を学ぶ。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術		
【履修上の注意】全講義を履修後、試験を実施し、保育士資格取得と同時に認定ベビーシッター資格を取得することができます。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1	オリエンテーション	履修上の注意、授業の内容や進め方について理解する。			個人	
2	在宅保育の理解	子ども子育て支援法における保育サービス制度の理解と、その一つである在宅保育の社会的役割について理解する。			個人	
3	ベビーシッターの実際①	ベビーシッターの仕事の流れとその内容を理解する。			個人	
4	ベビーシッターの実際②	ベビーシッターとしてのマナーや基本姿勢を理解する。			個人	
5	ベビーシッター概論①	在宅保育の現状、保育形態の変容と課題について理解する。			個人	
6	ベビーシッター概論②	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育サービスにおける実態と留意点を理解する。			個人	
7	ベビーシッター概論③	グループ保育、学童保育、夜間・宿泊を伴う保育サービスにおける実態と留意点を理解する。			個人	
8	保育マインドと子育て支援	在宅保育における保育の考え方、保育マインドを理解する。家庭のニーズへの理解とカウンセリングマインドを理解する。			個人	
9	在宅保育のリスクマネジメント	在宅保育における事故の発生箇所とその予防策について理解する。			個人	
10	子どもの保健	在宅保育における健康管理に必要な知識と技術について理解する。			個人	
11	子どもの発達	新生児期から学童期の子どもの発達過程と障害について理解する。			個人	
12	子どもの栄養	新生児期から学童期の子どもの栄養と食事の方法、食育について理解する。			個人	
13	ベビーシッターの保育技術①	子どもの発達段階や生活環境に応じた日常生活援助や関わり方について理解する。			グループ	
14	ベビーシッターの保育技術②	子どもの発達段階や生活環境に応じた遊びの援助や関わり方について理解する。			グループ	
15	模擬保育	これまでの学習を活かして、実際に家庭を訪問することを想定してベビーシッターとしての模擬保育を行う。			グループ	
期末試験	筆記試験・実技試験	評価方法	筆記試験	50%	実技試験	50%
【教科書】	家庭訪問保育の理論と実際 第3版(中央法規出版)					
【参考書】	なし					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		既習してきた内容を用いながら、復習を行ってください。				
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育内容演習Ⅰ ※実務経験のある教員による科目		1) 鈴木 恵夏 熊田 桂子			鈴木
		1) 保育園(保育士)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
領域「表現」の内容を理解したうえで、子どもにとっての音や音楽の意義、身体を使った表現遊び、効果的な指導法、知識などを理解し、表現遊びへ展開できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①領域「表現」のねらい及び内容について理解する。				遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
②子どもの表現力を育てるための活動設定や保育者の役割を考え、具体的な保育を設定した指導案を作成することができる。					
③表現活動を通して友達と関わり観察する力や相談する力が身につく。					
④子どもが主体的に遊ぶことができる安全な環境づくりを学ぶ。					
【履修上の注意】表現活動の実践があるため動きやすい服装で参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス 領域「表現について」①		授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 音楽遊びの要素について考える。「表現」を考える。		個人
2	領域「表現について」②		領域「表現」について基本的な考え方を理解する。		個人
3	聴く活動から奏でる活動		環境の中の音を探し、言葉や絵で表してみる。 さらに、イメージした言葉や絵から音で表してみる。		グループ
4	身体表現		音やリズムを感じて、体で表現する。 子どもの歌に合わせて体を動かす。		グループ
5	手作り楽器とわらべうた		身近な材料で楽器を作ってみる。手作り楽器で音を出して、わらべ歌などで遊ぶ。		グループ
6	アンサンブル		リズム楽器による簡単な合奏の作り方を学ぶ。		グループ
7	保育者の役割		表現を育てる保育者の役割を考える。幼児の発達を理解し、音やリズム、音楽遊びを取り入れた指導案の作成をする。		グループ
8	模擬保育		幼児の発達を理解し、音やリズム、音楽遊びを取り入れた指導案による模擬保育の実践と振り返りをする。		グループ
9	身体を使った表現遊び		身体を使った表現遊びの実践を通して、身体表現遊びが十分に楽しめる環境づくりや配慮点について理解する。		グループ
10	素材・廃材を使った表現遊び		身近な素材、廃材を使った表現遊びの実践を通して、子どもたちの発想を大切にしながら遊びの面白さを引き出す技術を身に付ける。		グループ
11	おはなしを楽しむ表現遊び(1)		劇遊びとはどのようなものか、また劇遊びを通じて育まれる力について理解する。		グループ
12	おはなしを楽しむ表現遊び(2)		劇遊びの台本や構成などの演出をグループで話し合い、練習を行なう。		グループ
13	おはなしを楽しむ表現遊び(3)		劇遊びの発表を行なう。また、その振り返りを通して、表現を楽しむことができる環境構成や保育者の援助について理解を深める。		グループ
14	ものを使った表現遊び(1)		ものを使った表現遊びの実践を通して、保育に取り入れる際の保育者の役割や留意点について理解を深める。		グループ
15	ものを使った表現遊び(2)		ものを使った表現遊びの実践を通して、保育に取り入れる際の保育者の役割や留意点について理解を深める。		グループ
期末試験	表現遊びの発表		評価方法	受講態度 50% 課題の達成度 20%	発表会の結果 30%
【教科書】	わくわく音遊びでかんたん発表会-手拍子ゲームから器楽合奏まで(鈴木出版)				
【参考書】	幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) 保育所保育指針(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業内で出た課題は期限までに取り組んでおきましょう。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育内容演習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務・保育所(保育士)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育内容のねらい及び内容を理解し、保育所保育指針に基づいた保育実践力を養う。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①5つの領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)を捉えた、総合的な保育を理解する。 ②保育者の役割や子どもの発達を理解した指導計画案の立案ができる。 ③子どもの姿を感じながら、子どもの心によりそう保育実践力を養う。 ④保育の記録の意義と具体的な記入の方法について理解を深める。				遊びの展開技術 前に踏み出す力 コミュニケーション技術 チームで働く力	
【履修上の注意】常に生活環境に興味関心を向け、主体的に教材研究を行ってください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 保育内容演習Ⅱの意義と方法	授業の目的と内容を理解する。			グループ
2	遊びの援助と展開①	「砂場」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
3	遊びの援助と展開②	「鬼ごっこ」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
4	遊びの援助と展開③	「ごっこ遊び」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
5	遊びの援助と展開④	「積み木」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
6	遊びの援助と展開⑤	「ブロック」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
7	遊びの援助と展開⑥	「製作」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
8	遊びの援助と展開⑦	「運動遊び」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
9	遊びの援助と展開⑧	「ままごと」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
10	遊びの援助と展開⑨	「自然とのかかわり」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。			グループ
11	実習日誌の書き方①	「保育実習Ⅰ」(保育所)の日誌を振り返り「保育実習Ⅱ」の記録の書き方を理解する。			個人
12	実習日誌の書き方②	考察の書き方を理解する。			個人
13	実習日誌の書き方③	考察の書き方を理解する。			個人
14	実習日誌の書き方④	エピソード記録の書き方を理解する。			個人
15	実習日誌の書き方⑤	ドキュメンテーション型日誌の書き方を理解する。			個人
期末試験	課題発表	評価方法	受講態度 授業への貢献	40% 30%	課題の達成度 30%
【教科書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	フォトランゲージで学ぶ(萌文書林)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ボランティア活動を通して子ども理解に繋げる					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実践演習(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂・勝見・1)田母神・矢吹・鈴木			田母神
		1)保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育士養成課程の教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得、形成について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討論、ロールプレイング等の授業方法により、その定着を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーション技術	
②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。					
③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。					
④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。					
⑤自己の課題の把握と今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等の明確にできる。					
【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション 田母神		本科目の目標と計画、担当教員等について理解する。 グループにおける学びあいについて理解する。		個人
2	学級経営について 勝見		学級経営の概要、また学級づくりと担任の役割、様々な問題に対する組織的対応の必要性を理解する。		個人
3	学級経営における保育者の対応について 勝見		学級経営における保育現場での保育者の対応について理解する。		個人
4	事例研究～保育現場での対応～ 勝見		課題のある子どもに対する対応(保護者連携も含め)について理解する。		個人
5	特別支援教育 勝見		特別な支援が必要とする子どもの個別の指導計画と統合保育の課題と展望について理解する。		個人
6	「幼保小連携」への対応と連携 勝見		子どもの生活変化を踏まえた適切な保育の在り方やリスクマネジメントについて理解する。		個人
7	保育設計と模擬保育 勝見		保育指導計画案を作成し、模擬保育をする。		個人
8	保育とは、保育者の仕事とは 田母神		保育者に求められる役割について講義と演習を通して理解する。		グループ
9	保育とは、保育者の仕事とは 田母神		事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
10	保育実践力を育む保育・実践演習 田母神		講義と事例を通して保育実践力を育む必要性について理解する。		グループ
11	保育実践力を育む保育・実践演習 田母神		講義と事例を通して保育実践力を育む必要性について理解する。		グループ
12	保育の場における保育実践力Ⅰ-1 小坂		保育実践の原理について講義を主として理解を深める。		個人
13	保育の場における保育実践力Ⅰ-2 小坂		演習課題を通して理解を深める。		グループ
14	保育の場における保育実践力Ⅱ-1 田母神		事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
15	保育の場における保育実践力Ⅱ-2 田母神		演習課題を通して理解を深める。		グループ
期末試験	原則としてなし。		評価方法	授業への貢献 30% 受講態度 30%	課題の達成度 40%
【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題のある場合の達成			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実践演習(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂・勝見・1)田母神・矢吹・鈴木			田母神
		1)保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
保育士養成課程における教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討議、ロールプレイング等の授業方法により、資質・能力の向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術	
②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。					
③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。					
④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。					
⑤自己の課題の把握と今後に向けてとりむべきこと及びその具体的な手段や方法を明確にできる。					
【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	保育実践力を育む方法と内容 鈴木(恵)		事例研究の方法で各自の事例を記述し、グループで紹介し合う。		グループ
2	保育実践力を育む方法と内容 鈴木(恵)		グループごとに取り上げた事例をグループ討議、発表する。		グループ
3	保育実践力を育む方法と内容 鈴木(恵)		グループごとに取り上げた事例をグループ討議、発表する。		グループ
4	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇 小坂		ロールプレイング・心理劇についての講義と演習。		グループ
5	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇 小坂		演習課題とグループ討議・発表を通して理解を深める。		グループ
6	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇 小坂		事例課題のロールプレイングとグループ討議と発表。		グループ
7	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション 鈴木(恵)		クラス便りに関する演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
8	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション 鈴木(恵)		様々な方法についての演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
9	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション 鈴木(恵)		VTR視聴を通しての演習課題とそのグループ討議・発表を通して理解を深める。		グループ
10	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹		事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
11	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹		事例1についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
12	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹		事例2についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
13	子ども同士のトラブルへの関わり 矢吹		事例3についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
14	子ども同士のトラブルへの関わり 矢吹		事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。		グループ
15	まとめ 田母神		成長し続ける保育士になるために、これからに向けて課題の明確にする。		個人
期末試験	原則としてなし。		評価方法	授業への貢献 30% 受講態度 30%	課題の達成度 40%
【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)				
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題がある場合の達成			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		勝見 恵子			勝見
		保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	20(160)	実習	4

【授業の概要・目的】

保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学びながら、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

- ① 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- ② 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
- ③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- ④ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

【受講して得られる力】

- 発達援助技術
- 生活援助技術
- チームで働く力
- 考え抜く力
- コミュニケーション技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	<b>【保育所における実習の内容】</b> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察その記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育環境 (3) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育過程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理  <b>【居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容】</b> 1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活と流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助とかかわり 3. 養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた対応 (3) 子どもの活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
期末試験		評価方法 課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)・保育所保育指針・保育所保育指針解説(厚生労働省)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 担当教員から指示があります。

【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡
--------------	------	--------	------

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		1) 田母神 知加子・矢吹 ヒロ子・鈴木 恵夏			田母神
		1) 保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びを関連させながら保育実践力を習得する。また附属保育園における実践などを通して学び、実習後は実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実習の意義と目的を理解する。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえながら、保育実践力を培う。 ③保育の観察・記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解を深める。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。				環境構成技術 遊びの展開技術 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】 保育士らしい服装・態度で授業に参加すること。計画的にピアノレッスンや教材作りなど、実習に向けて各自準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	保育実習Ⅱの意義と方法 田母神	「保育実習Ⅰ(保育所)」の自己課題を明確にし「保育実習Ⅱ」の意義と方法を理解する。			個人
2	キッズ東都学園保育園参加実習と振り返り 田母神	学園附属保育園における参加実習を通して保育実践力を身に付ける。			個人
3	保育におけるさまざまな計画(責任) 田母神	総合実習について理解する。			個人
4	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(1) 鈴木	保育実習で見てきた子どもの遊びや生活の様子を振り返り、子どもの姿を具体的に記述する力を身に付ける。			グループ
5	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(2) 鈴木	具体的に記述された子どもの姿を踏まえたねらいの立て方を理解する。			グループ
6	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(3) 鈴木	ねらいが達成できる保育の内容を検討する。			グループ
7	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(4) 鈴木	検討した保育の内容を実践するための指導計画の立案をする。			グループ
8	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(5) 鈴木	作成した指導計画案に基づく模擬保育を行なう。			グループ
9	保育実践力の育成(教材研究)① 矢吹	模擬保育を踏まえ、子どもの姿に応じた教材や援助の工夫について考える。			個人
10	保育実践力の育成(教材研究)② 矢吹	模擬保育の課題を基に指導計画や教材を見直し、より良い保育の構成を検討する。			個人
11	保育実践力の育成(模擬保育)① 矢吹	見直した指導計画及び教材に基づき、改善を意識した模擬保育を実践する。			個人
12	保育実践力の育成(模擬保育)② 矢吹	模擬保育の振り返りを通して自己課題を明確にし、実習に向けた課題を整理する。			個人
13	キッズ東都学園保育園総合実習と振り返り 田母神	学園附属保育園における指導実習を通して保育実践力を身に付ける。			個人
14	実習事前指導 田母神	実習に必要な書類等を準備する。			個人
15	実習事後指導 田母神	実習を通して自己課題を明確化する。			個人
期末試験		評価方法	受講態度 40% 課題の達成度 30%	授業への貢献 30%	
【教科書】	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌文書林) 実習の本(萌文書林) 保育所保育指針(チャイルド社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)				
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		NHKテレビ番組「おかあさんといっしょ」の視聴・保育雑誌の閲覧・シアター製作・ピアノレッスン			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		田母神 知加子			田母神
		保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	10(80)	実習	2

【授業の概要・目的】

今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、保育所に役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの保育や保護者支援についても総合的に学ぶ。また実際に計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。

【学習目標(到達目標)】①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。

②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。

③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。

④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。

⑤保育士の業務内容、職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。

⑥保育士としての自己課題を明確化する。

【受講して得られる力】

発達援助技術

環境構成技術

遊びの展開技術

考え抜く力

チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1.保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となっていく保育 (2)保育所の社会的責任と役割		個人
2	2.観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の記録 (2)保育士等の動きや実際の観察		個人
3	(3)保育所の生活の流れや展開の把握		個人
4	3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2)入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3)地域社会との連携		個人
5	4.指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1)保育過程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価		個人
6	(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価		個人
7	5.保育士の業務と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理		個人
8	6.自己課題の明確化		個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人
期末試験		評価方法 課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
-------	------

【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会) 保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)
-------	--

担当教員から指示があります。

【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡
--------------	------	--------	------

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目		1)小坂 徹・勝見 恵子			小坂
		1)障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術	
【履修上の注意】時間割が変更される場合があるため確認すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	保育実習Ⅰを踏まえた実習Ⅲの目的と内容を理解し、保育実習Ⅲの実習施設を選ぶ。			個人
2	保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと自己の課題の明確化	実習記録、実習先評価を通して保育所実習と共通する部分の自己の課題を明確にする。			個人
3	施設実習での目標と課題の設定	自らのレポート課題を基に、施設実習の目標と課題及び内容について考える。			個人
4	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅰ	同種の実習施設毎に各自の目標と課題について、発表し合い確認する。			グループ
5	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅱ	「福島県保育実習施設」を基に、自らの実習施設について理解を深める。			グループ
6	体験実習の振り返りと施設実習直前指導	放課後デイサービスでの体験学習の振り返りと直前指導。			個人
7	児童期の子どもの理解と配慮Ⅰ	主に学童期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。			個人
8	児童期の子どもの理解と配慮Ⅱ	主に青年期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。			個人
9	発達障害のある児童の理解と配慮	発達障害のある児童への関わりについて理解を深める。			個人
10	個別支援計画の理解	個別支援計画の意義と目的について理解を深める。			グループ
11	家庭支援と地域との連携の理解	子どもの家族への支援の重要性についての理解を深める。			グループ
12	他職種との連携についての理解	施設における多様な専門職の役割と連携について学ぶ。			グループ
13	実習直前指導	実習に向けての準備課題の最終確認を行う。			個人
14	実習事後指導Ⅰ	実習の総括と自己評価について個別的に助言を受ける。			個人
15	実習事後指導Ⅱ	自己の課題についてグループ討議と発表を行い、明確化する。			グループ
期末試験	原則としてなし。	評価方法	受講態度 20% 課題の達成度 30%	レポート 30% 授業への貢献 20%	
【教科書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)		福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会)		
【参考書】	施設実習(北大路書房)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		幼児期以降の子どもの理解を推薦図書や配布物を通して理解を深める。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 徹			小坂
		知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	10(80)	実習	2

**【授業の概要・目的】**

保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解するとともに、保護者支援や家庭支援のための知識、技術、判断力を、実践を通して総合的に学ぶ。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と結びつけながら理解することを目的とする。

**【学習目標(到達目標)】**

- ①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
- ②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援のための知識、技術、判断力を養う。
- ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
- ④保育士としての自己の課題を明確化する。

**【受講して得られる力】**

コミュニケーション技術  
 発達援助技術  
 遊びの展開技術  
 生活援助技術

**【履修上の注意】**

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1.児童福祉施設(保育所以外)もの役割と機能 2.施設における支援の実態 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化		個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験	評価方法	課題の達成度 40%	実習評価 60%
------	------	------------	----------

【教科書】	特になし
-------	------

【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会) 保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)
-------	--

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 担当教員から指示があります。

【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡
--------------	------	--------	------

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉論 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について、現場経験から得た基礎をもとに介護場面における倫理的課題について対応できるための学習をする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①「人間の理解」を深めることができる ②「人間の理解と尊厳」を理解できる ③介護福祉士としての教養力を養うことができる ④介護福祉士としての判断力を養うことができる				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間の尊厳と自立	
【履修上の注意】		対人援助職であることを念頭におき、常に介護現場をイメージしながら授業に臨むこと。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	はじめに	専門職としての介護福祉とは			個人
2	社会と生活	経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化について学ぶ			個人
3	介護福祉と社会福祉	人間を福祉的視点から学ぶ			個人
4	人間の理解と尊厳について	生活支援の意義と目的について学ぶ			個人
5	介護福祉の理解①	介護福祉の基本的な考え方と社会的意義について学ぶ			個人
6	介護福祉の理解②	介護をとらえて人間を理解することの意義を演習から学ぶ			グループ
7	介護福祉の理解③	他者を認めることの重要性について学ぶ			ペア
8	介護福祉の理解④	高齢者の生活から尊厳について考察する			個人
9	介護福祉の理解⑤	障害のある人の生活から自立・自律について考察する			個人
10	介護福祉の理解⑥	子どもの生活から人権(権利)について考察する			個人
11	人間の理解①	自己受容について学ぶ			個人
12	人間の理解②	自己表現について学ぶ			個人
13	人間の理解③	振り返りから自分自身を考察する			個人
14	人間の理解④	振り返りから自分自身を考察する			個人
15	まとめ				
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	60%	
			筆記試験	40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解、 介護福祉用語辞典 7訂				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
安全管理と感染防止 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
看護の臨床経験を生かして、介護を必要とする方の安全を何より優先すべきことを認識し、介護福祉に従事するすべての職員が安全を最優先に考えてその実践を目指す知識、技術、態度を学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①安全な介護を提供することができる ②リスクマネジメントを理解できる ③安全管理・感染防止を実践することができる				考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力 介護の基本	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	安全管理を学ぶ意義	介護における事故をとおして安全を考える ハインリッヒの法則、介護の事故防止			個人
2	介護の質(1)	介護の質とは、介護の質の評価、インフォームドコンセントと自己決定、			個人
3	介護の質(2)	個人情報保護法と介護における個人情報の取り扱いについて理解できる。防げる事故・防ぐべき事故			個人
4	介護の質(3)	介護過誤について理解できる。高齢者虐待と身体拘束ゼロ(転倒転落 出血 骨折 誤嚥窒息 熱傷 溺水)			個人
5	リスクマネジメント(1)	リスクマネジメントとは、リスクマネジメントのプロセスを学ぶ 職員のルール違反をなくす・安全規則			個人
6	リスクマネジメント(2)	インシデントレポートの目的と意義、分析、活用について情報共有			個人
7	リスクマネジメント(3)	介護福祉士の法的責任について(行政処分、民事責任、刑事責任)を学ぶ			個人
8	介護の環境と感染症	介護を必要とする人と感染症について学ぶ			個人
9	施設内感染対策	施設内感染とは、施設内感染予防対策、スタンダード・プリコーションについて理解できる			個人
10	〃	インフルエンザ、MRSA、肺炎 結核 疥癬 等について理解できる			個人
11	〃	食中毒とは、食中毒の原因、ノロウイルス O157 食中毒について感染拡大しないさせない対処方法について理解できる。(嘔吐物・排泄物の処理)			個人
12	〃	〃			個人
13	居宅介護における感染対策	家族間感染の予防、家庭における衛生管理について考える			個人
14	抵抗力を高める感染対策	病原体から身体を守る対策が理解できる			個人
15	まとめ				
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	60%	筆記試験
				40%	
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解します。 介護福祉の専門職としての能力と態度を養うため、理念及び倫理と専門性について学びます。					
【学習目標(到達目標)】 ①介護の理念・倫理を説明できる ②介護福祉士の役割を説明できる ③多職種と連携を図る必要性を説明できる				【受講して得られる力】 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 介護の基本	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	介護論を学ぶ意義、目的を理解する			個人
2	介護の概念	介護の歴史から専門職としての介護福祉士の成り立ちを理解する 求められる介護福祉士像、介護人材の確保対策・役割を理解する			個人
3	介護の概念	社会福祉士及び介護福祉士法の概要を理解する 介護福祉士が守るべき義務規定の意味を理解する			個人
4	介護の概念	職能団体や養成施設協会の働きを理解する 生涯研修や各学会の活動について理解する			個人
5	介護の概念	介護福祉士の理念を理解する 日本介護福祉士倫理綱領を理解する			個人
6	介護を必要とする人との援助関係	暮らしを支援する介護について理解する 他者の尊厳を護り支援できる介護福祉士について理解する			グループ
7	介護を必要とする人との援助関係	自立と自律について学ぶ 自立を支える介護の自己決定や利用者主体について理解する			グループ
8	介護を必要とする人との援助関係	ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する			グループ
9	介護を必要とする人との援助関係	ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点を身につける			グループ
10	介護援助の方法	援助関係を築く基本技術を理解する 傾聴能力・共感的態度を身につける			グループ
11	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する 自立に向けた介護福祉のあり方を理解する			個人
12	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する			グループ
13	介護にかかわる連携	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解する 介護予防の介護福祉士の役割について理解する			個人
14	介護福祉士の健康と安全	健康管理の意義と方法について理解する 介護従事者の健康問題と労働環境について理解する			個人
15	まとめ	介護論Ⅰのまとめ			個人
期末試験	レポート	評価方法	受講態度 レポート	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新 介護福祉養成講座4 介護の基本Ⅱ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護論Ⅱ		相楽 愛美			相楽
※実務経験のある教員の授業科目		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解します。 フォーマル・インフォーマルな支援、地域連携、多職種協働の介護の必要性を学び理解を深めます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護福祉の意義について理解できる ②介護福祉士のサービスについて理解できる ③多職種協働の多職種の専門性や役割を理解し介護を実践できる能力と態度を身につける				コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 介護の基本	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	介護論を学ぶ意義、目的を理解する			個人
2	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の人生の背景を調べる 人の生活について考え、理解する			個人・グループ
3	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の人生背景を理解する 地域特性、人の生活について考え、理解する			個人・グループ
4	介護福祉を必要とする人の暮らし	介護福祉を必要とする人の多様性を理解する 介護福祉職のかかわる高齢者の事例を学ぶ			個人・グループ
5	介護福祉を必要とする人の暮らし	介護福祉を必要とする人の多様性を理解する 介護福祉職のかかわる障害者の事例を学ぶ			個人・グループ
6	フォーマルサービスの提供の場の適正(高齢者)	高齢者のサービスの種類やを知り意義や目的を理解する 各サービスの内容や特徴を知り介護福祉士の役割を理解する			グループ
7	フォーマルサービスの提供の場の適正(障害者)	障害者のサービスの種類を知り意義や目的を理解する 各サービスの内容や特徴を知り介護福祉士の役割を理解する			グループ
8	地域連携 インフォーマルサービス	地域連携の意義と目的について学び、介護福祉を必要とする人の 生活を支える仕組みを理解する			個人
9	福祉の理念	社会福祉・介護福祉の思想・考え方について理解する 人権・差別・生きるについて考える			グループ
10	福祉の理念	社会福祉・介護福祉の思想・考え方について理解する 人権・差別・生きるについて考える			グループ
11	高齢者の尊厳の保持と自立支援	高齢者の尊厳の保持・自立支援について考え、理解する			個人
12	多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の目的と効果について理解する 多職種の機能と役割を理解する			グループ
13	多職種連携・協働の実際	多職種連携・協働の目的と効果について理解する 自立支援介護における多職種連携の実際を理解する			個人
14	福祉とは	人権保障と福祉・介護について考え、理解する			個人
15	まとめ	介護論Ⅱのまとめ			個人
期末 試験	レポート	評価方法	受講態度 レポート	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 最新 介護福祉養成講座4 介護の基本Ⅱ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
対象理解 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護保険制度の改革・医療保険制度の改革にともない介護の対象は、高齢者から身体障害者・精神障害者・知的障害者・認知症の方・終末期にある方など多様になっている。介護を必要とする方に適切なサービスを提供できる基本は対象を適切に理解することにある。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護を個人・家族・地域の視点から介護の役割を説明できる ②高齢者や障害を持って生活する対象を理解する ③介護が必要となる方の特性を理解し適切にサービスを選択できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 介護の基本	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	対象理解を学ぶ意義	介護を必要とする人への援助を理解する			個人
2	介護の対象	介護の対象に係る規定を理解する			個人
3	介護の対象	ICFの考え方を理解する			個人
4	日常生活から見た対象理解	日常生活、介護を必要とする人の生活を理解する			個人
5	日常生活から見た対象理解	介護を必要とする人の生活と介護支援レベルを理解する			個人
6	日常生活から見た対象理解	文化・個別性・多様性を理解する			個人
7	日常生活から見た対象理解	高齢者・障害者と生活障害を理解する			個人
8	健康を維持する側面から	健康の意義・加齢を理解する			個人
9	健康を維持する側面から	高齢者の身体的・心理的・社会的特性を理解する			個人
10	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	高齢者の主な疾患と生活障害を理解する			個人
11	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	障害者の身体的・心理的・社会的特性を理解する			個人
12	動物介在療法の基礎理解と介護現場での活用	高齢者・障害者に対する心理的・身体的効果の学習			個人
13	生活支援における動物介在療法の役割	安全管理・衛生管理・倫理的配慮の理解			個人
14	介護を必要とする人が生活する場	施設に生活する介護を必要とする人・地域で生活する 介護を必要とする人を理解する			個人
15	まとめ				
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	随時提示する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
ボディメカニクス ※実務経験のある教員の授業科目		窪木 守 特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			窪木	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1	
【授業の概要・目的】 介護の基となる、「介護を必要とする方の自立に向けて安全な介護」を提供するために必要な「介護の仕事の女王」を語り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につける。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、臨床経験をもちに「自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得する」。						
【学習目標(到達目標)】 ①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる ②介護従事者が安全な介護を提供するために必要なボディメカニクスを活用できる ③安全に生活するために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる				【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術		
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1	イントロダクション	ボディメカニクスを学ぶ意義、目的を理解する 学習する上でのルール、注意事項を理解する			個人	
2	ボディメカニクス8原則	介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解する 介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する			個人	
3	介護従事者のボディメカニクス	介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を理解する			個人	
4	介護従事者のボディメカニクス	介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解する ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を理解する			個人	
5	自立支援とボディメカニクス	介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解する 介護を提供する際の安全とは、自立支援とは、を学び、ボディメカニクスの重要性を理解する			個人	
6	安全な姿勢とは	介護を必要とする方の「臥位・座位・立位」における安全な姿勢(支持基底面と重心の関係)を理解する 「臥位・座位・立位」における、安全と支持基底面と重心の関係について理解する			個人	
7	自立に向けた介護の技法「寝返る」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解する 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを理解する			個人	
8	自立に向けた介護の技法「寝返る」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解する 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを理解する			個人	
9	自立に向けた介護の技法「起きる」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解する 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を理解する			個人	
10	自立に向けた介護の技法「起きる」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解する 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を理解する			個人	
11	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解する 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を理解する			個人	
12	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解する 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を理解する			個人	
13	自立に向けた介護の技法「歩く」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解する 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を理解する			個人	
14	自立に向けた介護の技法「歩く」	自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解する 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を理解する			個人	
15	まとめ					
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ、最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					
【参考書】	なし					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう(実技練習)				
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
コミュニケーション技術 ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護を必要とする方へのアプローチの方法や技術を理解し実践できるようにする。 対人援助職として必要不可欠な技術を身につける。グループワーク等を展開する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①関係づくりについて理解できる ②介護におけるコミュニケーションの基本を習得できる ③社会とコミュニケーションの意味について考察できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 介護の基本	
【履修上の注意】		積極的に発言しましょう。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と働きについて理解する			個人
2	コミュニケーション技術①	価値観の比較と受容の意味について理解する			個人
3	コミュニケーション技術②	事例検討から受容の実践について理解する			個人
4	コミュニケーション技術③	事例検討から受容の実践について理解する			個人
5	コミュニケーション技術④	事例検討から共感の実践について理解する			個人
6	コミュニケーション技術⑤	事例検討から共感の実践について理解する			個人
7	コミュニケーション技術⑥	客観的な自分について考察する			個人
8	コミュニケーション技術⑦	客観的な自分について考察する			個人
9	コミュニケーション技術の実践①	リフレーミングで思考の変換ができる			グループ
10	コミュニケーション技術の実践②	内発的動機づけと外発的動機づけを理解する			個人
11	コミュニケーション技術の実践③	質問力を磨く ロールプレイを実践する			ペア
12	コミュニケーション技術の実践④	多職種との連携・協働・統合			個人
13	コミュニケーション技術の実践⑤	書く技術、話す技術のまとめ 記録と報告を実践する			個人
14	コミュニケーション技術の実践⑥	書く技術、話す技術のまとめ 記録と報告を実践する			個人
15	まとめ				
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
対人援助技術 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護支援専門員の経験から、介護を必要とする方に応じた、またその家族とのコミュニケーションの方法論を展開する。チームコミュニケーションについて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①障害に応じたコミュニケーションの方法を理解できる ②多職種協働におけるコミュニケーションのあり方について理解できる ③チームケアについて理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】		シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	対人援助技術を学ぶ意義・目的について理解する			個人
2	失語症の方とのコミュニケーション	失語症の方とのコミュニケーションについて理解する			個人
3	構音障害の方とのコミュニケーション	構音障害の方とのコミュニケーションについて理解する			個人
4	視覚障害の方とのコミュニケーション①	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する①			個人
5	視覚障害の方とのコミュニケーション②	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する②			個人
6	視覚障害の方とのコミュニケーション③	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する③			個人
7	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する①			個人
8	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する②			個人
9	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する③			個人
10	知的障害の方とのコミュニケーション	知的障害の方とのコミュニケーションについて理解する			個人
11	精神障害の方とのコミュニケーション	精神障害の方とのコミュニケーションについて理解する			個人
12	チームでのコミュニケーション①	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する①			個人
13	チームでのコミュニケーション②	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する②			個人
14	チームでのコミュニケーション③	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する③			個人
15	まとめ				
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護基礎技術Ⅰ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		窪木 守 特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			窪木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	30(60)	演習	2
【授業の概要・目的】					
介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる ②モデル体験から介護を必要とする方を理解し、そこから介護を必要とする方の自立、自律や尊重を考えることができる ③人間の自然な動きを理解し、寝る、座る、起きる、立つ動作の基本的な介護技術を理解することができる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション①	介護基礎技術を学ぶ意義、目的を理解する 介護技術の意義、目的を知り、学ぶ上でのルール、注意事項を理解する			個人
2	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、知的、心理的状態の観察とアセスメントについて理解する			個人
3	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、社会的側面の観察とアセスメントについて理解する			個人
4	居住環境整備	自立に向けた環境の整備について理解する 居住環境整備の意義と目的について理解する			個人
5	オリエンテーション②	実習室使用にあたっての注意事項について理解する 心構え、身だしなみの重要性について理解する			個人
6	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する 心構え、身だしなみの重要性について理解する			個人
7	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を理解する			個人
8	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解する ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を理解する			個人
9	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する 身だしなみ、着替えの意義、衣類・寝具の清潔管理、プライバシー空間について理解する			個人
10	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する			個人
11	身じたくの介護	ボディメカニクスを活用した椅座位姿勢での着替えの介護技術を理解する			個人
12	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解する ボディメカニクスを活用した臥位姿勢での着替えの介護技術を理解する			個人
13	食事の介護	自立に向けた食事と環境、手洗いの意義、目的を理解する 食事を楽しむための工夫について理解する			個人
14	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 手洗いの意義・目的及び介護技術を理解する			個人
15	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する			個人
期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献 60%	実技試験 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ、最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実技練習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
介護基礎技術Ⅰ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		窪木 守 特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			窪木	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
介護福祉学科	1	前期	30(60)	演習	2	
【授業の概要・目的】 介護の基となる、「介護を必要とする方の自立を促すこと」が主たる介護を提供するための基礎を学びます。小グループワークでは「介護従事者の安全」を確保し、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につけます。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得します。						
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】		
①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる ②介護従事者が安全な介護を提供するために必要なボディメカニクスを活用できる ③安全に生活できるように、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術		
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 臥位姿勢での安全、安楽な食事介護技術を理解する			個人	
2	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解する 口腔ケアの意義目的及び介護技術を理解する			個人	
3	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を理解する			個人	
4	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を理解する			個人	
5	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)			個人	
6	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)			個人	
7	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を理解する(平地、段差、坂道)			個人	
8	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する 排泄とは、排泄の意義、排泄のアセスメント、観察方法、排泄の手段について理解する			個人	
9	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する			個人	
10	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する			個人	
11	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を理解する			個人	
12	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する			個人	
13	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する			個人	
14	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を理解する			個人	
15	まとめ					
期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献 60%	実技試験 40%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ、最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ					
【参考書】	なし					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実技練習をしましょう				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護基礎技術Ⅱ		佐々木 謙太郎			佐々木
※実務経験のある教員の授業科目		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる ②モデル体験から介護を必要とする方を理解できる ③介護を必要とする方の自立、自律や尊重を考えることができる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	排泄の介助(講義・演習)	ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を理解する			個人・グループ
2	排泄の介助(演習)	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を理解する			グループ
3	入浴介護(講義)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する			個人
4	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する			グループ
5	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する			グループ
6	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する			グループ
7	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する			グループ
8	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する			グループ
9	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベッド上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を理解する			グループ
10	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する			グループ
11	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について理解する			グループ
12	睡眠の介護(講義)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 睡眠に関するアセスメントを理解する			個人
13	睡眠の介護(講義・演習)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 安眠を促す介護技術を理解する			個人・グループ
14	総括	介護基礎技術を振り返る			個人
15	まとめ				
期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献 実技試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ、7 生活支援技術Ⅱ、8 生活支援技術Ⅲ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実技練習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護過程理論		窪木 守			窪木
※実務経験のある教員の授業科目		特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
介護過程理論をなぜ学ぶのか、学ぶ必要性和その意義について介護福祉士の観点から考えていきます。介護を必要としているその人を理解するために必要とする情報とは何か。介護実践者として人間理解につながるよう具体的な事例を通して学びを深めます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護過程とはなにか、介護過程の展開方法を理解できる ②介護過程におけるアセスメントを理解し、情報の収集、分析の方法が理解できる ③「ニーズ」とは何かを理解でき、全体的な目標、各課題ごとの達成目標を立てることができる ④介護計画の立案の方法を理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 介護過程	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護過程を学ぶ意義と目的①	介護実践における介護過程とは何か 日常生活に活かせる介護過程①			個人
2	介護過程を学ぶ意義と目的②	介護実践における介護過程とは何か 日常生活に活かせる介護過程②			個人
3	情報収集	日常生活と介護過程 情報を集めるために 個人ワーク グループワーク			個人・グループ
4	情報収集	介護福祉士の情報収集とは 人間理解の視点にたって 発表(意見を出し合う)			個人
5	事例から考える(1)	課題の抽出 問題解決思考 グループワーク			グループ
6	事例から考える(2)	課題の抽出 問題解決思考 事例発表			個人
7	情報の解釈・関連付け・統合化(1)	情報収集から何をどうしていくか 介護過程の基礎的理解 解釈とは 関連付けとは 統合化するとは			個人
8	情報の解釈・関連付け・統合化(2)	事例から 生活理解 人間理解の視点にたって 個人ワーク グループワーク			個人・グループ
9	課題を導き出す(1)	ニーズとは何か ニーズを導き出す根拠とは			個人
10	課題を導き出す(2)	介護計画の立案(作成) 同一事例に取り組む 導き出した根拠や考え方を発表し合う			個人
11	ICFと介護過程(1)	ICFとは何か グループワーク			グループ
12	ICFと介護過程(2)	ICFと全体性について 情報の関連付けを理解する			個人
13	事例から考える(3)	確認試験 事例を考える			個人
14	事例から考える(4)	確認試験 事例を考える 事例発表			個人
15	まとめ				個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	60%	筆記試験
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実践に臨む準備をしましょう			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動機能障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
運動機能障害の原因・症状・生活上の諸問題、原因となる疾患を理解すると共に、運動機能障害をもった方に対する介護過程の展開方法を学習します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①運動機能障害を起こす原因となる疾患を理解できる ②運動機能障害が、どのような身体的・精神的影響を与えるかを理解し、障害を負った方へ個々に合わせた介護技術を学ぶことができる ③運動機能障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点をもって介護過程を展開できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	肢体不自由に応じた介護	肢体不自由とは、肢体不自由について医学的・心理的側面から理解する			個人
2	脊髄損傷に応じた介護	脊髄損傷に応じた介護を理解する			個人
3		脊髄損傷の生活上の困りごと、生活支援について理解する			個人
4	脳性麻痺に応じた介護	脳性麻痺に応じた介護を理解する			個人
5		脳性麻痺の生活上の困りごと、生活支援について理解する			個人
6	脳血管障害に応じた介護	脳血管障害に応じた介護を理解する			個人
7		脳血管障害の生活上の困りごと、生活支援について理解する			個人
8	高次脳機能障害者の介護	高次脳機能障害者の介護を理解できる			個人
9	知的障害者の介護	知的障害者の定義、障害の特性に応じた支援が理解できる			個人
10	精神障害者の介護	精神障害のある人の介護を理解できる			個人
11		精神障害のある人の生活の障害の特徴			個人
12	発達障害者の介護	発達障害のある人の介護を理解できる			個人
13	重症心身障害者の介護	重症心身障害のある人の介護を理解できる			個人
14	運動機能障害者の介護過程	肢体不自由(運動機能障害)者の介護過程が展開できる			個人
15	まとめ				個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	担当教員が指示します				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識、技術、態度について学び、身につける。					
【学習目標(到達目標)】 ①介護実習の意義を説明できる ②利用者がどのような生活をどのような場所で送っているのか理解できる ③介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割を理解できる ④実習に主体的な取り組みができるような姿勢を身につけることができる				【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】		実習要項を熟読し実習の流れを理解する			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	介護実習と総合演習の関係性を知る シラバスについて理解する			個人・ペア・グループ
2	介護実習の意義について	介護実習時の心構えや目的、ねらいを知る 実習時の心構えや、実習の目的・ねらいを理解する			個人・ペア・グループ
3	実習Ⅰ-1について	介護実習時の心構えを知る 実習要項により実習の目的・ねらいを理解する			個人
4	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習の必要性を理解し、実習の意味と重要性を理解する			個人・ペア・グループ
5	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類のサービス内容を理解できる			個人・ペア・グループ
6	報告・連絡・相談・確認	報告・連絡・相談・確認の重要性について学ぶ			個人・ペア・グループ
7	実習の目標設定と実習に必要な書類について	実習の目標の立て方、実習に必要な書類を知り、準備を行う 目標設定の方法、実習に必要な事前書類を理解・準備ができる。			個人・グループ
8	実習記録について	実習記録の意義・重要性を知るとともに記入方法としての留意点を学ぶ 実習ノートの使い方、書き込み手順を事例をもとに記入できる			個人・グループ
9	コミュニケーション	実習時におけるかかわりについて振り返る 対象理解のための信頼関係の築き方について学ぶ			個人・ペア・グループ
10	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける			個人・ペア・グループ
11	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける			個人・ペア・グループ
12	介護福祉士の役割について	介護福祉士の役割を知る 社会福祉の分野で働く専門職員の役割について理解する			個人・ペア・グループ
13	実習反省会・自己評価	実習自己評価、振り返りの実施。礼状の記入方法について 礼状の記入方法を学び、礼状を書くことができる			個人・ペア・グループ
14	実習反省会・自己評価	自己評価、実習の振り返り(レポート)を行うことで自己課題を見つけることができる			個人・ペア・グループ
15	まとめ	プロセスレコードの振り返りを行い、自己課題と観察記録の記入方法が理解できる			個人・ペア・グループ
期末試験	レポート	評価方法	受講態度 レポート	20% 80%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	実習要項				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実習へ臨む準備(予習・復習)			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 実習Ⅰ-1を振り返り、学校生活で学んだ知識・技術・態度・倫理を介護実習施設で体験する。介護を必要とされる方とのかかわりをおして生活の場と個性を理解する。					
【学習目標(到達目標)】 ①利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割を説明できる ②介護実習の意義を理解し、実習に主体的な取り組みができるような態勢をつくること ③実習の事前・実習中・事後において教員や施設職員からスーパービジョン(指導・助言)をうける重要性を認識できる				【受講して得られる力】 生活支援技術 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】		実習要項を熟読し実習の流れを理解する			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護実習の意義と目的について	介護実習の意義と目的。介護実習計画を知る 介護実習の意義と目的を知り、実習計画を理解できる			個人・ペア・グループ
2	実習Ⅰ-2の実習について	介護実習時の心構えを知る。実習の目的・ねらいを知る 実習時の心構えを理解し、実習の目的・ねらいを理解する			個人・ペア・グループ
3	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類のサービス内容を理解する			個人・ペア・グループ
4	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解できる			個人・グループ
5	実習Ⅰ-2の目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験し、介護福祉士の専門性を深めることができる			個人・ペア・グループ
6	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物・課題・記録等の最終確認ができる			個人・ペア・グループ
7	介護過程について	介護過程の展開ができる			個人
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する			個人・ペア・グループ
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する			個人・ペア・グループ
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る			個人・ペア・グループ
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る			個人・ペア・グループ
12	実習振り返り・自己評価	アセスメント分析と評価ができる			個人・ペア・グループ
13	実習振り返り・自己評価	アセスメントのまとめ			個人・ペア・グループ
14	実習反省会・自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化ができる			個人・ペア・グループ
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施ができる			個人
期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度 レポート	30% 70%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	実習要項				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実習へ臨む準備(予習・復習)			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅰ-1		佐々木 謙太郎			佐々木
※実務経験のある教員の授業科目		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	40時間	実習	1
【授業の概要・目的】					
実習Ⅰ-1では介護を必要とされる方、一人ひとりを理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とされる方とのコミュニケーションの実践から介護福祉士の役割について理解できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活支援とは何か理解できる ②訪問介護事業所における介護を必要とする方を理解できる ③通所介護事業所における介護を必要とする方を理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護実習施設・事業所に区分される施設、事業所における学外実習(介護福祉学科教員)	学習の主題： 高齢者・障害者にかかわる施設・事業所について理解し介護を必要とする方の生活を理解する 学習課題： ①施設・事業所の見学、オリエンテーションで説明を受ける ②介護を必要とする方々とコミュニケーションを図る ③実習指導者及び施設職員指導のもと、日常生活支援を見学、一部を体験する			個人又はグループ
2					個人又はグループ
3					個人又はグループ
4					個人又はグループ
5					個人又はグループ
6					個人又はグループ
7					個人又はグループ
8					個人又はグループ
9					個人又はグループ
10					個人又はグループ
11					個人又はグループ
12					個人又はグループ
13					個人又はグループ
14					個人又はグループ
15					個人又はグループ
期末試験		評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		担当教員より指示があります			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習1-2		佐々木 謙太郎			佐々木
※実務経験のある教員の授業科目		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	160時間	実習	4
【授業の概要・目的】					
実習1-2では介護を必要とする方、個々を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とする方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認し、介護福祉士の役割について理解する実習とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①地域における高齢者や障害者の生活を知り、様々な介護を必要とする方の実際を理解できる				前に踏み出す力	
②介護を必要とする方、一人ひとりの生活リズムや個性を理解できる				チームで働く力	
③介護を必要とする方の生活上のニーズについて理解できる				考え抜く力	
				生活支援技術	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護実習施設・事業所に区分される施設、事業所における学外実習(介護福祉学科教員)	学習の主題： ①介護を必要とする方が生活をする場について学ぶ ②様々な場所で生活している介護を必要としている方の生活を理解する ③介護を必要とする方とのかかわりをおして個性を知る ④介護を必要とする方が生活している場所での介護職の役割を学ぶ ⑤実習指導者及び施設職員とともに基本的な介護技術を体験する ⑥対象者を選定し日常生活支援等のかかわりをおして得た情報を整理し全体像を把握できる 学習課題： ①介護を必要とする方の様々な生活を理解する ②実習施設の概要、役割とその地域の特色を理解する ③日常生活支援の年間プログラムについて考察する ④介護を必要とする方とのかかわり、個性を理解する ⑤他者とのかかわりを客観的に考察する			個人又はグループ
2					個人又はグループ
3					個人又はグループ
4					個人又はグループ
5					個人又はグループ
6					個人又はグループ
7					個人又はグループ
8					個人又はグループ
9					個人又はグループ
10					個人又はグループ
11					個人又はグループ
12					個人又はグループ
13					個人又はグループ
14					個人又はグループ
15					個人又はグループ
期末試験		評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		担当教員より指示があります			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学		十文字 雄一			星
※実務経験のある教員の授業科目		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】 高齢者で介護を必要とする人の理解を深めるため、高齢者の特徴、老化に伴う心身の変化、高齢者に多い疾患について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】 ① 老化の特徴について説明できる ② 老化に伴う心身の変化とADLへの影響について説明できる ③ 高齢者における症候の特徴について説明できる ④ 高齢者に多い疾患とその症状について説明できる ⑤ 高齢者に多い疾患の生活上の留意点について説明できる					【受講して得られる力】 発達と老化の理解
【履修上の注意】		教科書、配布資料を持参すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老年期および高齢者の疾患の特徴	老化と高齢者の特徴を学び、その内容を理解する 老化と高齢者の特徴を説明できる			個人・グループ
2	老化に伴う身体的変化	加齢に伴う身体機能の変化を学び、ADLへの影響を理解する 身体的に低下する機能を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
3	老化に伴う心理的变化	加齢に伴う心理的な変化を学び、ADLへの影響を理解する 認知面で低下する機能を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
4	骨格系・筋系の疾患と症状	骨格系・筋系の主な疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
5	脳・神経系の疾患と症状	脳血管疾患とパーキンソン病について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
6	皮膚・感覚系の疾患と症状	目・耳・皮膚の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
7	循環器系の疾患と症状	高血圧・心疾患・四肢の血流障害について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
8	呼吸器系の疾患と症状	気管支・肺の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
9	消化器系の疾患と症状	消化器・肝臓の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
10	腎・泌尿器系の疾患と症状	腎・尿路、前立腺の疾患について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
11	内分泌・代謝系の疾患と症状	糖尿病、脂質異常症、痛風について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
12	歯・口腔の疾患と症状	虫歯、歯周病、ドライマウスについて学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
13	悪性新生物と症状	がんについて学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
14	感染症と症状	インフルエンザ、感染性胃腸炎について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
15	精神疾患と症状	うつ病、統合失調症について学ぶ 疾患の特徴を挙げ、ADLへの影響について説明できる			個人・グループ
期末試験	実施しない。	評価方法	レポート 小テスト	20% 80%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解				
【参考書】	特に指定しない				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業のテーマについて、①教科書を読んでおく(予習)、②要点をまとめる			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
高齢者の介護 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 高齢者における身体的特徴としての加齢の変化、精神的変化としての社会的・家族的役割を理解するとともに、高齢者の日常生活について展開方法を理解する。					
【学習目標(到達目標)】 ①高齢者のこころとからだの特性を理解することができる ②高齢者の特性に合わせた介護の知識・援助技法を習得できる ③高齢者特有の行動様式に対応する介護のあり方を理解できる ④基礎知識を具体的な事例を通して活用できる				【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 発達と老化の理解	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 高齢者とは、加齢による変化についての定義を理解する			個人・ペア・グループ
2	高齢者の介護について(演習)	高齢者の基本的理解 高齢者疑似体験：体験をとおして高齢者の身体の特徴を理解する			個人・ペア・グループ
3	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 加齢による身体的変化と対処法を理解する			個人
4	高齢者の介護について	情緒的反応から生ずる介護上の諸問題 情緒的反応の理解をすると共に対応法を理解する			個人・ペア・グループ
5	高齢者の介護について	高齢者への対応 情緒的反応から生ずる介護上の諸問題について理解する			個人
6	高齢者の介護について	高齢者・障害者等の家族の理解 家族形態別にみた生活障害と介護について説明できる			個人
7	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 介護が必要となる高齢者の要因を理解する			個人・グループ
8	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 廃用症候群、障害老人の日常生活自立度について理解する			個人・ペア
9	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の全身の身体への影響を理解する			個人・グループ
10	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の、精神的影響を理解する			個人
11	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する 嚥下のメカニズムの理解と口腔衛生の必要性について理解する			個人・ペア・グループ
12	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する。事例演習：嚥下しやすい食品と嚥下しにくい食品の食事介助の方法を理解する			個人・ペア・グループ
13	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用する			個人・ペア・グループ
14	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用する			個人・ペア・グループ
15	まとめ	高齢者の介護のまとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	担当教員が指示します				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
認知症の理解 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 認知症高齢者の方の増加に伴い、介護の役割が増大しています。認知症高齢者の介護を行う基礎である医学的背景及び行動を理解できる基礎知識を習得します。					
【学習目標(到達目標)】 ①認知症高齢者をおかれている現状について理解する ②中核症状・周辺症状(BPSD)について基礎知識を習得する ③脳の医学的知識から心身に及ぼす影響を理解する ④基礎知識を具体的な事例を通して活用できる				【受講して得られる力】 認知症の理解 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】		主体的、対話的に学び合しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	認知症の定義、基礎知識について理解する 認知症介護の意義及び目的について学ぶ			個人・ペア・グループ
2	認知症のケアと理念	認知症ケアの歴史・理念を理解する 認知症の現状と今後、新オレンジプラン、虐待防止法について学ぶ			個人・ペア・グループ
3	認知症の医学・心理学的背景	脳のしくみについて説明できる 記憶とコミュニケーションについて理解する			個人
4	認知症の医学・心理学的背景	認知症の中核症状について理解する			個人・グループ
5	認知症の医学・心理学的背景	認知症の周辺症状、BPSDの行動・心理症状について説明できる 認知症の評価尺度(観察法と検査法)について理解する			個人・ペア・グループ
6	認知症の医学・心理学的背景	老化のしくみと脳の変化について理解する 認知症と類似したせん妄、うつ症状について学ぶ			個人
7	認知症の医学・心理学的背景	認知症の原因疾患について理解する 認知症の原因疾患へのかかわりについて学ぶ			個人・グループ
8	認知症の医学・心理学的背景	認知症の治療・治療薬について理解する 認知症の予防、対策について学ぶ			個人・ペア
9	認知症の人の心理的理解	認知症の人の心理を考える 認知症の人の心理的理解(相手の気持ちを体験・ロールプレイング)			個人・ペア・グループ
10	認知症の人の体験の理解	認知症の人の体験について知る どのような介護を必要としているのかについて理解する			個人・ペア・グループ
11	認知症の人の体験の理解	認知症の人の疑似体験 言語だけでなく、非言語で表される表現理解を理解する			個人・ペア・グループ
12	認知症の人の生活理解	認知機能の変化が生活に影響を及ぼす影響について理解する 環境を整えることについて学ぶ			個人
13	認知症の人の生活理解	認知症の症状と環境との関係について理解する 物理的・社会的環境の効果について学ぶ			個人
14	認知症の人の生活理解	生活を構成する要素について理解する 生活課題について学ぶ			個人・グループ
15	まとめ	認知症の理解のまとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
認知症の介護 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができる介護を考えてみましょう。なじみの環境や生活と時代背景を理解し、介護関係を築けるかかわりを習得する。					
【学習目標(到達目標)】 ①認知症高齢者の介護の原則を説明できる ②認知症高齢者への具体的な支援方法を実践できる ③認知症高齢者の生活環境調整の基本を理解する ④住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域の資源と活用方法を理解する				【受講して得られる力】 認知症の理解 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】		主体的、対話的に学び合しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	認知症の介護を学ぶ意義について理解する かかわりの基本、自己覚知の必要性について理解する			個人・ペア・グループ
2	認知症の人に対する介護	認知症高齢者の人とのコミュニケーション 日常生活活動の観察と感情機能の観察について学ぶ			個人・ペア・グループ
3	認知症の人に対する介護	認知症の人へのかかわり方、情報収集について理解する 認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を活用し学ぶ			個人・ペア・グループ
4	認知症の人に対する介護	コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する			個人・ペア・グループ
5	認知症の人の介護過程	パーソン・センタード・ケアについて 認知症の人の心理的ニーズについて学ぶ			個人・ペア
6	認知症高齢者と介護関係	ユマニチュードについて コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する			個人・ペア・グループ
7	認知症高齢者と介護関係	ユマニチュードについて コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する			個人・グループ
8	認知症高齢者と介護関係	認知症ケアの実践について説明できる			個人・ペア・グループ
9	認知症高齢者と介護関係	地域や家庭でどのようにすれば認知症の人の思いを汲み取れるのか理解する			個人
10	認知症の進行に応じた介護	認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化を理解する 身体・心理・行動の変化に対するかかわりについて説明する			個人
11	地域におけるサポート体制	地域のサポート体制について理解する 地域におけるサポート体制の実践を学ぶ			個人
12	家族の力を生かす	家族を含めた「地域との協働について」 家族のレスパイトケアとエンパワメントについて理解する			個人・グループ
13	ケアの実践	「その人らしい生活」を実践するアセスメント 事例で学ぶ訪問介護計画書の作り方を理解する			個人
14	ケアの実践	「その人らしい生活」を実践するアセスメント 事例で学ぶ訪問介護計画書の作り方を理解する			個人・グループ
15	まとめ	認知症の介護のまとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会保障論 ※実務経験のある教員の授業科目		窪木 守			窪木
		特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
社会保障の理念、内容、仕組み、その発展に至る経緯や歴史を理解し、専門知識として活用できる					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①わが国の社会保障の理念、内容、仕組みについて理解できる ②介護保険制度、生活保護制度、公的年金制度等の内容を理解し、社会保障の重要性を説明できる ③社会保障と福祉の役割、機能について理解できる				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 社会の理解	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	わが国の社会保障制度の概要	社会保障制度の成り立ちを理解する 変化するライフサイクル			個人
2	社会保障制度の変遷	戦前・戦後の社会保障の変容について理解する 少子高齢社会にふさわしい社会保障			個人
3	わが国の社会保障を取り巻く環境	社会構造の変化と社会保障の関係性を理解する 社会保障構造改革			個人
4	社会福祉基礎構造改革	社会福祉基礎構造改革の基本的理念を理解する 利用者の立場に立った社会福祉制度の確立			個人
5	生活保護制度	生活保護制度の成り立ちを理解する 最低生活費の保証			個人
6	介護保険制度①	介護保険制度創設のねらいを理解する 介護保険法の目的と基本的理念			個人
7	介護保険制度②	介護保険制度の概要を理解する 介護給付と予防給付			個人
8	公的年金制度①	公的年金制度体系と役割について理解する 公的年金制度の仕組みと給付			個人
9	公的年金制度②	年金制度改正の経緯を理解する 年金改正の基本的考え方			個人
10	老人保健制度	高齢者保健福祉施策の方向性について理解する 高齢者の生きがいと環境づくり			個人
11	保健医療	医療需要の変化について理解する 医療保険制度の概要			個人
12	障害者福祉施策①	障害者に対する年金・手当について理解する 障害者に対する年金・手当制度の理解			個人
13	障害者福祉施策②	障害者と雇用・就労について理解する 障害者福祉における就労支援システム			個人
14	児童に関する社会保障	児童に関する手当について理解する 母子保健対策			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 30% 受講態度 30%	筆記試験 40%	
【教科書】	適宜資料を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		反復学習することが望ましい			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
福祉社会学 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
ライフサイクルに起因する諸問題に対応すべき社会福祉や社会政策について、その現状や課題を考察する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会問題に関心を持ち、その諸要因について考察できる ②社会問題と社会福祉の関連性について理解し、社会福祉の支援について理解できる ③社会福祉の問題を社会学の視点から考察できる				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】		過去及び現代の社会問題と、その要因や背景について関心を持って考えること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	現代の社会福祉とは(福祉と社会の関係性) 福祉を取り巻く社会環境について学ぶ			個人
2	社会福祉と社会学	学問としても社会福祉 社会福祉学と社会学の概念枠組みについて理解できる			個人
3	社会と家族①	高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ			個人
4	社会と家族②	日本における社会と家族について学ぶ 社会と家族について事例を通して考察する			個人
5	高齢社会と介護	高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ			個人
6	福祉先進国の福祉	スウェーデンにおける福祉社会 制度的概念、スウェーデンの福祉について学ぶ			個人
7	地方分権	都市と地域 都市部・農村部における社会福祉について学ぶ			個人
8	今日の社会福祉の捉え方	福祉ミックス論 市場と民間・インフォーマルな社会福祉について理解できる			個人
9	女性問題と社会福祉	女性の社会進出とその背景 社会的ジェンダー問題について学ぶ			個人
10	児童問題と社会福祉	児童を取り巻く社会環境と社会福祉 児童を取り巻く諸問題と権利擁護について理解できる			個人
11	社会問題と社会福祉①	社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する			個人
12	社会問題と社会福祉②	社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する			個人
13	社会問題と社会福祉③	社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する			個人
14	社会問題と社会福祉④	社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する			個人
15	まとめ	福祉社会学のまとめ			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	担当教員が指示します				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間関係とコミュニケーション(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎 通所介護等(介護福祉士)7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】 社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解します そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめていきます					
【学習目標(到達目標)】 ①「自立性」と「自律性」について理解する ②「自己覚知」を理解する ③「人間関係の形成」「対人援助の重要性」を理解する				【受講して得られる力】 考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間関係とコミュニケーション	
【履修上の注意】		主体的に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解します			個人
2	専門対人援助関係の形成①	専門性の構造とその要素について 「福祉倫理」「専門知識」「専門技術」について理解します			個人
3	専門対人援助関係の形成②	専門職としての主体性について 自己覚知の一環として、福祉職としての適性を理解します			個人
4	動物介在療法①	ホースセラピーについて 専門職としての関わり方を理解します			個人
5	動物介在療法②	ホースセラピーについて 言語以外でのコミュニケーションについて理解します			個人
6	社会福祉援助活動の基本的枠組み	社会福祉援助技術について 社会福祉援助技術の体系と種類について理解します			個人
7	直接援助技術①	ケースワークについて ケースワークの沿革と基礎理論について理解します			個人
8	直接援助技術②	ケースワークについて バイステックの7原則について理解します			個人
9	直接援助技術③	ケースワークについて バイステックの7原則について理解します			個人
10	直接援助技術④	ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解します			個人
11	直接援助技術⑤	グループワークについて グループワークの沿革と基礎理論について理解します			個人
12	直接援助技術⑥	グループワークについて グループワークの基本原則と構造について理解します			個人
13	直接援助技術⑦	グループワークについて グループワークの展開過程について理解します			個人
14	直接援助技術⑧	記録について 記録・スーパービジョンについて理解します			個人
15	まとめ	人間関係とコミュニケーションについて			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 レポート	60% 40%	
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間関係とコミュニケーション(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎 通所介護等(介護福祉士)7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】 社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解します そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめていきます					
【学習目標(到達目標)】 ①「自立性」と「自律性」について理解する ②「自己覚知」を理解する ③「人間関係の形成」「対人援助の重要性」を理解する				【受講して得られる力】 考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間関係とコミュニケーション	
【履修上の注意】		主体的に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解します			個人
2	いろいろな社会福祉援助①	自己覚知 自分の価値観について知る			個人
3	いろいろな社会福祉援助②	他者理解 自分の価値観と相手の価値観を比較する			個人
4	いろいろな社会福祉援助③	チームワーク 「協働」をする意義			個人
5	コミュニケーション①	コミュニケーション 効果的なコミュニケーションについて理解する①			個人
6	コミュニケーション②	コミュニケーション 効果的なコミュニケーションについて理解する②			個人
7	利用者理解①	受容と傾聴 受容と傾聴の意味を理解する			個人
8	利用者理解②	自分の考えを相手に伝える 事例を通して判断力を養う			個人
9	利用者理解③	利用者理解 ストレングス視点の考え方と方法を学ぶ			個人
10	利用者理解④	利用者理解 エコロジカル視点の考え方と方法を学ぶ			個人
11	社会福祉支援の方法①	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す			個人
12	社会福祉支援の方法②	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す			個人
13	社会福祉支援の方法③	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す			個人
14	自立と依存	自立(自律)と依存 自立(自律)と依存の意味と関係について考察する			個人
15	まとめ	人間関係とコミュニケーションについて			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 レポート	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう。			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ケアマネジメント論 ※実務経験のある教員の授業科目		窪木 守			窪木
		特別養護老人ホーム(介護福祉士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 ケアマネジメントの主体隊について説明できるようにするために、ケアマネジメントの理念の目的のケアマネジャーについて学びます。 福祉専門職・他の専門職との連携の必要性と現状について理解し、ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割についても説明できるようにします。					
【学習目標(到達目標)】 ①基礎理論について理解できる ②演習をとおしてアセスメントの理解を深める ③ケアマネジメントとは何か理解できる				【受講して得られる力】 考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 介護の基本	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ケアマネジメントの概要について	ケアマネジメントの起こり、必要性、目的と焦点について ケアマネジメントの概要について理解できます			個人
2	ケアマネジメントの構造について	ケアマネジメントの定義と構成要素について ケアマネジメントの構造について理解できます			個人
3	ケアマネジメントの過程について	入口から監視及びフォローアップまでの一連の過程について ケアマネジメントの過程について理解できます			個人
4	生活ニーズと社会資源①	ケアマネジャーについて ケアマネジャーとして求められる姿勢、知識、技術について学びます			個人
5	生活ニーズと社会資源②	社会資源について 社会資源の類型と内容について理解できます			個人
6	生活ニーズと社会資源③	ICFについて 介護計画作成の基本について理解できます			個人
7	アセスメント①	アセスメントの目的、段階、情報収集、具体的な項目について アセスメントについて理解できます			個人
8	アセスメント②	アセスメントの実際について 事例を通してアセスメントの実際について理解できます			個人
9	介護サービスの概要 (介護保険のサービスの種類)	介護保険のサービスの種類について 介護保険制度の下における介護について理解できます			個人
10	介護サービスの概要 (組織・団体の役割)	介護保険制度における組織・団体の役割について 国・都道府県・市町村の役割について学びます			個人
11	介護サービスの概要 (介護サービス提供の場の特性)	生活の特性について 地域(居宅・施設)の特性について学びます			個人
12	介護福祉士とケアマネジメント①	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を理解できます			個人
13	介護福祉士とケアマネジメント②	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を説明できます			個人
14	介護福祉士とケアマネジメント③	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を説明できます			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	担当教員が指示します				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
看取りのケアとグリーフケア ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
看取りの場は、看取るものにとっても看取られるものにも生老病死の意味を確かめ、限りあるいのちをみつめる機会でもある、終末期のさまざまな変化を理解し、対応できる介護力と、死別後のグリーフケアを学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①終末期にある人の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛について理解する ②家族も介護の対象としてとらえることができる ③死生観をみつめ直す				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	看取りのケアを学ぶ意義	終末期ケア、ターミナルケア、エンドオブライフケア 日本の看取りの文化を知る、本人・家族の望むケア			個人
2	人生の最終段階に関する死のとらえ方	高齢者の生物学的な死、法的なケア、臨床的なケア 加齢に伴う自然な死の理解			個人
3	終末期にある人の援助と介護の役割	看取りに関わる人の価値観、終末期のアセスメント ターミナルケアのポイント			個人
4	人生最終段階における医療・ケアのあり方	症状コントロール、コミュニケーション、医療とケアの話し合いのプロセス 家族への援助			個人
5	死に対するこころの理解	介護者の負担軽減・精神的サポート 死生観、死の受容プロセス、グリーフケア			個人
6	終末期から危篤状態	身体機能の特徴・臨終期の対応			個人
7	死後のからだの理解	死後の体の変化、バイタルサインの変化、死後の連絡			個人
8	死の受容を考える(1)	映像資料を見てかかわり方についてグループワーク			個人
9	死の受容を考える(2)	緩和ケア病棟の日常の映像資料をみて理解する			個人
10	終末期における医療職との連携	呼吸困難時、人工呼吸器装着、在宅酸素、痰の吸引、疼痛緩和			個人
11	多職種連携	デスカンファレンス、終末期における多職種の役割			個人
12	看取りの心得と作法	エンゼルケア映像資料を視聴し理解する			個人
13	グリーフケア	遺された家族の悲嘆へのケア			個人
14	葬送儀礼	死後の処置時の儀礼的行為・宗教別儀礼の心得と作法・死にともなう手続き			個人
15	まとめ	災害時の避難所高齢者の生きるについて映像資料を視聴し理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
機能の維持及び回復 ※実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			佐藤(篤)
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護福祉士は常に自立支援を考え援助を行います。この科目ではリハビリテーション医療の基本的な知識・技術を、学びます。自立支援の観点から、機能を維持及び回復の具体的な支援方法を演習を中心に展開します					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活援助とは何か理解できる ②機能維持について理解できる ③回復とは何か理解できる				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		実技を実施する場合があります。動きやすく清潔な服装で臨んでください。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	「機能維持及び回復」について	「機能維持及び回復」を学ぶ意義を理解する 人体の構造を理解し残存能力とは何かを知る			個人
2	「機能維持及び回復」と介護福祉士①	介護福祉士とリハビリテーション専門職の連携について理解する チームワークの原点に焦点をあてて、それぞれの役割について理解する			個人
3	「機能維持及び回復」と介護福祉士②	介護福祉士とリハビリテーション専門職の連携について理解する チームワークの原点に焦点をあてて、それぞれの役割について理解する			グループワーク
4	機能の評価について	介護福祉士ができる機能の評価について知る 関節可動域の検査等の評価について学ぶ			個人
5	運動療法①(演習)	介護福祉士ができる運動療法を知る ROM訓練、関節可動域テストとストレッチの実技を行う			ペアまたはグループ
6	運動療法②(演習)	介護福祉士ができる運動療法を知る 筋力増強訓練、筋力強化・持久力増強の理論と実際			ペアまたはグループ
7	運動療法③(演習)	介護福祉士ができるバランス運動療法を学ぶ バランス訓練などの実技を行う			ペアまたはグループ
8	物理療法①	物理療法について理解できる 物理療法の目的・各種療法について学ぶ			個人
9	物理療法②(演習)	物理療法の実際を学ぶ 温熱・寒冷療法を体験し学ぶ			ペアまたはグループ
10	物理療法③(演習)	物理療法の実際を学ぶ 電気・光線療法を体験し学ぶ			ペアまたはグループ
11	慢性呼吸器疾患に対して	慢性呼吸器疾患に対する理学療法の実際を学ぶ 慢性呼吸器疾患に対する呼吸法・体位・肺痰法			個人
12	日常生活活動訓練①(演習)	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「立つ」・「座る」の動作訓練、バランス訓練、介護のポイント			ペアまたはグループ
13	日常生活活動訓練②(演習)	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「起きる」の動作訓練、介護のポイント			ペアまたはグループ
14	日常生活活動訓練③(演習)	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「歩く」の動作訓練			ペアまたはグループ
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末試験	実施しない。	評価方法	課題の達成度 レポート	20% 80%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座11 ところとからだのしくみ				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		配布資料を中心に復習を行ってください。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉研究方法 ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護福祉研究において、最も必要な問題意識を高める方法を習得するために、問題を整理しまとめる力を身につけ、あわせて介護に関する研究を社会的、心理的、身体的な側面から整理できる方法を身につける。さらに、問題を全体的に考察する方法を習得する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 介護福祉士に必要な研究方法を理解できる ② 実習等の事例から介護を必要とする方の自律に向けた援助方法を評価・考察より理解できる ③ 知識・理論・実践を融合させていくことができる				前に踏み出す力 課題発見力 創造力 計画力	
【履修上の注意】		主体的に参加しましょう。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護福祉研究方法の理解	介護福祉研究の意義 研究するということ 問題意識の発掘 レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			個人
2	研究との出会い①	日常生活からの気づきを形にする レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			個人
3	研究との出会い②	自分と語り合う 書くということ 共同研究 文献研究			個人
4	研究との出会い③	プレゼンテーションの準備 研究の出発点 気づき 関心 疑問をもつ			個人
5	研究計画書をつくってみよう①	研究テーマを考える アイデアを形にする 仮説 アウトラインを描く マインドマップ			個人
6	研究計画書をつくってみよう②	研究計画書作成 研究方法			個人
7	研究計画書をつくってみよう③	研究テーマ発表 振り返り			個人
8	事例研究①	自分でテーマを決めて書いてみよう 研究計画書(研究過程)			個人
9	事例研究②	論文筆記のルール 用語の定義 注記 引用文献 参考文献			個人
10	事例検討①	事例① 個人ワーク グループワーク 振り返り			グループ
11	事例検討②	事例② 意見交換			グループ
12	事例研究③	事例③ 個人ワーク グループワーク 振り返り			グループ
13	事例研究④	事例研究 ロールプレイ 個人ワーク グループワーク 振り返り			グループ
14	まとめ①	研究発表			個人
15	まとめ②	学習の振り返り			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 レポート	60% 40%	
【教科書】	なし				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内部障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
内部障害者における医療領域の理解と、医療機器の取り扱い方法を学習する。日常生活において内部障害をもつ人の生活を理解し、どのように介護福祉士が介護過程を展開していく必要があるのかを考え、実践できる知識、技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な援助技術の習得、医療との連携方法を理解できる ②内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる ③家族への支援方法を理解できる				生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 介護過程	
【履修上の注意】		主体的に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生活習慣病者の介護	生活習慣病の介護を理解できる 生活習慣病による障害の原因症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
2	心臓機能障害に応じた介護	心臓機能障害者の介護を理解できる 心臓機能障害者による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
3	心臓機能障害に応じた介護	心臓機能障害者のアセスメントを知る(健康状態の観察方法等) 心臓機能障害者の介護を理解できる生活場面での介護技術を学ぶ(ペースメーカー装着者等)			個人
4	呼吸機能障害に応じた介護	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
5	呼吸機能障害に応じた介護	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者の生活を理解する(吸引法)について			個人
6	腎機能障害に応じた介護	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
7	腎機能障害に応じた介護	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害者の生活を理解する			個人
8	膀胱、直腸機能障害に応じた介護	膀胱・直腸機能障害者の介護を理解する 膀胱・直腸機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
9	小腸機能障害に応じた介護	小腸機能障害者の介護を理解する 小腸機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
10	HIVによる免疫機能障害に応じた介護	HIVによる免疫機能障害について医学的・心理的側面から理解する 障害の原因、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
11	肝臓機能障害に応じた介護	肝臓機能障害者の介護を理解する 肝臓機能障害による障害の原因、主な症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
12	難病のある人の介護	難病のある人の生活を理解する 難病のある人の特性に応じた症状、生活の諸問題を学ぶ			個人
13	難病のある人の介護	難病のある人の特性に応じた生活支援について学ぶ			個人
14	連携と協働	地域のサポート体制について理解する チームアプローチ、チームづくりの方法等について学ぶ			個人
15	家族の支援	障害のある人の家族への支援について理解する 家族の介護力の評価と介護負担の軽減について学ぶ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術III			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
視覚・聴覚障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 視覚・聴覚障害者の原因・症状・生活上の問題、原因となる疾患を理解し、視覚・聴覚障害者の方に対する介護過程の展開方法について学習します					
【学習目標(到達目標)】 ①視覚・聴覚障害を起す原因となる疾患を理解する ②視覚・聴覚障害が身体的・精神的影響を与えるかを理解し個々に応じた介護技術ができる ③視覚・聴覚障害をもった方の生活の特性を理解する ④障害の特性に応じ、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる				【受講して得られる力】 介護過程 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】		主体的に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	視覚・聴覚の基礎知識を理解する 視覚・聴覚障害者の介護過程を学ぶ意義、目的を理解する			個人・ペア・グループ
2	視覚障害者の介護	視覚障害の関連医学領域の基礎知識を理解する 視覚障害者の主な眼疾患、眼の構造と機能について説明できる			個人
3	視覚障害者の介護 (演習)	視覚障害者の生活を理解する 視覚障害を体験し、介護の留意点について理解する			個人・ペア・グループ
4	視覚障害者の介護 (演習)	視覚障害者の生活の理解 視覚障害者体験：白杖使用の方法を理解する			個人・ペア・グループ
5	視覚障害者の介護 (演習)	視覚障害者の生活の理解 体験：食事介助から障害者の理解と介護の方法を身に付ける			個人・ペア・グループ
6	視覚障害者の介護	先天性・後天性の視覚障害者の心理的プロセスを理解する 中途視覚障害者の心理的理解について学ぶ			個人
7	視覚障害者の介護	視覚障害者の介護過程について学ぶ			個人・グループ
8	聴覚障害者の介護	聴覚障害関連医学領域の基礎知識、耳の構造と機能について理解する。聴覚障害者のコミュニケーション手段について学ぶ			個人・ペア・グループ
9	聴覚障害者の介護	聴覚障害者の生活を理解する 聴覚障害者の生活の実施を学ぶ			個人・ペア・グループ
10	言語障害者の介護	言語障害と関連医学領域の基礎知識、音声器官の構造と機能について理解する。失語症の理解とコミュニケーションについて学ぶ			個人・ペア・グループ
11	言語障害者の介護	言語障害者の生活を理解する			個人
12	視覚・聴覚障害者の介護過程	コミュニケーションツールについて調べる			個人・ペア・グループ
13	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる			個人・グループ
14	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる			個人・グループ
15	まとめ	視覚・聴覚障害者の介護過程のまとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎 通所介護等(介護福祉士)7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 実習Ⅰを振り返り、学校生活で学んだ知識・技術・態度・倫理を具体的かつ実際に理解できるようになり、基礎技術を応用した実践的な介護福祉援助活動を学び、介護過程のアセスメントを実施する					
【学習目標(到達目標)】 ①施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ ②福祉専門職としての自己の課題を明確化できる ③当面の目標に関して適切に自己評価できる				【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】		実習要項を熟読し実習の流れを理解する			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱにむけて準備をする			個人・ペア・グループ
2	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解す			個人
3	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解する			個人・ペア・グループ
4	実習Ⅱの目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験することで専門性を深めることができ			個人・ペア・グループ
5	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物・課題・記録等を準備する			個人・ペア・グループ
6	社会福祉従事者と福祉資格制度	社会福祉の分野で働く専門職員の役割について理解する			個人
7	介護過程について	様々な障害を抱えている介護が必要な方の介護過程の展開ができる			個人
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する			個人・ペア・グループ
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する			個人・ペア・グループ
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る			個人・ペア・グループ
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る			個人・ペア・グループ
12	実習振り返り・自己評価	アセスメント分析と評価ができる			個人・ペア・グループ
13	実習振り返り・自己評価	アセスメントについて理解する			個人・ペア・グループ
14	実習反省会・自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化ができる			個人・ペア・グループ
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施できる			個人・ペア・グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート 課題の達成度	80% 20%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実習準備			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木 謙太郎			佐々木
		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
状況に応じた適切な介護をするために、これまで学んできた学習内容をまとめていく					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護過程の展開を行う ②対象者の生活や特性を理解し、あらゆる介護場面に応じた介護実践能力を養う ③安全に配慮した介護を実践できる能力を養う。				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		実習要項を熟読し実習の流れを理解する			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱに臨む			個人
2	介護福祉士と実習	高齢者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する			個人
3	介護福祉士と実習	障害者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する			個人
4	介護福祉士と私	介護福祉士と自分の関係についてまとめることができる			個人
5	介護福祉士と私	介護福祉士としての自分の課題と目的が明確化できる			個人
6	アセスメント	対象者とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き			個人
7	アセスメント	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き			個人
8	介護計画	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画の立案			個人
9	介護計画	ケアプランの実施について内容を報告できる 介護計画の立案			個人
10	評価と再アセスメント	ケアプランの評価と再アセスメント			個人
11	実習反省会・自己評価	実習のまとめと自己課題の明確化			個人
12	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成と作成計画について 実習Ⅱを振り返り、資料を準備する			個人
13	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成			個人
14	介護過程レポートの発表	実習報告			個人
15	実習報告会・自己評価	実習報告			個人
期末 試験	レポート	評価方法	レポート 課題の達成度	80% 20%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう(実技練習)			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅱ(1/2)		佐々木 謙太郎			佐々木
※実務経験のある教員の授業科目		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	250時間	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とする方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する実習とする					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ				前に踏み出す力	
②福祉専門職としての自己の課題を明確化し、当面の目標に関して適切に自己評価できる				チームで働く力	
③介護過程の実践について理解できる				考え抜く力	
				生活支援技術	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅱに区分される施設、事業所における学外実習(介護福祉学科教員)	学習の主題： ①介護を必要とする方の生活能力に応じた日常生活支援を提供する ②介護を必要とする方が、生活する環境について知り、その重要性について理解する ③多職種の役割と、多職種の連携について理解する ④対象者を選定し日常生活支援等のかかわりをとおし得た情報を整理、全体像を把握し、生活上のニーズについて考察する 学習課題： ①介護を必要とする方一人ひとりの個別性や生活リズムを理解する ②日常生活支援の実践を通して、一人ひとりの生活能力に合わせた支援方法について理解する ③日常生活支援における環境の重要性について理解する ④多職種の役割、連携について理解する ⑤日常生活支援の実践、ケアカンファレンス等への参加から、介護過程の展開を考察する ⑥変則勤務時間をとおし施設・事業所の生活を理解する ⑦対象者を選定し、かかわりから得た情報を介護過程レポートにまとめ、その方の全体像を把握し、生活上のニーズを考察する			個人
2					個人
3					個人
4					個人
5					個人
6					個人
7					個人
8					個人
9					個人
10					個人
11					個人
12					個人
13					個人
14					個人
15					個人
期末試験		評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅱ(2/2)		佐々木 謙太郎			佐々木
※実務経験のある教員の授業科目		通所介護等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	250時間	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
介護支援専門員の経験から、介護を必要とする方に応じた、またその家族とのコミュニケーションの方法論を展開する。チームコミュニケーションについて理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①障害に応じたコミュニケーションの方法を理解できる ②多職種協働におけるコミュニケーションのあり方について理解できる ③介護計画を立案・実施することができる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅱに区分される施設、事業所における学外実習(介護福祉学科教員)	学習の主題：			個人
2		①施設運営や施設介護サービス、チームの一員としての介護福祉士の専門性を理解できる			個人
3		②あらゆる日常生活支援場面において、介護を必要とされる方の生活能力に合わせ、もてる力を活用、発揮できるように、的確な生活支援技術を選択、提供できる能力を身につける			個人
4		③日常生活支援やケアカンファレンス等をとおして、施設における、多職種協働チームアプローチの方法を理解し、チームの一員として日常生活支援を提供できる能力を身につける			個人
5		④介護過程の展開をとおして、介護を必要とされる方の生活する上でのニーズを明確に把握し、その人らしく、心地よく生活を送れるように、介護計画を立案・実施・評価できる能力を身につける			個人
6		学習課題：			個人
7		①様々な場面の日常生活支援の実践を通し、介護を必要とされる方一人ひとりの生活能力に応じた適切な日常生活支援を選択、提供できる			個人
8		②実習指導者の助言のもと対象者を選定する			個人
9		③対象者の情報をアセスメントし、対象者の全体像を把握できる			個人
10		④対象者の全体像から、生活上のニーズをとらえ、実習指導者指導のもと、介護計画を立案できる			個人
11		⑤介護計画に基づいた支援内容を実施し、支援中の経過を記録することができる			個人
12		⑥介護計画に基づいた支援内容を実施し、随時評価・			個人
13					個人
14					個人
15					個人
期末試験		評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%		
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護と医療的ケア ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
看護の臨床経験を生かし介護福祉の現場においては、介護福祉士が医療行為に関わる事が多くなっている中、正常と異常を適切に判断し、医療関係職種との連携ができることが求められている。その知識を持って医療職との協働することを学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 医療的ケア	
②内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる					
③介護と医療的ケアの必要性について理解できる					
【履修上の注意】		実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	生活における介護と医療行為について 医療行為範囲外11項目について			個人
2	日常生活における健康の支援	健康状態の観察(バイタルサインチェックの方法) 体温、脈拍、呼吸、血圧、酸素飽和度の測定方法			個人
3	緊急時の対応(講義)	緊急時の対応についての理解 介護において予想される緊急時の対応について学ぶ			個人
4	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する			個人
5	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する			個人
6	日常生活における外傷時の支援	創処置の方法、消毒液の効用 切り傷、擦り創、熱傷の処置の方法			個人
7	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する			個人
8	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する			個人
9	経管栄養のある方の生活支援	経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点の理解と介護 経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点について			個人
10	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する			個人
11	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する(事例を通して演習)			個人
12	日常生活における排便コントロールの介護	日常生活における排便コントロールのとれない方の理解と介護 便秘に対する、浣腸の手順と留意点を理解する			個人
13	人工肛門のある方の生活支援	人工肛門のある方のストマ装着の理解と介護 パウチの排泄物除去の方法について			個人
14	排尿障害のある方の自立に向けた排泄の介護	排尿障害のある方の自己導尿の方法の理解 自己導尿の手順と留意点を理解する			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
喀痰の吸引 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】 自らの臨床経験を土にし、医療行為を必須としながらも、日七日のあるいは施設で土泊している介護を必要とする人は増え続けている。介護を必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部を行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア(痰の吸引)を実施することが求められる。介護福祉士が担う痰の吸引の基本を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】 ①シミュレーターを使用し痰の吸引(口腔内)を一人で適切に実施することができる ②シミュレーターを使用し痰の吸引(鼻腔内)を一人で適切に実施することができる ③シミュレーターを使用し痰の吸引(気管カニューレ内)を一人で適切に実施することができる				【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 医療的ケア	
【履修上の注意】		実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(1)	痰の貯留を示す状態と喀出するしくみ、および痰の吸引が必要な状態を説明できる 人工呼吸器が必要な状態を説明できる			個人
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(2)	人工呼吸器のしくみと生活支援における留意点、および吸引時の留意点を説明できる 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医師・看護職員と連携の必要性と連携内容を説明できる			個人
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(3)	子どもの吸引に関する留意点を説明できる 介護を必要とする人・家族の吸引に対する気持ちにそった対応をするために必要なことを説明できる			個人
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(4)	吸引の実施に関するインフォームドコンセントの必要性、説明内容と方法を説明できる 呼吸器系に感染が起きた可能性を示す状態を言え、感染を予防するために実施すべきことを説明できる			個人
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(5)	痰吸引により生じる危険の種類と危険を防止するための留意点が言え、危険防止のために必要な医師・看護職員との連携の仕方を説明できる 緊急を要する状態(症状)を言える			個人
6	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(6)	急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を事前に共有することの重要性と対策の内容を説明できる			個人
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(1)	吸引の必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる			個人
8	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(2)	吸引前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の吸引の準備(体位・プライバシーの保護)と留意点を説明できる			個人
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(3)	吸引実施手順と吸引時の留意点を説明できる 吸引時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる			個人
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(4)	吸引後の吸引物の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 吸引後の片づけの方法と留意点を説明できる			個人
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(5)	痰を出しやすくするケア・体位を整えるケアを説明できる 口腔内のケアを説明できる			個人
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説(6)	報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ			個人
13	基本研修(口腔内吸引演習)	シミュレーターを用いて口腔内の吸引を習得する			個人
14	基本研修(鼻腔内吸引演習)	シミュレーターを用いて鼻腔内の吸引を習得する			個人
15	基本研修(気管カニューレ内吸引演習)	シミュレーターを用いて気管カニューレ内の吸引を習得する			個人
期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献 実技試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
経管栄養 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】 有識者の臨床経験に基づき医療行為を必須としながら、日七のめいはいは肥後で生活している介護が必要な人は増え続けている。介護が必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部を行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア(経管栄養)を実施することが求められる。介護福祉士が担う経管栄養の基本を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①シミュレーターを使用し、経管栄養(経鼻経管栄養)を一人で適切に実施することができる				前に踏み出す力	
②シミュレーターを使用し、経管栄養(胃瘻)を一人で適切に実施することができる				チームで働く力	
③シミュレーターを使用し、経管栄養(腸瘻)を一人で適切に実施することができる				考え抜く力	
				医療的ケア	
【履修上の注意】		実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(1)	経管栄養が必要な状態・経管栄養のしくみと経管栄養の種類を説明できる 栄養摂取と水分摂取の必要性を説明できる			個人
2	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(2)	経管栄養で注入する内容について説明できる 経管栄養実施上の留意点を説明できる			個人
3	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(3)	子どもの経管栄養の実際に関する留意点を説明できる 経管栄養を行っている介護を必要とする人の消化器感染の可能性を示す状態(症状)を言える			個人
4	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(4)	経管栄養を行っている状態で感染予防として実施すべきことを説明できる 口腔ケアの必要性を説明できる			個人
5	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(5)	介護を必要とする人および家族の気持ちを理解し、経管栄養実施のインフォームドコンセントの必要性と説明内容や方法を説明できる 経管栄養により生じる危険防止の留意点・危険防止のため医師・看護職員との連携のしかたを説明できる			個人
6	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(6)	ヒヤリハット・アクシデントをレポートできる 緊急を要する状態(症状)を言える			個人
7	高齢者および障害児・者の経管栄養概論(7)	急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を共有していることの重要性と対策の内容を説明できる			個人
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(1)	経管栄養の必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる			個人
9	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(2)	経管栄養実施前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の経管栄養の準備(体位・プライバシーの保護)と留意点を説明できる			個人
10	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(3)	経管栄養の実施手順と注入中の留意点を説明できる 経管栄養実施時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる			個人
11	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(4)	経管栄養終了後の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 経管栄養終了後の片づけの方法と留意点を説明できる			個人
12	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(5)	消化機能を促進するケア・体位を整えるケアについて説明できる 口腔内や鼻腔のケア・胃瘻(腸瘻)部のケアを説明できる			個人
13	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説(6)	報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ			個人
14	基本研修(経鼻経管栄養演習)	シミュレーターを用いて経鼻経管栄養を習得する			個人
15	基本研修(胃瘻または腸瘻演習)	シミュレーターを用いて胃瘻からの経管栄養を習得する			個人
期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献 60%	実技試験 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害の理解 ※実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介			佐藤
		病院(作業療法士)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
介護の現場で対象となる利用者の状況を理解する上で、障害を理解することはとても重要である。本講義ではその障害に視点を置き、障害発生のメカニズムとその対策、さらに介護する上で注意すべき点等を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①「障害」について理解できる ②障害のある人の生活について理解できる ③障害のある人への介護について理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	障害の基礎的理解 障害の概念	障害のある人の暮らしについて理解を深める			個人
2	障害者福祉の基本理念	障害者の法的定義について理解する 身体・療育・精神障害者福祉手帳制度についてどのようなものが答える事が出来る			個人
3	障害のある人の生活の理解 I 視覚障害のある人の生活	聴覚・言語障害とはどのようなものか理解する 視覚の機能について説明できる			個人
4	障害のある人の生活の理解 I 聴覚・言語障害のある人の生活	視覚障害を引き起こす疾患について説明できる			個人
5	障害のある人の生活の理解 I 肢体不自由のある人の生活	肢体不自由の原因や代表的な障害の障害像について理解する 本人を主体とした介護をするために必要な考え方について学ぶ			個人
6	障害のある人の生活の理解 I 内部障害のある人の生活	内部障害とは何か理解する 各々の疾患についてどのような介護があるべきか理解する			個人
7	障害のある人の生活の理解 II 知的障害のある人の生活	知的障害のある人の地域生活と介護による支援との関係を理解する 知的障害を有する方々との接し方について理解を深める			個人
8	障害のある人の生活の理解 II 精神障害のある人の生活	精神疾患について理解を深める 身体変調と生命の危機について理解を深める			個人
9	障害のある人の生活の理解 II 高次脳機能障害のある人の生活	高次脳機能障害とは何か理解を深める 高次脳機能障害を有する患者さんとの接し方について理解を深める			個人
10	障害のある人の生活の理解 II 発達障害のある人の生活	発達障害の特性を理解する 発達障害のある人の生活と適切な介護について理解を深める			個人
11	障害のある人の生活の理解 II 重度心身障害のある人の生活	重度心身障害の歴史と定義を理解する 重度心身障害に対する生活特性と介護のポイントを理解する			個人
12	障害のある人の生活の理解 II 難病のある人の生活	運動神経系の難病と、内臓・皮膚・血液系の難病各々の特徴を理解する			個人
13	障害のある人に対する介護	自立に向けた介護の手段について理解を深める			個人
14	家族支援・連携と協働	家族・他職種と連携し、患者さんをサポートしていく理由について理解する			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害者の心理 ※実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			佐藤
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護専門職者として、障害者の心理と行動に関する実態と様々なケアにおける心理的援助について概説する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①障害児者の発達や行動を心理学の視点から理解できる ②障害児者を取り巻く社会や家族との関係性における心理的援助のあり方について理解できる ③障害児者の地域生活支援や家族支援へのアプローチについて理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	障害者とは	障害と心理的影響について			個人
2	障害とは	ICIDHとICFについて			個人
3	障害の種類とその程度	身体障害、知的障害、精神障害とそれぞれの特徴			個人
4	行動系機能障害	感覚系、中枢系、運動系機能障害の特徴と心理的支援			個人
5	コミュニケーション障害	言語、聴覚、視覚障害の特徴と心理的支援の方法			個人
6	乳幼児期の発達と早期教育	早期療育と家族支援について			個人
7	学齢期における発達支援と家族	学校や施設での心理教育から見た発達支援について			個人
8	障害者と思春期	思春期における精神的変化			個人
9	障害者と思春期	思春期と性の問題について			個人
10	障害者と青年期	社会参加や就労支援を目指した心理的援助			個人
11	肢体不自由児者の心理的支援	事例検討を中心に			個人
12	知的障害者への心のケア	事例検討を中心に			個人
13	自閉症者へのケア	事例検討を中心に			個人
14	入所・通所施設でのケアプログラム	プログラム作成の演習			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献	60%	筆記試験
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
からだの構造と機能Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体の諸器官の構造と機能を理解し、その主な役割を説明できる ②こころとからだのしくみを排泄・睡眠・エンドオブライフ等を日常生活と関連させることができる ③終末期と医療職について理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 こころとからだのしくみ	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	排泄に関連したしくみ	大腸の構造、直腸と肛門、腎臓、膀胱について学ぶ			個人
2		排泄のしくみ、心身の機能低下が排泄に及ぼす影響について学ぶ			個人
3		変化の気づきと対応について学ぶ			個人
4	清潔に関連したしくみ	皮膚の構造、清潔の意義を理解する			個人
5		心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する			個人
6		変化の気づきと対応について学ぶ			個人
7	睡眠に関連したしくみ	睡眠の経過と睡眠パターン、睡眠と覚醒の機構について理解する			個人
8		心身機能低下が睡眠に及ぼす影響について理解する			個人
9		変化の気づきと対応について学ぶ			個人
10	人生の最終段階のケアに関連したしくみ	死を理解する 生の一部としてのエンドオブライフの考え方について学ぶ			個人
11		終末期から「死」までの変化と特徴、医療職との連携ポイント			個人
12		家族の死を受容する段階と支援について学ぶ			個人
13	ストレスに対処するしくみ	内部環境の恒常性とその乱れ、ストレス時の心身の変化について理解する			個人
14	つなぐ	生殖器と受精、出産と赤ちゃん、乳房の構造と働きについて理解する			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】		最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ、15 医療的ケア			
【参考書】		なし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
疾病論 ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1
<b>【授業の概要・目的】</b>					
環境衛生の改善、生活習慣の変化にともない疾病構造も変化している。生活習慣病を核に疾病構造を理解し、介護を必要とする人の健康問題理解を深めると共に、学生自身の健康管理・健康習慣を促す。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b>				<b>【受講して得られる力】</b>	
①人の成長・発達と高齢者を理解し、人の生涯にわたる変化を理解する ②生活習慣病及び感染症を正しく理解する ③疾病の成り立ちを理解し、疾病による生活の支障を考えることができる ④在宅医療の実情について理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 こころとからだのしくみ	
<b>【履修上の注意】</b>		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	からだの成長と老化	からだの発達成長と老化について理解する 加齢による身体機能の変化について学ぶ			個人
2	感染症	感染症法・主な感染症・日和見感染・施設内感染について学ぶ			個人
3	生活習慣病	生活習慣病とは 健康問題と健康対策について学ぶ			個人
4	生活習慣病	悪性新生物について理解する 脳血管疾患について理解する			個人
5	生活習慣病	心疾患、高血圧について理解する			個人
6	生活習慣病	糖尿病と内分泌疾患について理解する			個人
7	呼吸器疾患、消化器疾患	肺炎、肺結核、慢性呼吸不全 肺がん、気管支喘息について学ぶ			個人
8	血液疾患、膠原病	血液疾患、膠原病について学ぶ			個人
9	腎臓疾患、泌尿器疾患	尿路感染症、尿失禁、腎不全と人工透析について学ぶ			個人
10	骨関節疾患	骨粗鬆症と骨折、変形性骨関節疾患について学ぶ			個人
11	神経疾患、先天性疾患の難病	神経疾患について学ぶ			個人
12	平衡機能障害	平衡機能障害とは 平衡機能障害をきたす病因について学ぶ			個人
13	リハビリテーション医療	リハビリテーションの対象と障害について学ぶ			個人
14	在宅医療の現状	在宅医療の実際と連携について学ぶ			個人
15	健康のとらえ方	健康の概念と健康増進の歴史 人口の高齢化と医療費、国民健康づくり対策について学ぶ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
<b>【教科書】</b>		最新 社会福祉士養成講座 最新 精神保健福祉士養成講座 1巻 医学概論			
<b>【参考書】</b>		なし			
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b>		予習・復習をしましょう			
<b>【本講義に関する質問先】</b>		担当教員	<b>【質問方法】</b>	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
地域福祉論 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
地域福祉の基盤となる地域社会についてふれ、①地域福祉の思想・概念(地域社会の構造変化)②在宅福祉サービス③地域福祉のマンパワー④地域福祉組織化論について理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①「地域」が求める「福祉」とは何か理解できる ②コミュニティソーシャルワークについて理解できる ③地域福祉を推進する機関について理解できる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	現代社会と地域福祉	オリエンテーション 地域福祉概念の変化について理解する			個人
2	現代社会と地域福祉	地域福祉が目指す福祉コミュニティを理解する 地域福祉が重視される社会的背景			個人
3	地域福祉の内容①	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 福祉サービスの内容と種類			個人
4	地域福祉の内容②	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 社会サービスと地域ケアサービス			個人
5	地域福祉の内容③	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 地域福祉のマンパワー、ボランティアとNPO			個人
6	コミュニティソーシャルワーク	自立生活の考えと支援のあり方について理解する 自立生活の考え方			個人
7	地域福祉の主体形成①	福祉コミュニティの形成について理解する 福祉コミュニティの考え方、福祉コミュニティ形成とは			個人
8	地域福祉の主体形成②	地域福祉計画について理解する 地域福祉計画策定の視点と方法			個人
9	地域福祉の主体形成③	地域のエンパワメントについて考察する 福祉教育の考え方と推進方法			個人
10	地域福祉の主体形成④	権利擁護事業について理解する 成年後見制度について			個人
11	地域福祉の主体形成⑤	地域生活支援事業について理解する 地域包括ケアとネットワーク			個人
12	地域福祉の推進機関①	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について理解する 社会福祉協議会・地域包括支援センター			個人
13	地域福祉の推進機関②	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について理解する 民生委員・児童委員			個人
14	地域福祉推進の課題と展望	福祉社会に向けた仕組みづくりを理解する 地域福祉を推進する目的			個人
15	まとめ	学習の振り返り			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会福祉援助技術演習 ※実務経験のある教員の授業科目		相楽 愛美			相楽
		特別養護老人ホーム等(介護福祉士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
対人援助職として必要なコミュニケーション能力や面接技法、さらに相談援助の過程をロールプレイや事例検討を通して理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護従事者としての職業倫理を身に付けることができる ②利用者とのよりよい援助関係を形成するために必要な基本的態度や知識を身に付けることができる ③援助者としての資質向上を目指し、習得した技術を実践の場で活用することができる				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力	
【履修上の注意】		分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	社会福祉援助技術の目的と意義	援助技術の基本的考え方 「日本介護福祉士会倫理綱領」から考察する			個人
2	援助関係の構築(基礎編①)	援助関係形成の基盤となるもの 「自己理解」「他者理解」「自己覚知」「環境の理解」を考察する			グループ
3	援助関係の構築(基礎編②)	援助関係形成における援助者の基本的態度 「バイステックの7原則」から援助関係形成を考察する			グループ
4	援助関係の構築(応用編①)	コミュニケーション技術の習得 「受容」「傾聴」「共感」と「コミュニケーションの特性」を考察する			グループ
5	援助関係の構築(応用編②)	基本的な面接技術の習得 ロールプレイを通して面接の基本的なスキルを考察する			グループ
6	相談援助の理論	相談援助の視点となるもの 課題解決の方法としてのアプローチとモデルを学ぶ			グループ
7	相談援助の方法	相談援助の展開過程 相談援助のプロセスと各段階での注意点を学ぶ			グループ
8	相談援助における社会資源と連携	社会資源の活用とネットワークング 社会資源の活用と多職種・多機関との連携の重要性を学ぶ			グループ
9	相談援助の実際(事例研究①)	相談援助と児童 事例を通して援助の方法を考察する			グループ
10	相談援助の実際(事例研究②)	相談援助と高齢者 事例を通して援助の方法を考察する			グループ
11	相談援助の実際(事例研究③)	相談援助と障害者 事例を通して援助の方法を考察する			グループ
12	相談援助の実際(事例研究④)	相談援助と人権擁護 事例を通して援助の方法を考察する			グループ
13	相談援助と利用者の保護	個人情報保護と苦情解決 個人情報保護法と苦情解決の対処法を学ぶ			グループ
14	援助者の燃え尽き症候群	援助者における燃え尽き症候群(バーンアウト)の防止 スーパービジョンとコンサルテーションの重要性を学ぶ			グループ
15	演習のまとめ	学習成果の振り返り			グループ
期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献 筆記試験	60% 40%	
【教科書】	担当教員が指示します				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
からだの構造と機能Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		星 亜矢子			星
		病院(看護師)25年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
看護の臨床経験を生かし介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体の諸器官の構造と機能を理解しその主な役割を説明できる ②こころとからだのしくみ、循環、呼吸、移動、身じたく、栄養等の日常生活と関連させることが出来る ③バイタルサインの測定が出来る				前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 こころとからだのしくみ	
【履修上の注意】		シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	こころとからだのしくみ	こころのしくみを理解する、人間の欲求、自己実現について理解する			個人
2	〃	からだのしくみを理解する、からだの部位の役割、全身の骨格について学ぶ			個人
3	生命を維持するしくみ	心臓の構造、血液の組成と役割について学ぶ			個人
4	〃	肺の構造、呼吸運動と換気、酸素と二酸化炭素の運搬について学ぶ			個人
5	移動に関連するしくみ	骨、関節、筋肉の動き、姿勢の種類について学ぶ			個人
6		移動の目的、身体機能の維持について学ぶ			個人
7		心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ			個人
8	身じたくに関連するしくみ	眼、爪、毛髪、口腔、舌の構造と機能について学ぶ			個人
9		身じたくの効果、心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響について学ぶ			個人
10		変化の気づきと対応について学ぶ			個人
11	栄養に関連するしくみ	消化と吸収のしくみについて学ぶ			個人
12		心身の機能低下が食事に及ぼす影響について学ぶ			個人
13		変化の気づきと対応について学ぶ			個人
14	生きている徴候	バイタルサインの測定をする			個人
15	まとめ				個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	授業への貢献 40%	
【教科書】	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ、最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 最新社会福祉士養成講座 最新 精神保健福祉士養成講座 1巻 医学概論				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習をしましょう			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(1/3) ※実務経験のある教員による授業科目		小野 博司			担任
		接骨院(柔道整復師)29年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
骨損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①骨損傷について理解をする。 ②様々な骨損傷の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③骨損傷の知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	概説		柔道整復術および柔道整復師の沿革を理解する。		個人
2	人体に加わる力		損傷時に加わる力を理解する。		個人
3	骨の損傷①		骨の形態と機能を理解する。		個人
4	骨の損傷②		骨折の分類を理解する。		個人
5	骨の損傷③		骨折の分類の理解を深める。		個人
6	骨の損傷④		骨折の局所症状を理解する。		個人
7	骨の損傷⑤		骨折の全身症状を理解する。		個人
8	骨の損傷⑥		骨折の合併症(併発症、続発症)を理解する。		個人
9	骨の損傷⑦		骨折の合併症(後遺症)を理解する。		個人
10	骨の損傷⑧		小児骨折を理解する。		個人
11	骨の損傷⑨		高齢者の骨折を理解する。		個人
12	骨の損傷⑩		骨折の癒合日数を理解する。		個人
13	骨の損傷⑪		骨折の治癒経過を理解する。		個人
14	骨の損傷⑫		骨折の予後、整復法を理解する。		個人
15	総復習		骨折の総論のより深い知識を身につける。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(2/3) ※実務経験のある教員による授業科目		小野 博司			担任
		接骨院(柔道整復師)29年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
脱臼及び軟部組織損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脱臼について理解をする。 ②様々な脱臼の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③脱臼の知識を臨床に応用できるようにする。 ④軟部組織損傷について理解する。 ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	関節の損傷①		関節の構造と機能を理解する。		個人
2	関節の損傷②		関節構成組織の損傷(靭帯、関節包)を理解する。		個人
3	関節の損傷③		関節構成組織の損傷(関節軟骨)を理解する。		個人
4	脱臼①		脱臼の分類を理解する。		個人
5	脱臼②		脱臼の症状、合併症を理解する。		個人
6	脱臼③		脱臼の経過と予後、整復法を理解する。		個人
7	軟部組織損傷①		筋の損傷を理解する。		個人
8	軟部組織損傷②		腱の損傷を理解する。		個人
9	軟部組織損傷③		末梢神経の損傷を理解する。		個人
10	軟部組織損傷④		末梢神経の損傷のより深い知識を身に付ける。		個人
11	軟部組織損傷⑤		軟部組織損傷の初期治療を理解する。		個人
12	診察		診察について理解する。		個人
13	関節可動域①		表示の仕方についての理論を理解する。		個人
14	関節可動域②		測定法の理論を理解する。		個人
15	総復習		脱臼、軟部組織損傷の復習し、より深い知識を身につける。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(3/3) ※実務経験のある教員による授業科目		小野 博司			担任
		接骨院(柔道整復師)29年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
骨折、脱臼、軟部組織損傷の基礎的な知識を深め活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解を深める ②骨折、脱臼、軟部組織損傷についての知識の応用力を身に付ける ③骨折の知識を説明できるようにする ④ ⑤				考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	骨損傷問題作成		ペアでの復習+問題作成をすることにより理解を深める。		ペア
2	骨損傷問題作成		他のペアが作成した問題を解くことにより理解を深める。		ペア
3	骨損傷問題作成		グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。		グループ
4	骨損傷問題作成		他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。		グループ
5	脱臼問題作成		グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。		グループ
6	脱臼問題作成		他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。		グループ
7	軟部組織損傷問題作成		グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。		グループ
8	軟部組織損傷問題作成		他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。		グループ
9	骨折の授業発表		各グループ授業資料作成するために骨折について調べ知識を身につける。		グループ
10	骨折の授業発表		各グループ授業資料作成しより深い知識を身につける。		グループ
11	骨折の授業発表		各グループ授業資料作成し活用できる知識を身につける。		グループ
12	骨折の授業発表		各グループ授業資料作成し説明できるようにする。		グループ
13	骨折の授業発表		各グループ発表を聞きより深い知識を身につける①		グループ
14	骨折の授業発表		各グループ発表を聞きより深い知識を身につける②		グループ
15	総復習		総論の復習		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 50% 受講態度 10%	発表会の結果 40%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
包帯法(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)26年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤				【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	包帯固定学総論	硬性材料・軟性材料 各種固定材料を理解する。			ペア
2	固定材料の種類	固定の目的、固定の範囲、固定の肢位 上記を正しく理解する。			ペア
3	巻軸帯の巻き方と注意事項1	包帯の巻き方の基本・持ち方・巻き始めと終わり 上記を正しく理解する。			ペア
4	巻軸帯の巻き方と注意事項2	巻き進め方向・巻き締め強度・均等圧・美しさ・巻く速さ 上記を正しく理解する。			ペア
5	巻軸帯の巻き戻し	巻軸帯の巻き戻し方 上記を正しく理解する。			ペア
6	基本包帯法 1	環行帯・螺旋帯 上記を正しく理解する。			ペア
7	基本包帯法 2	蛇行帯・折転帯 上記を正しく理解する。			ペア
8	基本包帯法 3	亀甲(翼状)帯・麦穂(人字帯、スカルパ巻)帯 上記を正しく理解する。			ペア
9	冠名包帯法 1	デゾー包帯(左右側) 上記を正しく理解する。			ペア
10	冠名包帯法 2	ヴェルポー包帯(左右側)・ジュール包帯(左右側) 上記を正しく理解する。			ペア
11	部位別包帯法 1	肩関節部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
12	部位別包帯法 2	上腕部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
13	部位別包帯法 3	肘関節部固定法・前腕部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 受講態度	80% 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
包帯法(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)26年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤				【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	部位別包帯法 4		手関節部固定法・手指部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
2	部位別包帯法 5		股関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
3	部位別包帯法 6		大腿部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
4	部位別包帯法 7		膝関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
5	部位別包帯法 8		下腿部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
6	部位別包帯法 9		足関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
7	部位別包帯法 10		足背部固定法・足指部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
8	各部位の副子固定1		上肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
9	各部位の副子固定2		体幹の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
10	各部位の副子固定3		下肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
11	ギプス固定1		石膏ギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
12	ギプス固定2		キャストライトギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
13	ギプス固定3		プライトンを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論 I (1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		藤井 智貴			担任
		整形外科(柔道整復師)4年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】 考え抜く力 問題解決力
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	関節の構造①		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
2	関節の構造②		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
3	関節の構造③		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
4	関節の構造④		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
5	上肢骨格筋の起始停止①		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
6	上肢骨格筋の起始停止②		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
7	上肢骨格筋の起始停止③		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
8	上肢骨格筋の起始停止④		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
9	上肢骨格筋の起始停止⑤		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
10	上肢骨格筋の起始停止⑥		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
11	上肢骨格筋の起始停止⑦		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
12	上肢骨格筋の起始停止⑧		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
13	下肢骨格筋の起始停止①		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
14	下肢骨格筋の起始停止②		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
15	総復習①		関節と筋の起始停止について総合的に理解する		ペア
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】		(公社) 全国柔道整復学校協会 監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)			
		(公社) 全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論 I (2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		藤井 智貴			担任
		整形外科(柔道整復師)4年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤					
【受講して得られる力】 考え抜く力 問題解決力 専門職としてのスキル・意識					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	下肢骨格筋の起始停止③		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
2	下肢骨格筋の起始停止④		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
3	下肢骨格筋の起始停止⑤		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
4	下肢骨格筋の起始停止⑥		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
5	下肢骨格筋の起始停止⑦		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
6	下肢骨格筋の起始停止⑧		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
7	頭部・体幹骨格筋の起始停止①		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
8	頭部・体幹骨格筋の起始停止②		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
9	頭部・体幹骨格筋の起始停止③		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
10	頭部・体幹骨格筋の起始停止④		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
11	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑤		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
12	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑥		頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する		ペア
13	総復習②		関節と筋の起始停止について総合的に理解する		ペア
14	総復習③		関節と筋の起始停止について総合的に理解する		ペア
15	総復習④		関節と筋の起始停止について総合的に理解する		ペア
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】		(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)			
		(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅰ(軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤				問題解決力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部・顔面部打撲 を理解する			個人
2	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症、顎関節捻挫 を理解する			個人
3	頸部の軟部組織損傷 その①	むちうち損傷 を理解する			個人
4	頸部の軟部組織損傷 その②	胸郭出口症候群、寝違え を理解する			個人
5	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷 胸背部打撲傷、背部の軟部組織損傷 を理解する			個人
6	腰部の軟部組織損傷	関節性、靭帯性、筋・筋膜性 を理解する			個人
7	頭部・体幹の軟部組織損傷	頭部・体幹の軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
8	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱の損傷、スポーツ損傷 を理解する			個人
9	肩関節部の軟部組織損傷②	不安定症 を理解する			個人
10	上腕部の軟部組織損傷	橈骨・尺骨神経損傷 を理解する			個人
11	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷、野球肘・テニス肘 を理解する			個人
12	前腕部の軟部組織損傷	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群、 末梢神経障害 を理解する			個人
13	手関節部の軟部組織損傷	TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害 キーンベック病、マーデルング変形 を理解する			個人
14	手部・指部の軟部組織損傷	腱・靭帯の損傷、その他の変性疾患および変形 を理解する			個人
15	上肢の軟部組織損傷	上肢の軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学 I (軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤				問題解決力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	股関節部の軟部組織損傷①		鼠径部痛症候群、股関節唇損傷 を理解する		個人
2	股関節部の軟部組織損傷②		ばね股、梨状筋症候群 を理解する		個人
3	大腿部の軟部組織損傷		大腿部打撲、肉離れ を理解する		個人
4	膝関節部の軟部組織損傷①		半月板損傷 を理解する		個人
5	膝関節部の軟部組織損傷②		靭帯損傷 を理解する		個人
6	膝関節部の軟部組織損傷③		腸脛靭帯炎、鷲足炎、その他の疾患 を理解する		個人
7	下腿部の軟部組織損傷 その①		アキレス腱の損傷・断裂 を理解する		個人
8	下腿部の軟部組織損傷 その②		肉離れ、スポーツ障害 を理解する		個人
9	足関節部の軟部組織損傷①		足関節捻挫 を理解する		個人
10	足関節部の軟部組織損傷②		足関節捻挫の類症鑑別 を理解する		個人
11	足・趾部の軟部組織損傷		有痛性障害、扁平足障害 を理解する		個人
12	下肢の軟部組織損傷		下肢の軟部組織損傷を総合的に理解する		個人
13	軟部組織損傷まとめ①		軟部組織損傷を総合的に理解する		個人
14	軟部組織損傷まとめ②		軟部組織損傷を総合的に理解する		個人
15	軟部組織損傷まとめ③		軟部組織損傷を総合的に理解する		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保存療法 ※実務経験のある教員等による授業科目		藤井 智貴			担任
		整形外科(柔道整復師)4年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が行う保存療法と整形外科医が行う観血療法を対比しながら、それぞれの特性や要点を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が行う保存療法のメリット、デメリット、注意点、適応、要点を理解できる。 ②保存療法と観血療法を比較検討することができる。 ③柔道整復師が行う保存療法での後療法を身につけることができる。 ④測定方法を身につけることができる。 ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	傷の定義と受診すべき診療科	外傷の定義を正確に知り、柔道整復師が扱うものと病院(各診療科)が対応するものを理解する			ペア・グループ
2	保存療法と観血療法	保存療法と観血療法の内容を把握し メリット、デメリットなどの特性を理解する			ペア・グループ
3	整形外科分野との鑑別診断	整形外科で取り扱われる疾患や外傷について把握し 柔道整復との違いについて理解する			ペア・グループ
4	骨折の整復法	柔道整復師が行う骨折の整復法について理解する			ペア・グループ
5	脱臼の整復法	柔道整復師が行う脱臼の整復法について理解する			ペア・グループ
6	軟部組織損傷の初期処置	柔道整復師が行う軟部組織損傷の 初期処置について理解する			ペア・グループ
7	手技療法	柔道整復師が行う手技療法について理解する			ペア・グループ
8	触診法①	柔道整復師が行う触診法について理解する①			ペア・グループ
9	触診法②	柔道整復師が行う触診法について理解する②			ペア・グループ
10	関節可動域測定	関節可動域測定について理解する			ペア・グループ
11	周径測定	周径測定について理解する			ペア・グループ
12	握力測定	握力測定について理解する			ペア・グループ
13	反射	反射について理解する			ペア・グループ
14	実技試験				ペア・グループ
15	保存療法まとめ	柔道整復術の業務範囲と保存療法の限界を理解する			ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 受講態度	80% 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	標準整形外科学 第14版/井樋栄二 (医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技 I (軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の構造を理解するために、触診、検査を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨・筋の触診が出来る ②関節構造を理解する ③軟部組織損傷の検査法を理解する ④靭帯の触診が出来る ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	診察法の基礎		診察法の進め方		グループ
2	頭部・顔面部の軟部組織損傷①		頭部・顔面部打撲		グループ
3	頭部・顔面部の軟部組織損傷②		顎関節症、顎関節捻挫		グループ
4	頸部の軟部組織損傷 その①		むちうち損傷		ペア
5	頸部の軟部組織損傷 その②		胸郭出口症候群、寝違え		ペア
6	胸・背部の軟部組織損傷		胸肋関節損傷、肋間筋損傷 胸背部打撲傷、背部の軟部組織損傷		ペア
7	腰部の軟部組織損傷		関節性、靭帯性、筋・筋膜性		ペア
8	肩関節部の軟部組織損傷①		腱板損傷		ペア
9	肩関節部の軟部組織損傷②		上腕二頭筋長頭腱損傷		ペア
10	肩関節部の軟部組織損傷③		リトルリーガー肩、バンカート損傷、不安定症		ペア
11	肘関節部の軟部組織損傷		靭帯の損傷、野球肘・テニス肘		ペア
12	手関節部の軟部組織損傷		TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害 キーンベック病、マーデルング変形		ペア
13	手関節部の軟部組織損傷		腱・靭帯の損傷、その他の変性疾患および変形		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				個人
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社) 全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技 I (軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の治療を理解するために、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨・筋の触診が出来る ②整復法、固定法を理解する ③応急手当ができる ④後療法を考えることができる ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	診察法の基礎		診察法の進め方		グループ
2	股関節部の軟部組織損傷		ばね股、梨状筋症候群		グループ
3	大腿部の軟部組織損傷①		大腿部打撲、大腿四頭筋肉離れ		グループ
4	大腿部の軟部組織損傷②		ハムストリングス肉離れ		ペア
5	膝関節部の軟部組織損傷①		半月板損傷		ペア
6	膝関節部の軟部組織損傷②		側副靭帯損傷		ペア
7	膝関節部の軟部組織損傷③		十字靭帯損傷		ペア
8	膝関節部の軟部組織損傷④		腸脛靭帯炎、鷲足炎、その他の疾患		ペア
9	下腿部の軟部組織損傷①		アキレス腱の損傷・断裂		ペア
10	下腿部の軟部組織損傷②		肉離れ、スポーツ障害		ペア
11	足関節部の軟部組織損傷		足関節捻挫		ペア
12	足・趾部の軟部組織損傷		有痛性障害、扁平足障害 を理解する		ペア
13			軟部組織損傷を総合的に理解する		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				個人
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 実習評価 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社) 全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		藤井 智貴			担任
		整形外科(柔道整復師)4年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論の知識を復習し、知識を深める。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論の総論の知識を復習する。 ③柔道整復理論の頭部から体幹の骨折を学ぶ。 ④ ⑤					問題解決力 知識・理解 情報活用能力
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	国家試験の説明・授業進行について			個人
2	柔道整復理論	構造系を身につける。			グループ
3	柔道整復理論	骨格系を身につける。			グループ
4	柔道整復理論	骨格筋系を身につける。			グループ
5	柔道整復理論	末梢神経系を身につける。			グループ
6	柔道整復理論	頭蓋骨について学ぶ。			グループ
7	柔道整復理論	顔面頭蓋骨折について学ぶ。			グループ
8	柔道整復理論	上位頸椎骨折について学ぶ。			グループ
9	柔道整復理論	中下位頸椎骨折について学ぶ。			グループ
10	柔道整復理論	上部胸椎棘突起骨折について学ぶ。			グループ
11	柔道整復理論	胸椎の椎体骨折について学ぶ。			グループ
12	柔道整復理論	下位腰椎椎体圧迫骨折について学ぶ。			グループ
13	柔道整復理論	チャンス骨折について学ぶ。			グループ
14	柔道整復理論	腰椎椎体破裂骨折について学ぶ。			グループ
15	柔道整復理論	腰椎肋骨突起骨折について学ぶ。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		藤井 智貴			担任
		整形外科(柔道整復師)4年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論の知識を復習し、知識を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論の総論の知識を復習する。 ③柔道整復理論の知識を深める、身につける。 ④ ⑤				問題解決力 知識・理解 情報活用能力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	復習柔道整復理論	構造系・筋骨格系・末梢神経			グループ
2	柔道整復理論総論	総論 骨折①を身につける。			グループ
3	柔道整復理論総論	総論 骨折②を身につける。			グループ
4	柔道整復理論総論	総論 骨折③を身につける。			グループ
5	柔道整復理論総論	総論 骨折④を身につける。			グループ
6	柔道整復理論総論	総論 脱臼①を身につける。			グループ
7	柔道整復理論総論	総論 脱臼②を身につける。			グループ
8	柔道整復理論総論	総論 脱臼③を身につける。			グループ
9	柔道整復理論総論	総論 軟部組織損傷①を身につける。			グループ
10	柔道整復理論総論	総論 軟部組織損傷②を身につける。			グループ
11	柔道整復理論総論	総論 軟部組織損傷③を身につける。			グループ
12	柔道整復理論総論	総論 治療法①を身につける。			グループ
13	柔道整復理論総論	総論 治療法②を身につける。			グループ
14	柔道整復理論総論	総論 治療法③を身につける。			グループ
15	柔道整復理論総論	柔道整復理論総論の総復習、小テスト			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	胸鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	肩鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	肩関節前方脱臼 その①		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	肩関節前方脱臼 その②		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	反復性肩関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	その他の肩関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	肘関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	橈骨頭単独脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
9	肘内障		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	手関節部の脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	月状骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	CM関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
13	MP関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
14	PIP・DIP関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
15	上肢の脱臼		上肢の脱臼を総合的に理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	股関節脱臼 その①		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	股関節脱臼 その②		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	股関節脱臼 その③		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	膝蓋骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	膝関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	足部の脱臼 その①		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	足部の脱臼 その②		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	下肢の脱臼		下肢の脱臼を総合的に理解する。		個人
9	顎関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	頸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	胸・腰椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	頭部・体幹の脱臼		頭部・体幹の脱臼を総合的に理解する。		個人
13	脱臼まとめ その①		全身の脱臼を総合的に理解する。		個人
14	脱臼まとめ その②		全身の脱臼を総合的に理解する。		個人
15	脱臼まとめ その③		全身の脱臼を総合的に理解する。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)26年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	上腕骨近位端部骨折 (骨頭、解剖頸)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	上腕骨外科頸骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	上腕骨外科頸骨折、骨端線離開		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	上腕骨近位端部骨折 (大結節、小結節)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
9	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
13	上腕骨外顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
14	上腕骨内側上顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
15	上腕部骨折まとめ		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		片桐 秀樹			担任
		整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)26年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	橈骨近位端部骨折 (橈骨頭、橈骨頸部)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
2	肘頭骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
3	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
4	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
5	前腕両骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
6	橈骨遠位端部骨折 (コーレス、スミス)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
7	橈骨遠位端部骨折 (コーレス、スミス)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
8	橈骨遠位端部骨折 (ショーファー、バートン)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
9	手根骨骨折 (舟状骨骨折)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
10	手根骨骨折 (月状骨、その他手根骨骨折)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
11	中手骨骨折 (ボクサー)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
12	中手骨骨折 (骨幹部、ベネット)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
13	指骨骨折 (基節骨、中節骨、末節骨)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
14	マレットフィンガー		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。		個人
15	前腕～手指骨折まとめ		総まとめ		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		小野 博司			担任
		接骨院(柔道整復師)29年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
<b>【授業の概要・目的】</b> 胸部骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての知識を身に付け活用できるようにする。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b> ①胸部骨折と下肢の骨折についての知識を学び身に付ける。 ②胸部骨折と下肢の骨折についての知識を深める。 ③胸部骨折と下肢の骨折についての知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤				<b>【受講して得られる力】</b> 知識・理解 問題解決力 考え抜く力 情報活用能力	
<b>【履修上の注意】</b>					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	胸部の骨折	肋骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
2	胸部の骨折	肋骨骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
3	胸部の骨折	肋軟骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
4	胸部の骨折	肋軟骨骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
5	胸部の骨折	胸骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
6	胸部の骨折	胸骨骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
7	骨盤の骨折	骨盤単独骨折の概説、分類、症状、整復、固定の理論を理解する。			個人
8	骨盤の骨折	骨盤輪骨折概説、分類、症状、整復、固定の理論を理解する。			個人
9	大腿骨骨折	大腿骨近位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
10	大腿骨骨折	大腿骨近位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
11	大腿骨骨折	大腿骨骨幹部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
12	大腿骨骨折	大腿骨骨幹部骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
13	大腿骨骨折	大腿骨遠位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。			個人
14	大腿骨骨折	大腿骨遠位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。			個人
15	総復習	胸部・骨盤・大腿骨の骨折の復習をし理解を深める。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	80% 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		教科書をよく読むこと			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		小野 博司			担任
		接骨院(柔道整復師)29年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2
<b>【授業の概要・目的】</b> 胸部骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての知識を身に付け活用できるようにする。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b> ①胸部骨折と下肢の骨折についての知識を学び身に付ける。 ②胸部骨折と下肢の骨折についての知識を深める。 ③胸部骨折と下肢の骨折についての知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤				<b>【受講して得られる力】</b> 知識・理解 問題解決力 考え抜く力 情報活用能力	
<b>【履修上の注意】</b>					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	膝蓋骨骨折		膝蓋骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
2	膝蓋骨骨折		膝蓋骨骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
3	下腿骨骨折		下腿骨近位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
4	下腿骨骨折		下腿骨近位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
5	下腿骨骨折		下腿骨骨幹部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
6	下腿骨骨折		下腿骨骨幹部骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
7	下腿骨骨折／足関節脱臼骨折		下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
8	下腿骨骨折／足関節脱臼骨折		下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
9	足根骨骨折		足根骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
10	足根骨骨折		足根骨骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
11	足・足趾骨折		中足骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
12	足・足趾骨折		中足骨骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
13	足・足趾骨折		趾骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。		個人
14	足・足趾骨折		趾骨骨折の整復、固定の理論を理解する。		個人
15	総復習		下肢の骨折の復習をし理解を深める。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b> 教科書をよく読むこと					
<b>【本講義についての質問先】</b> 担当教員		<b>【質問方法】</b>		教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の応急処置をするために、症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を理解する。 ②固定肢位(角度)と再発予防を理解する。 ③後療法プログラムを考える力を身につける。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	肩鎖関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する			ペア・グループ
2	肩鎖関節脱臼②	固定法(テーピング)、後療法のプログラム作成する			ペア・グループ
3	肩関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する			ペア・グループ
4	肩関節脱臼②	固定法 後療法のプログラム作成する			ペア・グループ
5	肘関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する			ペア・グループ
6	肘関節脱臼② 肘内障	固定法、後療法のプログラム作成する			ペア・グループ
7	手指PIP関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作を学ぶ			ペア・グループ
8	手指PIP関節脱臼②	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ			ペア・グループ
9	第1指MP関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成を行う			ペア・グループ
10	その他上肢の脱臼 (手指MP、CM、DIP)	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ			ペア・グループ
11	顎関節・股関節脱臼	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成を行う			ペア・グループ
12	膝蓋骨・膝関節・脱臼	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ			ペア・グループ
13	総復習	各脱臼の固定、整復の復習を行う			ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
脱臼の応急処置をするために、症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①転位方向を正確に理解し、整復操作を理解する。 ②固定肢位(角度)と再発予防を理解する。 ③後療法プログラムを考える力を身につける。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	足関節、足部、足趾脱臼	症状、転位の確認、整復操作、固定を学ぶ			ペア・グループ
2	体幹、下肢脱臼まとめ	症状、転位の確認、整復操作、固定を学ぶ			ペア・グループ
3	肩脱臼まとめ (肩鎖、肩関節)	整復操作、固定の復習を学ぶ			ペア・グループ
4	肩脱臼まとめ (肩鎖、肩関節)	整復操作、固定の復習を学ぶ			ペア・グループ
5	肘脱臼まとめ (肘関節、肘内障)	整復操作、固定の復習を学ぶ			ペア・グループ
6	手指脱臼まとめ (MP、PIP関節)	整復操作、固定の復習を学ぶ			ペア・グループ
7	肩鎖関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う			ペア・グループ
8	肩関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う			ペア・グループ
9	肘関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う			ペア・グループ
10	肘内障復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う			ペア・グループ
11	手指PIP関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う			ペア・グループ
12	肩鎖関節脱臼・肩脱臼整復、固定	整復操作、固定の復習を行う			ペア・グループ
13	総復習	各脱臼の固定、整復の復習を行う			ペア
14	実技試験	実技試験			ペア
15	実技試験 解説・再試験				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	肋骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
2	肋骨骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
3	大腿骨骨幹部骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
4	大腿骨骨幹部骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
5	第5中足骨基部裂離骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
6	第5中足骨基部裂離骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
7	第1趾基節骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成		ペア
8	第1趾基節骨骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成		ペア
9	松葉づえ 松葉づえ		調節のしかた 接地部のつきかた 平地の歩き方		ペア
10	肋骨骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 肋骨骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
11	大腿骨骨幹部骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 大腿部骨幹部骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
12	第5中足骨基部裂離骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 第5中足骨骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
13	第1趾基節骨骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 第1趾基節骨骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験 総復習		各グループで復習		ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 転位方向正しく理解し整復操作をする。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		三上 将貴			担任
		接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		症状、転位の確認 整復操作		ペア
2	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
3	下腿骨骨幹部骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
4	下腿骨骨幹部骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
5	果部骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
6	果部骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
7	果部骨折		症状、転位、整復操作、固定の確認		ペア
8	踵骨骨折		症状、転位の確認 整復操作		ペア
9	踵骨骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成		ペア
10	踵骨骨折		症状、転位、整復操作、固定の確認		ペア
11	下腿骨骨幹部骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 下腿骨骨幹部骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
12	膝蓋骨骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 膝蓋骨骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
13	踵骨骨折復習		症状、転位、整復法、固定法の確認 踵骨骨折のキ-ポイントをまとめる		ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試験 総復習		各グループで復習		ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 転位方向正しく理解し整復操作をする。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
関係法規 ※実務経験のある教員等による授業科目		後藤 優弥			担任
		接骨院(柔道整復師)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	15(30)	講義	2
<b>【授業の概要・目的】</b>					
柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、開業時の施術所開設届の作成、および柔道整復師の近年着目されている広告制限についても学習す					
<b>【学習目標(到達目標)】</b>				<b>【受講して得られる力】</b>	
①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。 ②法律とは何か、社会における法の在り方について理解する。 ③医療に関連する法規を身に着け、柔道整復師としてできることは何かを知る。 ④施術所開設届・変更届の方法を理解し、開業時のプロセスを身に着ける。 ⑤広告制限について理解し、社会に認められる柔道整復師の倫理像を身に着ける。				知識・理解 問題解決力	
<b>【履修上の注意】</b>					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	Ⅰ 序論		法律で出る文言の意味、六法など 法の体系		個人
2	Ⅱ 柔道整復師法		第1章 総則 第2章 免許		個人
3	Ⅱ 柔道整復師法		第3章 柔道整復師国家試験 第8章 指定登録機関及び指定試験機関		個人
4	Ⅱ 柔道整復師法		第4章 業務		個人
5	Ⅱ 柔道整復師法		第5章 施術所 (施術所開設届の作成)		個人
6	Ⅱ 柔道整復師法		第6章 雑則 (広告制限とガイドライン)		個人
7	Ⅱ 柔道整復師法		第7章 罰則 (逮捕から起訴までの流れ)		個人
8	中間テスト		柔道整復師法までのまとめ		個人
9	Ⅲ 関係法規		医療資格法規①		個人
10	Ⅲ 関係法規		医療資格法規②		個人
11	Ⅲ 関係法規		医療法①		個人
12	Ⅲ 関係法規		医療法②		個人
13	Ⅲ 関係法規		社会福祉関係法規		個人
14	Ⅲ 関係法規		社会保険関係法規		個人
15	Ⅲ 関係法規 まとめ		その他の関係法規 これまでの復習		個人
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	
<b>【教科書】</b>		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『関係法規』2026年度版 (医歯薬出版)			
<b>【参考書】</b>		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』(医歯薬出版)			
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b>		専門基礎 (公衆衛生学)			
<b>【本講義に関しての質問先】</b>		担当教員	<b>【質問方法】</b>	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
コミュニケーション論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴 佑基			内柴
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
対象者や他職種・上司等と「スムーズな人間関係を築く」こと、仕事をしていく上で「自己管理能力」は重要です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 誰とでもスムーズにコミュニケーションをとることができる。 ② 社会人としての基本的マナーを身に付け、説明することができる。 ③ チーム医療が求められる理由と現状について理解する。 ④ 理学療法士、作業療法士のチームでの役割・業務・等について理解する。				前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】グループワークが主となるため、主体的に参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で身につける個人目標を立てることができる。		グループ
2	医療者になるための準備		医療者としての身だしなみについて理解し、そのポイントをまとめることができる。		グループ
3	自分を理解しよう		コミュニケーションをとるうえで、自身を知ることが重要であるため、自身の特性を知り、理解しまとめることができる。		グループ
4	自分を理解しよう		コミュニケーションをとるうえで、自身を知ることが重要であるため、自身の特性を知り、理解しまとめることができる。		グループ
5	コミュニケーション力を育もう ①		コミュニケーションに必要な能力を学び、活用することができるようになる。		グループ
6	コミュニケーション力を育もう ②		コミュニケーションに必要な能力を学び、活用することができるようになる。		グループ
7	自律した自分になろう		自己管理や自身の使命を理解したうえで、行動できるようになる。		グループ
8	社会人マナーとしてのコミュニケーション ①		社会人に必要なスキルを学び、理解することができる。		グループ
9	社会人マナーとしてのコミュニケーション ②		社会人に必要なスキルを学び、理解することができる。		グループ
10	臨床に役立つコミュニケーションスキル ①		臨床で活用するコミュニケーションにスキルを学び、理解することができる。		グループ
11	臨床に役立つコミュニケーションスキル ②		臨床で活用するコミュニケーションにスキルを学び、理解することができる。		グループ
12	コミュニケーションスキル演習 ①		コミュニケーションに必要なスキルを実践に実践して学び、会得することができる。		グループ
13	コミュニケーションスキル演習 ②		コミュニケーションに必要なスキルを実践に実践して学び、会得することができる。		グループ
14	実技試験①		臨床で活用するコミュニケーションについて、模擬で実技試験を実施し、学んだ技術を発揮することができる。		グループ
15	実技試験②		臨床で活用するコミュニケーションについて、模擬で実技試験を実施し、学んだ技術を発揮することができる。		グループ
期末試験	なし		評価方法	実技試験 40% 課題の達成度 60%	
【教科書】	PT・OT・STのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第3版 医学書院				
【参考書】	随時紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		対人援助職として、積極的な行動や能動的な行動を意識して、講義に臨んでください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井純子			薄井(純)
		病院(作業療法士)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法の最大の特徴である「作業(活動・生活行為)」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する。Occupyの意味、作業療法の土台となる基礎学問を理解し、応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる。 ②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる。 ③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる。 ④作業活動を実際に行い、作業が人に与える身体・心理の影響、癒やしの機序を説明できる。 ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】安全に対する注意を考えながら作業に取り組んでください					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	障害者とリハビリテーションの歴史	障害者の存在の歴史を理解し、リハビリテーションという言葉の意味を理解する。			個人
2	作業療法の成り立ち	作業療法の生まれた背景、歴史を理解し、現代までにどのような変遷をたどったかを理解する。			個人
3	作業科学について1	作業科学の成り立ちと概念、考え方を、日常の生活や作業を通じて理解する。			個人
4	作業科学について2	自分自身の生活や地域の文化的作業について文章化しまとめていけるようにする。			個人
5	作業分析・動作分析1 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する。			個人
6	作業分析・動作分析2 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する。			個人
7	作業分析・動作分析3 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する。			個人
8	作業分析・動作分析4 作品とレポート	作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解し、パソコンを使って分析レポートを作成する。			個人
9	作業療法の体験1 ペーパークラフト	作業療法士に必要なコミュニケーションスキルを活用し、作業療法を体験する。			個人
10	作業療法の体験2 ペーパークラフト	体験した作業療法の効果を様々な視点から分析して、人が作業から何を得るのか理解する。			個人
11	革細工 1	革細工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人
12	革細工 2	革細工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人
13	革細工 3	革細工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人
14	革細工 4	革細工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人
15	革細工 5	革細工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人
期末試験	レポート	評価方法	レポート 70%	課題の達成度 30%	
【教科書】	作業活動実習マニュアル 第2版(医歯薬出版)				
【参考書】	授業の中で紹介				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】製作物、レポートによる評価です。期日は守ってください					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎作業療法学(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		薄井俊介 <sup>1)</sup> 、薄井純子 <sup>2)</sup>			薄井(純)
		1)病院(作業療法士)11年勤務 2)病院(作業療法士)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法の最大の特徴である「作業(活動・生活行為)」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する。Occupyの意味、作業療法の土台となる基礎学問を理解し、応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる。 ②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる。 ③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる。 ④作業活動を実際に行い、作業が人に与える身体・心理の影響、癒やしの機序を説明できる。 ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 創造的思考力 統合的学習体験	
【履修上の注意】安全に対する注意を考えながら作業に取り組んでください					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	木工	薄井	木工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
2	木工	薄井	木工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
3	木工	薄井	木工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
4	木工	薄井	木工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
5	木工	薄井	木工活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
6	裁縫	薄井(純)	裁縫活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
7	裁縫	薄井(純)	裁縫活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
8	裁縫	薄井(純)	裁縫活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
9	裁縫	薄井(純)	裁縫活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
10	籐細工	薄井(純)	籐細工作成を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
11	籐細工	薄井(純)	籐細工作成を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
12	籐細工	薄井(純)	籐細工作成を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
13	籐細工	薄井(純)	籐細工作成を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
14	籐細工	薄井(純)	籐細工作成を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。		個人
15	まとめ	薄井(純)	作業活動とその治療的意味について振り返りとまとめ		個人
期末試験	レポート		評価方法	レポート 70% 課題の達成度 30%	
【教科書】	作業活動実習マニュアル 第2版(医歯薬出版)				
【参考書】	授業の中で紹介				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】レポートと製作物の提出期限は守ってください					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法概論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介			薄井
		病院勤務(作業療法士)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	1	前期	8(15)	講義	1
<b>【授業の概要・目的】</b>					
作業療法とはなにかという専門職の核となる知識を学習する。作業療法士の専門性と独自性について学習し、専門職としてのアイデンティティについて理解を深める。医療、保健、福祉、教育、職業などの幅広い領域で作業に焦点を当てる専門職を理解する。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b>				<b>【受講して得られる力】</b>	
①作業療法の目的や手段について理解することができる ②作業療法士が働く領域や実践の枠組みについて説明することができる ③作業療法について説明できる ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 コミュニケーションスキル	
<b>【履修上の注意】</b> 分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法士と理学療法士の違い	作業療法士と理学療法士の違いについて説明する 作業療法士に求められる資質について説明する			個人
2	作業療法とは	作業・作業療法の定義を説明する 作業療法の歴史と変遷について説明する			個人
3	作業療法実践のプロセス	作業療法処方箋のもと、情報収集について理解する 統合と解釈、目標設定、治療計画立案について理解する			個人
4	身体障害領域、精神障害領域	身体障害、精神障害における作業療法の概要を説明する			個人
5	老年期障害領域、発達障害領域	老年期障害、発達障害における作業療法の概要を説明する			個人
6	作業療法を説明する1	グループ学習を通じて作業療法を理解する			グループ
7	作業療法を説明する2	グループ学習を通じて作業療法を理解する			グループ
8	作業療法を説明する3	課題発表を行い、作業療法を説明する			グループ
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	課題・発表	評価方法	発表会の結果 課題の達成度	70% 30%	
<b>【教科書】</b>	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版(医学書院)				
<b>【参考書】</b>					
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b>		予習課題を事前に提出すること。			
<b>【本講義についての質問先】</b>		担当教員	<b>【質問方法】</b>	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法演習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
作業療法の幅広い対象領域・対象者、手段について体験学習・演習を通して深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 作業療法の面白さ、広さ、深さを知り、他者に説明することができる。 ② 自分とはどのような作業療法士になりたいかを考え、他者に説明することができる。 ③ 専門職に求められる態度や行動を身に付け実践することができる。 ④ 学生間の情報交換・交流ができる。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験	
【履修上の注意】学外での実習を予定しています。受講だけでなく、社会人としての接遇スキルも身につけましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で習得する個人目標を立てることができる。			個人
2	作業療法の実践とは	作業療法の実践の「意味」「形態」「機能」について理解し、その特徴を説明することができる。			個人
3	医療領域における作業療法	医療領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。			個人
4	保健領域における作業療法	保健領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。			個人
5	福祉領域における作業療法	福祉領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。			個人
6	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
7	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
8	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
9	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
10	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
11	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
12	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
13	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
14	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
15	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。			グループ
期末試験	レポートによる	評価方法	レポート 課題の達成度	40% 30%	発表会の結果 30%
【教科書】	教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。				
【参考書】	特に無し。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		講義時間内で調べ・まとめが終わらない時は、次の講義までに進めておくこと。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法演習Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代			田中
		肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務(内JICA5年、作業療法士)			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
作業療法の対象および実践の領域の理解を体験学習・演習を通して深めます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法士の実践の場について説明ができる ②社会人として必要なコミュニケーションの基礎を学び身につける。 ③見学演習を行い、見学実習にむけた自己課題が認識できる。 ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 前に踏み出す力 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】主体的に授業やグループ学習に取り組んでください					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	作業療法士の実践領域		作業療法士の実践領域と各領域における作業療法士の役割について説明できる		個人
2	作業療法の対象者の理解①		作業療法の対象者についてグループワークを通して理解する。また、障害観についても理解を深める。		グループ
3	作業療法の対象者の理解②		作業療法の対象者についてグループワークを通して理解する。また、障害観についても理解を深める。		グループ
4	見学演習に向けた事前準備		挨拶など社会的なマナーや手洗いなどの衛生管理について演習を通して身につける。		グループ
5	見学演習に向けた事前準備		演習を通して話題の提供などコミュニケーションの基本的なスキルを身につける。		グループ
6	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員		保育園での見学実習①		グループ
7	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員		保育園での見学実習②		グループ
8	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員		地域の高齢者支援事業の実習①		グループ
9	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員		地域での高齢者支援事業の実習②		グループ
10	OT領域別の見学演習① OT学科教員		精神障害者就労支援事業所の実習①		グループ
11	OT領域別の見学演習② OT学科教員		精神障害者就労支援事業所の実習②		グループ
12	OT領域別の見学演習③ OT学科教員		特別支援学校の見学		グループ
13	OT領域別の見学演習④ 田中		高齢者施設の見学		グループ
14	まとめ 田中				グループ
15	学習成果の発表 田中		作業療法の対象者や実践の内容について広い視点から説明できる		グループ
期末試験	レポート		評価方法	レポート 60% 発表会の結果 30%	授業への貢献 10%
【教科書】	なし				
【参考書】	適時紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ活動のまとめ					
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業・活動の成り立ちを理解するため、ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ。特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 人体の部位や箇所、複合的な運動の理解をする。 ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する。 ③ 健常者の姿勢、基本的動作の特徴を説明できる。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目ガイダンス	四肢・体幹の運動について、筋の起始停止、神経等について説明できる。(Keyword ; 骨学, 関節学, 筋学, 神経学)			グループ
2	運動力学の基礎(1)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。(Keyword ; 運動軸と面, 重力, 支持基底面, 姿勢)			グループ
3	運動力学の基礎(2)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。(Keyword ; てこ, 力のモーメント, 姿勢・動作)			グループ
4	姿勢(1) 基本姿勢・動作	姿勢の定義、分類について学び、様々な動作の中での基本姿勢について説明できる。(Keyword ; 構え, 体位, アライメント)			グループ
5	姿勢(2) 臥位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 背・腹・側臥位, 抗重力活動)			グループ
6	姿勢(3) 座位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 各種座位, 支持基底面)			グループ
7	姿勢(4) 立位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 重心線の位置, 最適な立位)			グループ
8	基本姿勢のまとめ	前の4回の講義を統合し、それぞれの姿勢の特徴を整理する。			グループ
9	実技試験 (触診)	実技試験オリエンテーション。 臨床場面に適した接遇態度について理解する。			個人
10	体位変換(1)	体位変換(寝返り・起き上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword: 姿勢変換動作, パターン, 動き出しの部位)			グループ
11	体位変換(2)	体位変換(立ち上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ; 姿勢変換動作, パターン, 動き出しの部位)			グループ
12	移動・歩行(1)	歩行の仕組みについて理解を深める。(Keyword ; 歩行周期, 分類, 観察)			グループ
13	移動・歩行(2)	歩行について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ; 分類による特有の役割, 観察分析)			グループ
14	移動・車椅子	移動動作(車椅子)の動作について理解を深める。(Keyword ; 車椅子の操作, 身体の働き)			グループ
15	実技試験 (触診)	指示された部位についての触診手順を説明することが出来る。 患者役に対し、臨床に合わせた適切な対応を取ることができる。			個人
期末試験	前期試験	評価方法	筆記試験 60% 実技試験 30%	小テスト 10%	
【教科書】	石川朗、種村留美 総編集:15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習 中村隆一著:基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)				
【参考書】	適時、講義内で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業・活動の成り立ちを理解するため、ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ。特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 人体の部位や箇所、複合的な運動の理解をする。 ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する。 ③ 健常者の姿勢、基本的動作の特徴を説明できる。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	移動・歩行(疾患別特徴)	基本姿勢における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。(Keyword: 片麻痺, 脊髄損傷, 関節障害, 特徴)			グループ
2	基本動作のまとめ	体位交換における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。(Keyword: 片麻痺, 脊髄損傷, 関節障害, 特徴)			グループ
3	運動学的分析	移動・歩行における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察することができる。(Keyword: 片麻痺, 脊髄損傷, 関節障害, 特徴)			グループ
4	作業・動作分析(1)	基本姿勢・動作について疾患の特徴をふまえ、臨床場面における捉え方を理解する。			グループ
5	作業・動作分析(2)	運動学的分析について理解を深める。			グループ
6	作業・動作分析(3)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 工程分析, 動作分析)			グループ
7	作業・動作分析 発表報告①	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 動作分析, 運動分析)			グループ
8	作業・動作分析(4)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 運動分析, 気になる点を挙げる)			グループ
9	作業・動作分析(5)	前の3回で進めた課題の発表			グループ
10	作業・動作分析(6)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 疾患の特徴, 工程分析, 動作分析, 運動分析)			グループ
11	作業・動作分析 発表報告①	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 気になる点を挙げる, 考察)			グループ
12	作業・動作分析(7)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。(Keyword: 考察を裏付ける)			グループ
13	作業・動作分析(8)	前の3回で進めた課題の発表			グループ
14	移動・車椅子	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。レポート作成			個人
15	実技試験(触診)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。レポート作成			個人
期末試験	前期試験	評価方法	レポート 発表会の結果	60% 20%	課題の達成度 20%
【教科書】	隈元庸夫: 症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作(ヒューマンプレス) 中村隆一著: 基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)				
【参考書】	適時、講義内で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
小児科学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代 肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務(内JICA5年、作業療法士)			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法士として接する機会が多い小児疾患について、その病態と発達との関連を理解する。国家試験該当科目					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①母子保健・小児保健の概要について説明できる ①小児期に多い疾患・障害について説明できる ②作業療法士としての、小児疾患への関わり方を理解する ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】1年次の「人間発達学」を復習して取り組んでください					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	総論	作業療法士として接する機会が多い小児疾患の概要について説明できる			個人
2	小児の成長・発育と発達	小児の発達について知識を確認する			個人
3	母子保健・小児保健①	母子手帳や乳幼児健診の資料から「母子保健・小児保健の概要について理解する			グループ
4	母子保健・小児保健②	グループ内発表と質疑応答を通して、母子保健・小児保健を理解する			グループ
5	新生児・未熟児疾患①	新生児期の用語・定義と新生児期の評価について説明できる			個人
6	新生児・未熟児疾患②	新生児・未熟児の特徴を理解し、関連する疾患について説明できる			個人
7	先天異常・遺伝病①	先天異常と遺伝の用語・定義について理解する			個人
8	先天異常・遺伝病②	先天異常・遺伝病の特徴や関連する疾患について理解する			個人
9	精神心理障害①	小児の精神心理疾患とその特徴についてグループ発表と質疑応答を通して理解する			グループ
10	精神心理障害②	小児の精神心理疾患・障害の特徴と関連する疾患について説明することが出来る			個人
11	神経・筋・骨疾患①	小児に多い神経・筋・骨疾患とその特徴についてグループ活動と質疑応答を通して理解する			グループ
12	神経・筋・骨疾患②	小児に多い神経・筋・骨疾患とその症状について説明することが出来る			個人
13	内部疾患①	小児に多い内部疾患について発生過程と関連して理解する			個人
14	内部疾患②	小児に多い感染症の特徴や関連する疾患について説明することが出来る			個人
15	まとめ	小児期の基本的な疾患について説明する			グループ
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 70% 授業への貢献 10%	課題の達成度	20%
【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 (医学書院)				
【参考書】	適時紹介する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ発表の準備					
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子、内柴 佑基			薄井(純)
		病院(作業療法士)6年勤務、病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
老年期作業療法に必要な基礎的な内容について学習し、特に老年期において特に配慮すべき事項を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高齢者の現状と老年期におけるリハビリテーションの役割について理解できる。 ②加齢性変化や、高齢者特有の疾病・障害を理解できる。 ③高齢者を支援するうえで必要な医療・福祉制度を理解できる。 ④ ⑤				チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】生理学・運動学・解剖学などについて確認のうえ、講義に臨むこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	老年学総論 薄井純		日本および世界における高齢者の現状と課題、リハビリの果たすべき役割、社会保障制度について理解する		個人
2	老年症候群① 薄井純		廃用症候群・フレイル・サルコペニア、運動器疾患の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する。		個人
3	老年症候群② 薄井純		意識障害・失神・めまい・せん妄の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する		個人
4	老年症候群③ 薄井純		低栄養・褥瘡の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する		個人
5	老年症候群④ 薄井純		脱水・浮腫・電解質異常、嚥下障害の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する		個人
6	老年症候群⑤ 薄井純		老年期の評価とその実践を理解する		個人
7	老年期の内部障害 薄井純		老年期の内部疾患の特徴や対応を理解する		個人
8	老年期の内部障害 薄井純		老年期の内部疾患の特徴や対応を理解する		個人
9	整形外科疾患 薄井純		老年期の骨折とリスク管理について理解する		個人
10	認知症(総論、MCI、AD、VaD) 内柴		認知症の基本的知識と各タイプ別(AD、VaD)の臨床像を理解することができる。		個人
11	認知症(DLB、FTLD)、老年期うつ病 内柴		認知症の各タイプ別(DLB、FTLD)の臨床像、老年期うつ病の臨床像を理解することができる。		個人
12	神経疾患 薄井純		高齢者に多い、中枢神経系疾患を理解することができる。		個人
13	高齢者のリハビリテーション 薄井純		老年期の疾患や病態に対しての治療方法について理解することができる		グループ
14	高齢者のリハビリテーション 薄井純		老年期の疾患や病態に対しての治療とリスク管理について理解することができる		グループ
15	福祉の社会資源と法律 薄井純		高齢者を取り巻く環境を理解し、保険やサービス制度、人生の最終段階における医療などについて理解する		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 70% 課題の達成度 20%	受講態度 10%
【教科書】	リハビリテーション基礎講座 老年学(医歯薬出版)				
【参考書】	都度紹介				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次回講義内容を事前に教科書で確認する			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
応用作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野真一			羽川
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
基礎作業療法学で学んだ作業活動だけでなく、治療構造・関わり方の枠組みや意味を理解する。自己の治療的利用を含め、作業療法士としてどういった意図で関わるかについても理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①治療構造とその効果について説明できる ②自己の治療的利用のため、自己の特徴とその活かし方を説明できる ③対象者の身体的、心理的状态に配慮した環境設定について説明できる ④ ⑤				チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	基礎作業療法学の振り返り	作業療法士が作業をどのように活用するか、作業と健康がどのように関係するかを復習する			個人
2	切り絵1	活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する			個人
3	切り絵2	活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する			個人
4	治療構造論	時間、集団の数、集団の構造、治療の枠組み、関わりの方針など、意図的に設定する治療構造について理解する			個人
5	自己の治療的利用	年齢、性別、経験、パーソナリティなどそれぞれ個人の持つ強みや弱みを理解し、治療に活かせる			個人
6	作業活動のトピック①	スポーツダーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。作業が与える影響について考える力を身につける。			グループ
7	作業活動のトピック②	スポーツダーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。作業が与える影響について考える力を身につける。			グループ
8	作業活動のトピック③	e-スポーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。作業が与える影響について考える力を身につける。			グループ
9	作業活動のトピック④	e-スポーツの実践から作業活動の成果を学ぶ。作業が与える影響について考える力を身につける。			グループ
10	作業活動のトピック⑤	リハビリDX・生成AI演習から作業療法手段の可能性を学ぶ。			グループ
11	作業活動のトピック⑥	リハビリDX・生成AI演習から作業療法手段の可能性を学ぶ。			グループ
12	調理	生活に根付く調理活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する			グループ
13	調理	生活に根付く調理活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する			グループ
14	作業の成果	「作業活動のトピック」6回～11回を通じた作業の成果を考察する。			グループ
15	まとめ	「作業活動のトピック」6回～11回を通じた作業の成果を発表する。			グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	70% 30%	
【教科書】	作業療法実践の理論(医学書院) つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版(医歯薬出版)				
【参考書】	作業で語る事例報告 第2版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】分からない点は講義内で質問し、教科書を中心に復習すること。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
応用作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			羽川
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
より実践的な作業療法を理解するために、作業療法の理論を理解し、対象者にどのような実践モデルが適応できるか、専門家と対象者でどのように目標設定していくかを理解する。また、事例を元に臨床家がどのように思考を整理しているか事例から学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法の代表的な理論について説明できる ②作業療法のパラダイム、概念的実践モデル、関連知識の階層を説明できる ③対象者に応じた概念的実践モデルの選択について説明できる(2種類以上) ④対象者の状況に応じて、介入の方向性(回復・代償・習得・教育)の選択について説明できる ⑤多様なクリニカルリーズニングだけでなく、対象者と協働意思決定するSDMIについて説明できる				チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法の近代史	作業パラダイムから機械論パラダイム、そして作業パラダイムへの回帰について理解する			個人
2	作業療法の理論 1	現在の作業療法の2大理論について理解する			個人
3	作業療法の理論 2	現在の作業療法の2大理論について理解する			個人
4	作業的存在としての作業歴	本質主義と社会構成主義について理解する 作業的存在としての作業歴の重要性を理解する			個人
5	クリニカルリーズニング	基本的なクリニカルリーズニング(臨床推論)の視点を理解して、関わり方について検討する			個人
6	概念的実践モデル 1	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する			個人
7	概念的実践モデル 2	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する			個人
8	概念的実践モデル 3	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する			個人
9	概念的実践モデル 4	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する			個人
10	事例検討 1 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する			グループ
11	事例検討 2 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する			グループ
12	事例検討 3 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	概念的実践モデルの視点から対象者を評価して、介入する一連のリーズニング過程を理解する			グループ
13	事例検討 4 (脳卒中・認知症・脊髄損傷・統合失調症)	それぞれの事例のリーズニングと概念的実践モデルの使用方法について発表する			グループ
14	生活行為向上マネジメント 1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する			グループ
15	生活行為向上マネジメント 2	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する			グループ
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	作業療法実践の理論(医学書院)				
【参考書】	作業で語る事例報告 第2版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		配布された予習課題に取り組むようにしてください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			羽川
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法評価学 I では、主に精神科領域の知識のほか、評価の基本となる観察と面接を中心に学習を行う。観察や面接は定性的評価であり、恣意的な解釈になりやすいが、適切に用いられれば細かな情報を得ることができ、本講義では評価のポイントを学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①精神障害者と精神医療の変遷について説明できる ②精神科リハビリテーションがどのように行われているか説明できる ③日本と世界の精神医療について説明できる ④作業療法の効果について限界を含めて説明できる ⑤評価の核である面接と観察を理解し、実施できる				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、課題についてのオリエンテーション 一般社会の偏見ではなく、精神障害の真実を理解する			個人
2	精神障害施策と歴史	精神障害者施策と精神障害の治療の歴史を理解する これまでの精神障害の差別と人権について理解する			個人
3	精神科医療の役割	精神医療に関連する職種やチームのあり方について理解する			個人
4	世界の精神科医療	イタリアのハザリア法から日本の精神医療の現状を理解する			個人
5	これからの精神科医療	リハビリ、エンパワメント、ストレンクスについて理解する クライアント中心の作業療法について理解する			個人
6	作業療法の実践	精神科作業療法について理解する 精神科デイケアについて理解する			個人
7	精神科作業療法の評価 1	精神科作業療法の概要について理解する 情報収集、観察、面接、検査、尺度の意義を理解する			個人
8	精神科作業療法の評価 2	情報(一般情報・医学的情報)の内容と解釈について理解する 情報収集の整理の仕方について理解する			個人
9	精神科作業療法の評価 3	観察の種類や使い方、特徴について理解する 観察の視点を学び、実施、解釈することについて理解する			個人
10	精神科作業療法の評価 4	面接の種類や使い方、特徴について理解する COPMを使った面接を理解する			個人
11	精神科作業療法の評価 5	検査や評価尺度の種類、内容、利用方法について理解する 客観的評価と主観的評価の双方の意味について理解する			個人
12	精神科作業療法の評価 6	精神科作業療法を行う上での評価の視点について理解する 得られた情報からニーズに応じた統合と解釈を理解する			個人
13	精神科作業療法の評価 7	統合失調症の評価についてPBLで理解する			個人
14	精神科作業療法の評価 8	統合失調症の評価についてPBLで理解する			グループ
15	精神科作業療法の評価 9	統合失調症の評価についてPBLで理解する			グループ
期末試験	前記期末試験	評価方法	筆記試験 レポート	80% 20%	
【教科書】	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学(医歯薬出版) 精神科病院を出て、町へ(岩波書店)／主観的感覚と生きづらさに寄り添う(メジカルビュー社)				
【参考書】	図説 精神障害リハビリテーション(中央法規出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題を事前に提出すること。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		高野真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①検査、測定の意味、方法、結果の解釈に必要な知識を習得する。 ②検査、測定の方法を理解、説明できる。 ③検査、測定技術を身につけ、模擬的に実施できる。 ④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる。 ⑤				考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】 実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法と評価 高野	作業療法における評価の意義や目的を理解し、説明できるようになる。			個人
2	作業療法評価の流れ 高野	評価の時期、ICFIに則した評価項目、評価のまとめから問題点の抽出、治療計画立案まで流れを理解する。			個人
3	評価結果の記録と報告 高野	評価内容の記録と報告の重要性について、その意義と特徴を理解し、模擬的に実施できるようになる。			個人
4	面接、観察による評価 高野	評価における面接の技法、観察からの評価の重要性について理解し、模擬的に実施できるようになる。			個人
5	関節可動域の評価① 高野	関節可動域の評価を行う意義について学び、関節可動域の評価方法を理解、説明できるようになる。			個人
6	関節可動域の評価② 高野	上肢を中心に関節可動域の評価を模擬的にを行い、正確に実施できるようになる。			グループ
7	関節可動域の評価③ 高野	下肢を中心に関節可動域の評価を模擬的にを行い、正確に実施できるようになる。			グループ
8	関節可動域の評価④ 高野	体幹を中心に関節可動域の評価を模擬的にを行い、正確に実施できるようになる。			グループ
9	関節可動域測定の確認① 高野	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる。			グループ
10	関節可動域測定の確認② 高野	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる。			グループ
11	関節可動域測定の確認③ 高野	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる。			グループ
12	筋緊張検査 高野	筋緊張検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。			個人
13	形態計測 高野	形態計測の意義について学び、形態計測を実施するためのランドマークを触診し、測定できるようになる。			個人
14	形態計測の確認 高野	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した形態計測が行えるようになる。			グループ
15	発達の評価① 田中	発達のスクリーニングテストの方法と手順を理解し実施できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	実技試験 40%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学第3版(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)				
【参考書】	授業で紹介				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義内容を事前に教科書で確認する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		高野真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	前期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①検査、測定の意義、方法、結果の解釈に必要な知識を習得する。 ②検査、測定の方法を理解、説明できる。 ③検査、測定の技術を身につけ、模擬的に実施できる。 ④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる。 ⑤				考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】 実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	発達の評価② 田中		発達のスクリーニングテストの方法と手順を理解し実施できる。		グループ
2	意識障害の評価 高野		意識障害の特徴を理解し、評価方法を習得する。		個人・グループ
3	バイタルサインの評価 高野		バイタルサインを確認することの重要性を理解し、実践できるようになる。		個人・グループ
4	反射検査① 高野		反射検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。		個人
5	反射検査② 高野		反射検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。		グループ
6	徒手筋力検査(MMT)① 高野		筋力検査の意義や目的を理解し、検査方法の基礎を説明できるようになる。		個人
7	徒手筋力検査(MMT)②上肢 高野		MMTの方法と手順を理解して、上肢のMMTを模擬的に実施できるようになる。		グループ
5	徒手筋力検査(MMT)③下肢 高野		MMTの方法と手順を理解して、下肢のMMTを模擬的に実施できるようになる。		グループ
6	徒手筋力検査(MMT)④体幹・その他 高野		MMTの方法と手順を理解して、体幹およびその他のMMTを模擬的に実施できるようになる。		グループ
7	徒手筋力検査(MMT)の確認① 高野		模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。		グループ
8	徒手筋力検査(MMT)の確認② 高野		模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。		グループ
9	徒手筋力検査(MMT)の確認③ 高野		模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。		グループ
13	徒手筋力検査(MMT)の確認④ 高野		模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。		グループ
14	知覚の評価① 高野		知覚の評価を行う意義について学び、表在感覚および深部感覚の評価方法を理解、説明できるようになる。		個人
15	知覚検査の確認① 高野		模擬患者を対象として、被験者の情報に適した知覚検査が行えるようになる。		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 60% 実技試験 40%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学第3版(医学書院), 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)				
【参考書】	授業で紹介				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義内容を事前に教科書で確認する					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		羽川孝幸 <sup>1)</sup> 、内柴 佑基 <sup>2)</sup>			内柴
		1)病院(作業療法士)7年勤務、2)病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 検査、測定の意義・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する。 ② 検査・測定の方法を理解する。 ③ 検査・測定の技術を身につける。 ④ 疾患に対する評価項目を列挙することができる。 ⑤客観(研究者立脚型)、主観(患者立脚型)の評価の違いを説明できる。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	精神科領域の評価 1 羽川		実際に代表的な検査を実施し、精神科の評価を理解する		個人
2	精神科領域の評価 2 羽川		精神科領域の評価の意義について理解する		個人
3	精神科領域の評価 3 羽川		主観性の評価 ISDA、SMSFについて理解する		個人
4	精神科領域の評価 4 羽川		社会生活の評価① Rehabについて理解する		個人
5	精神科領域の評価 5 羽川		社会生活の評価② LASMIとGAFについて理解する		個人
6	精神科領域の評価 6 羽川		認知機能の評価 BACS-J、ScoRSについて理解する		個人
7	精神科領域の評価 7 羽川		精神症状の評価 BPRS、PANSS、SAPS、SANSについて理解する		個人
8	精神科領域の評価 8 羽川		知的機能の評価 WAIS-Ⅲの構成と評価方法について理解する		個人
9	精神科領域の評価 9 羽川		関連する心理検査① 各種心理検査を説明できる		グループ
10	精神科領域の評価 10 羽川		関連する心理検査② 各種心理検査を説明できる		グループ
11	脳神経検査① 内柴		脳神経系の機能、障害像について理解し、各症状について説明できる。		ペア・グループ
12	脳神経検査② 内柴		脳神経系の機能、障害像について理解し、各症状について説明できる。		ペア・グループ
13	画像評価① 内柴		画像所見から重要な情報を収集することができる。障害の内容や重症度、リハビリの阻害因子は把握することができる		ペア・グループ
14	画像評価② 内柴		画像所見から重要な情報を収集することができる。障害の内容や重症度、リハビリの阻害因子は把握することができる		ペア・グループ
15	上肢機能検査① 内柴		各種上肢機能テストを理解し、実施方法を説明できる。 (Key word: 握力, ピンチ力, リーチ検査)		ペア・グループ
期末試験	後期試験		評価方法	筆記試験 70% 実技試験 30%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版)、 ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)				
【参考書】	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価(医学書院) 逐次、講義の中で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義の内容について、評価学の教科書に目を通しておくこと。					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		羽川孝幸1), 内柴 佑基2)			内柴
		1)病院(作業療法士)7年勤務, 2)病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し, 作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する. 各検査・測定法についての実技形式を中心とする.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 検査, 測定の意義・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する. ② 検査・測定の方法を理解する. ③ 検査・測定の技術を身につける. ④ 疾患に対する評価項目を列挙することができる.				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実習室を使用する際は実習着を着用する. 毎回, 確認して準備すること.					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	上肢機能検査② 内柴		各種上肢機能テストを理解し, 実施方法を説明できる. (Key word: STEF, バーデューペグボード)		ペア・グループ
1	協調性検査 内柴		協調性異常の発生機序について理解し, 機能評価の方法について説明できる. (Key word: 協調性障害, 運動検査)		ペア・グループ
2	姿勢反射検査 内柴		姿勢の捉え方, 姿勢維持の機序を理解し, バランス評価の方法について説明できる. (Key word: 緊張性姿勢, 立ち直り反応, 平衡反応)		ペア・グループ
3	摂食, 嚥下の評価・検査① 内柴		摂食, 嚥下機能, 各々に障害をきたす要因を理解し, 各検査方法について説明できる. (Key word: 嚥下の過程, 機能と障害像)		ペア・グループ
4	摂食, 嚥下の評価・検査② 内柴		摂食, 嚥下機能, 各々に障害をきたす要因を理解し, 各検査方法について説明できる. (Key word: 摂食・嚥下評価, 検査)		ペア・グループ
5	片麻痺機能検査① 内柴		各種片麻痺機能テストを理解し, 実施方法を説明できる. (Key word: BRS, 上田式, WMFT)		ペア・グループ
6	片麻痺機能検査② 内柴		各種片麻痺機能テストを理解し, 実施方法を説明できる. (Key word: FMA, SIAS, MAL, MFT)		ペア・グループ
7	ADLの評価① 内柴		人の生活, 活動の捉え方を理解し, 活動評価の手段について説明できる. (Key word: B. I., FIM, 認知症自立度, FAI)		ペア・グループ
8	ADLの評価② 内柴		人の生活, 活動の捉え方を理解し, 活動評価の手段について説明できる. (Key word: AMPS)		ペア・グループ
9	高次脳機能障害① 内柴		高次脳機能の障害像を理解し, 症状に合わせた評価法の選択を説明できる. (Key word: TMT, RBMT)		ペア・グループ
10	高次脳機能障害② 内柴		高次脳機能の障害像を理解し, 症状に合わせた評価法の選択を説明できる. (Key word: BIT, WCST, FAB, Kohs)		ペア・グループ
12	QOL, 興味, 役割, 痛みの評価① 内柴		QOL, 興味, 役割, 痛みの評価方法を理解し, 適切な手順や方法で実施することができる.		ペア・グループ
13	事例学習① 内柴		グループワーク. 疾患の特徴を理解し, 必要評価項目を列挙することができる.		ペア・グループ
14	実技試験① 内柴		被験者情報に適した測定が実施できる.		個人
15	実技試験② 内柴		被験者情報に適した測定が実施できる.		個人
期末試験	後期試験		評価方法	筆記試験 70% 実技試験 30%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院), 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版), ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)				
【参考書】	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価(医学書院) 逐次, 講義の中で紹介する.				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義の内容について, 評価学の教科書に目を通しておくこと.					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術論(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子			薄井(純)
		病院(作業療法士)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
ADL・IADL動作について作業分析的な観点から動作の構成を運動・認知面から理解できるようになる。疾病・障害によるADL・IADLの特徴を理解し特徴に応じた指導内容の基礎知識を理解できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活活動の概念と範囲を理解し説明することができる。 ②日常生活活動を定量的に評価することができる。 ③日常生活活動を構成する要素を理解し、運動学・解剖学的視点を活用して分析できる。 ④疾病や障害によって起きる身体的・精神的特徴に応じた日常生活指導の原則を理解できる。 ⑤活動や参加を促進する手段的日常生活動作(IADL)を構成する要素を理解し説明できる。				知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】グループワークや演習が多くなりますので動きやすい服装で参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	講義オリエンテーション	日常生活活動(ADL)および手段的日常生活動作(IADL)の概念と範囲を理解し説明することができる。			グループ
2	日常生活活動(ADL)の構成①	日常生活活動(ADL)について作業分析・動作分析・運動分析を行う方法が理解できる。			グループ
3	日常生活活動(ADL)の構成②	日常生活活動(ADL)について作業分析・動作分析・運動分析を行う方法が実践できる。			グループ
4	起居・移動動作の構成要素	寝返りおよび起き上がりの構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
5	移乗動作の構成要素	移乗動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
6	食事動作の構成要素	食事動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
7	トイレ動作の構成要素①	トイレ(排泄)動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
8	トイレ動作の構成要素②	トイレ(排泄)動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
9	更衣動作の構成要素	更衣動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
10	整容動作の構成要素	整容動作の構成を理解できる。動作に必要な身体的要素・精神的要素を理解できる。			グループ
11	ADL各動作の実技の確認	起居移動、移乗、食事動作、トイレ動作、更衣動作、整容動作について振り返りと実技についての習熟度を確認する。			グループ
12	日常生活活動(ADL)の定量的評価①	日常生活活動(ADL)について定量的に評価できる評価法を理解できる。(FIM・BIなど)			グループ
13	日常生活活動(ADL)の定量的評価②	機能的自立度評価表(Functional Independence Measure: FIM)の評定方法を理解し実践できる。			グループ
14	日常生活活動(ADL)の定量的評価③	機能的自立度評価表(Functional Independence Measure: FIM)の評定方法を理解し実践できる。			グループ
15	日常生活活動(ADL)の定量的評価④	バーセルインデックス(Barthel Index: BI)の評定方法を理解し実践できる。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 筆記試験	20% 50%	実技試験 30%
【教科書】	最新作業療法学講座 日常生活活動(ADL)				
【参考書】	講義の際に紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		課題は必ず期限内に提出してください			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術論(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子			薄井(純)
		病院(作業療法士)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
ADL・IADL動作について作業分析的な観点から動作の構成を運動・認知面から理解できるようになる。疾病・障害によるADL・IADLの特徴を理解し特徴に応じた指導内容の基礎知識を理解できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活活動の概念と範囲を理解し説明することができる。 ②日常生活活動を定量的に評価することができる。 ③日常生活活動を構成する要素を理解し、運動学・解剖学的視点を活用して分析できる。 ④疾病や障害によって起きる身体的・精神的特徴に応じた日常生活指導の原則を理解できる。 ⑤活動や参加を促進する手段的日常生活動作(IADL)を構成する要素を理解し説明できる。				知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】グループワークや演習が多くなりますので動きやすい服装で参加してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	脳血管障害のADL①	脳血管障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
2	脳血管障害のADL②	脳血管障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
3	パーキンソン病のADL	パーキンソン病を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
4	脊髄損傷のADL①	脊髄損傷を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
5	脊髄損傷のADL②	脊髄損傷を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
6	呼吸器疾患のADL	呼吸器疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
7	循環器疾患のADL	循環器疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
8	慢性関節リウマチのADL	慢性関節リウマチ(RA)を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
9	人工股関節置換術後のADL	人工股関節置換術後の対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
10	神経・筋疾患のADL	神経・筋疾患を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
11	精神障害のADL	精神障害を持つ対象者のADL・IADL遂行上の特徴を理解し、指導方法の原則を理解することができる。			グループ
12	疾患毎のADL実技	各疾患のADLの特徴について、知識と習熟度について確認する。			グループ
13	生活行為向上マネジメント(MTDLP)①	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の構成要素・使用方法について症例を通じて理解できる。			グループ
14	生活行為向上マネジメント(MTDLP)②	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の構成要素・使用方法について症例を通じて理解できる。			グループ
15	自助具と生活支援機器	疾患・障害を持つ対象者に必要な自助具や生活支援機器を作成することができる。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 筆記試験	20% 50%	実技試験 30%
【教科書】	最新作業療法学講座 日常生活活動(ADL)				
【参考書】	講義の際に紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】課題は必ず期限内に提出してください					
【本講義に関する質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価演習 ※実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子 <sup>1)</sup> 、内柴 佑基 <sup>2)</sup>			内柴
		1)病院6年 2)病院7年 3)病院7年 ※作業療法士として勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
医療専門職は知識だけでなく、対象者と関わるうえで態度や人間性、遂行する技術が必須となる。本講義では演習を通して前述する技能の習得を目的に、対象者への説明、実習指導者との関係、基本的な評価の実施を包括的に学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①対象者へ評価の説明が実施できる ②指導者への報告・連絡・相談ができる ③実習生として望ましい態度で関わりができる ④評価を行う根拠を説明できる ⑤指導者の助言、見守りのもと、一連の評価を遂行することができる				考え抜く力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験	
【履修上の注意】 演習が中心であり、実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーションとリスク管理		臨床実習において実習指導者や対象者との望ましい関係を築き、リスク管理を行いながら学生らしい行動で評価を実践できる		グループ
2	症例1 脳血管障害急性期 バイタル測定		脳血管障害急性期のバイタルチェックの内容を理解し実践できる		グループ
3	症例1 脳血管障害急性期 関節可動域測定		片麻痺患者の関節可動域について、注意点や技術を身につけて実践できる		グループ
4	症例1 脳血管障害急性期 形態計測・反射検査		片麻痺患者の身体状況について、注意点や計測技術、反射検査を身につけて実践できる		グループ
5	症例2 脳血管障害回復期 筋力測定		片麻痺患者の筋力測定について、注意点や測定技術を身につけて実践できる		グループ
6	症例2 脳血管障害回復期 BRS		脳血管障害による片麻痺のBrunnstromStageについて理解し評価実践できる		グループ
7	症例2 脳血管障害回復期 感覚検査		感覚検査について理解して実施する		グループ
8	症例3 運動失調 高次脳機能障害の推測		高次脳機能障害を理解し、面接所見から評価・推測することができる		グループ
9	症例3 運動失調 ADL評価		移乗・更衣動作の介助、観察からADLの評価を実践できる		グループ
10	症例3 運動失調 ADL評価		食事・整容動作の介助、観察からADLの評価を実践できる		グループ
11	症例3 運動失調 バランス評価		平衡機能を理解しTUG、FRT、FBSによる評価を実践できる		グループ
12	症例3 運動失調 動作、歩行分析		姿勢、歩行分析のポイントと記録の仕方について理解し実践できる		グループ
13	症例4 精神疾患 療法士面接		基本的なコミュニケーションの技術を身につける COPM、MTDLPによる聞き取りを実践できる		グループ
14	症例4 精神疾患 観察による評価		観察による精神疾患の評価を理解し実践できる		グループ
15	評価演習のまとめ		臨床実習に活かせる評価を理解して実践できるよう学習する		グループ
期末試験	客観的臨床技能試験(OSCE)		評価方法	受講態度 50% OSCE 50%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	資料を講義時に配布する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実技実習室を予約してある時間を使って、課題の予習・復習に取り組むこと			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術演習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介 病院勤務(作業療法士)11年勤務			薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
<b>【授業の概要・目的】</b> 正常なADL動作を理解し、逸脱している動作および運動を抽出できるようになる。動作分析結果を解釈し原因について指導法を習得できる。IADL動作について作業分析ができ、応用アプローチや社会適応アプローチが実践できる。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b> ①正常なADL動作が理解できる。 ②疾患や障害を持つ対象者のADL動作が分析できる。 ③逸脱する理由を列挙し、評価結果に基づいて妥当な解釈を行うことができる。 ④逸脱している動作について解決するための方法を考えることができる。 ⑤原因に合わせた動作指導が実践できる。				<b>【受講して得られる力】</b> 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力	
<b>【履修上の注意】</b> 演習が中心になりますので動きやすい服装で、バインダーと携帯電話を必ず持参するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	講義オリエンテーション	作業分析・動作分析・運動分析の復習ができ、それぞれの差異について説明できる。			グループ
2	ADLの定量的評価	FIMおよびBIについて内容を復習し知識を確認できる。事例に基づいて妥当な評定をつけることができる。			グループ
3	基本姿勢	基本姿勢の定義および姿勢観察のポイントを理解でき、疾患・障害を持つ方の姿勢観察ができる。			グループ
4	起居動作分析①	寝返りおよび起き上がりに必要な動作要素および運動が理解できる。			グループ
5	起居動作分析②	起居動作の観察した内容から原因を列挙することができる。妥当な指導を選択できる。			グループ
6	移動動作分析①	歩行動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
7	移動動作分析②	歩行動作の観察した内容から原因を列挙することができる。妥当な指導を選択できる。			グループ
8	移乗動作分析①	移乗動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
9	移乗動作分析②	移乗動作の観察した内容から原因を列挙することができる。妥当な指導を選択できる。			グループ
10	更衣・整容動作分析①	更衣・整容動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
11	更衣・整容動作分析②	更衣・整容動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
12	トイレ動作分析①	トイレ動作の観察した内容から原因を列挙することができる。妥当な指導を選択できる。			グループ
13	トイレ動作分析②	トイレ動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
14	食事動作分析①	食事動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
15	食事動作分析②	食事動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる。逸脱しやすい点が理解できる。			グループ
期末試験	筆記試験(国家試験形式)	評価方法	課題の達成度 50%	受講態度 50%	
【教科書】	PT OTビジュアルテキストADL 第2版 羊土社				
【参考書】	特に定めない				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		症例動作分析の動画を観て動作分析を毎回予習課題として提出して頂きます。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術演習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介 病院勤務(作業療法士)11年勤務			薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
<b>【授業の概要・目的】</b> 疾患・障害による日常生活活動の特徴を理解し説明できる。疾患・障害によって起きる日常生活活動の特徴に応じた指導内容および自助具選択の原則が理解でき実践できる。					
<b>【学習目標(到達目標)】</b> ①疾患・障害に応じた日常生活活動の特徴を理解し説明できる。 ②MTDLPを活用したアセスメントができる。 ③MTDLPを活用して応用的プログラム・社会適応プログラムを立案できる。 ④対象者に合わせて指導方法を修正することができる。 ⑤疾患・障害に応じた動作指導・自助具選択・環境設定ができる。				<b>【受講して得られる力】</b> 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力	
<b>【履修上の注意】</b> 演習が中心になりますので動きやすい服装で、バインダーと携帯電話を必ず持参するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生活行為向上マネジメント (MTDLP) ①	生活行為向上マネジメントの構成要素・使用方法について理解できる。			グループ
2	生活行為向上マネジメント (MTDLP) ②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPアセスメントシートを作成し、分析できる。			グループ
3	治療プログラム立案①	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPに基づき応用的・社会適応プログラムを立案する。			グループ
4	治療プログラム立案②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPに基づき応用的・社会適応プログラムを立案する。			グループ
5	事例報告①	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを共有・ディスカッション、修正する。			グループ
6	事例報告②	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを共有・ディスカッション、修正する。			グループ
7	整形外科事例演習①	整形外科疾患の事例について情報共有、ディスカッションし、ADL・IADLプログラムを立案できる。			グループ
8	整形外科事例演習②	立案したADL・IADLプログラムについて、対象者への説明用資料が作成できる。			グループ
9	整形外科事例報告	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを実演、共有、ディスカッションし、修正できる。			グループ
10	脊髄損傷事例演習①	脊髄損傷の事例について情報共有、ディスカッションし、ADL・IADLプログラムを立案できる。			グループ
11	脊髄損傷事例演習②	立案したADL・IADLプログラムについて、対象者への説明用資料が作成できる。			グループ
12	脊髄損傷事例報告	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを実演、共有、ディスカッションし、修正できる。			グループ
13	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病①	各疾患について、ADL・IADL指導法を他のグループに説明できる。			グループ
14	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病①②	各疾患について、ADL・IADL指導法をジグソー学習し説明できる。			グループ
15	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病 事例報告	応用プログラムと社会適応プログラムを実演、共有、ディスカッションし、修正できる。			グループ
期末試験	筆記試験(国家試験形式)	評価方法	課題の達成度 50%	筆記試験 50%	
<b>【教科書】</b>	PT OTビジュアルテキストADL 第2版 羊土社				
<b>【参考書】</b>	特に定めない				
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b>		講義の時間内で課題が終わるようにしています。効率的に時間を使用してください。			
<b>【本講義についての質問先】</b>	担当教員	<b>【質問方法】</b>	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
精神科作業療法治療学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			羽川
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを説明できる ②精神科作業療法の評価と実践について説明できる ③治療技術として精神科リハビリテーションの各種技法を説明できる ④事例をもとに評価のポイント、目標設定、介入について説明できる ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	統合失調症の理解と作業療法 1	統合失調症の疾患特性と一般的な治療を理解する 精神障害における薬物療法を理解する			個人
2	統合失調症の理解と作業療法 2	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する			個人
3	統合失調症の理解と作業療法 3	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する			個人
4	パラレル作業療法	パラレルな作業療法の特徴と効果について理解する パラレルな作業療法での意図したかかわりについて理解する			個人
5	集団作業活動	集団作業活動の特徴と効果について理解する 集団作業活動での意図したかかわりについて理解する			個人
6	認知リハビリテーション(NEAR、SCIT、MCT)	神経認知の訓練を行うNEAR、社会的認知の訓練を行うSCIT、メタ認知の訓練を行うMCTについて理解する			個人
7	認知行動療法	認知行動療法について、代表的なうつ病の認知療法とコラム法について理解する			個人
8	生活技能訓練(SST)演習	社会学習理論について理解し、社会生活技能に介入するSSTについて理解する			個人
9	心理教育と家族心理教育	教育モデルによる心理教育の現状について理解する EBPとNBPをつなぐ技術について考察する			個人
10	元気回復行動プランとピアカウンセリング	セルフコントロール・セルフヘルプとして代表的なWRAPと、当事者によるピアカウンセリングについて理解する			個人
11	IMRとACT・IPS	リハビリを志向するプログラムであるIMRについて理解する 重度障害であっても対応するACTとIPSについて理解する			個人
12	べてるの家と当事者研究	ソーシャルキャピタルの視点から、べてるの家というコミュニティと当事者研究という手法を理解する			個人
13	PBL(事例A)1	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する			個人
14	PBL(事例A)2	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する			個人
15	PBL(事例A)3	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する			個人
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	主観的感覚と生きづらさに寄り添う(メディカルビュー) 生活を支援する精神障害作業療法(医歯薬出版)				
【参考書】	図説 精神科リハビリテーション(中央法規出版)／はじめての認知療法(講談社) 精神障害と作業療法(三輪書店)／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳(日本評論社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		配布される国家試験問題を通して理解を深めること			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
精神科作業療法治療学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			羽川
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを説明できる				知識・理解	
②精神科作業療法の評価と実践について説明できる				専門職としてのスキル・意識	
③治療技術として精神科リハビリテーションの各種技法を説明できる				統合的学習体験	
④				問題解決力	
⑤				論理的思考力	
【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	気分障害の理解と作業療法 1		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
2	気分障害の理解と作業療法 2		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する リワークデイケアについて理解する		個人
3	神経症性障害の理解と作業療法 1		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
4	神経症性障害の理解と作業療法 2		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
5	パーソナリティ障害の理解と作業療法 1		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
6	パーソナリティ障害の理解と作業療法 2		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
7	てんかんの理解と作業療法		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
8	知的障害の理解と作業療法		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
9	摂食障害の理解と作業療法		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
10	依存性疾患の理解と作業療法		疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する		個人
11	入院医療の作業療法		入院医療における対象者の現状と作業療法を理解する		個人
12	精神科作業療法における実際 (事例検討：入院)		精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する		個人
13	地域医療の作業療法		地域医療における対象者の現状と作業療法を理解する		個人
14	精神科作業療法における実際 (事例検討：地域)		精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する		個人
15	精神科作業療法における実際 (まとめ)		精神科作業療法介入の入院から地域支援における役割およびライフステージに応じた介入について理解する		個人
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学(医歯薬出版) 精神科病院を出て、町へ(岩波書店)／主観的感覚と生きづらさに寄り添う(メジカルビュー社)				
【参考書】	図説 精神科リハビリテーション(中央法規出版)／はじめての認知療法(講談社) もう少し知りたい統合失調症の薬と脳(日本評論社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			配布される国家試験問題を通して理解を深めること		
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢・装具学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
切断等の身体外傷についての知識を身につけ、義肢・装具・補装具等のハード面の知識及び、各疾患ごとの補装具について学習を進める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①切断者に関する障害像、生活を理解する。 ②義肢・装具・補装具について特性を理解する。 ③各疾患における義肢・装具の種類や役割について理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】国家試験、実習に向けた内容となります。想起・引用を想定した講義参加をしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	義肢装具学ガイダンス	切断者・義肢使用者に対するOTの理念と役割について理解する			個人
2	義肢総論	切断に関する基礎知識を理解する。 Keyword: 切断の原因・分類, 義手の種類			個人
3	義手の基本構造, 分類, 部品	各種義手の特性, 切断部位別の部品の選定について理解する。 Keyword: 切断部位の選択, 構造, ハーネス, ソケット, 継手, 手先具			個人
4	能動義手と筋電義手	能動義手, 筋電義手について理解を深める。 Keyword: 構造, 部品の選択, 力源			個人
5	切断者・義手の評価	各種評価について理解する。 Keyword: 生活・参加などの評価, 適合判定(チェックアウト)			個人
6	義肢の支給制度	公的支給制度について理解する。 Keyword: 補装具の定義, 社会福祉関連, 社会保険関連			個人
7	切断者に対する作業療法	義手使用者に対する作業療法, 義手訓練について理解する。 Keyword: 装着前訓練, 訓練用義手(処方, 作製), 義手操作訓練			個人
8	切断者に対する評価	身体状況, 背景を含んだ評価について理解する。 Keyword: 生活行為向上マネジメント			個人
9	下肢切断, 義足	下肢切断に関する基礎知識を理解する。 Keyword: 切断の原因・分類, 各種義足の特徴			個人
10	事例学習①	グループワーク サマリー作成手順に沿って, 事例情報を整理できる。			グループ
11	事例学習②	グループワーク サマリー作成手順に沿って, 評価の列挙と記録の整理ができる。			グループ
12	事例学習③	グループワーク レジュメ作成手順に沿って, プログラム立案と設定ができる。			グループ
13	上肢装具作製実習①	対象者に合わせたスプリントを作成する。 Keyword: デッサン, モデリング, 成形			グループ
14	上肢装具作製実習②	対象者に合わせたスプリントを作成する。 Keyword: トリミング, リモデリング			グループ
15	科目のまとめ	前期の学習内容のまとめ, 統合を行う。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 課題の達成度	60% 30%	受講態度 10%
【教科書】	義肢装具と作業療法(医歯薬出版)				
【参考書】	適時、講義内で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて、事前に資料を配布。予習課題も提示する。					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
高次脳機能治療学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴 佑基			内柴
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
高次脳機能障害作業療法学における、評価・計画・実施・統合と解釈、治療計画立案ができるようになる。 高次脳機能障害についての特徴や医学的知識、心理学的知識を学ぶ事ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高次脳機能障害についての概要や特徴を述べる事ができる。 ②高次脳機能作業療法に必要な評価方法を学び、実践する事ができる。 ③評価結果を基に、統合と解釈を行い、治療計画立案する事ができる。 ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 統合的学習体験	
【履修上の注意】 神経系解剖学、生理学の復習や資料の見直しをしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高次脳機能についての概論	高次脳機能の特徴や概要や脳機能の局在について理解する事ができる。画像診断や神経心理学的検査の意義について理解できる。			個人
2	意識障害と注意障害、半側空間無視 : 概要と評価	意識障害・注意障害、半側空間無視の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
3	意識障害と注意障害、半側空間無視 : 評価と治療	JCSやGCS、TMT、BITを体験し、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
4	記憶障害・見当識障害: 概要と評価	記憶障害・見当識障害の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
5	記憶障害・見当識障害: 評価と治療	HDS-R、MMSE、RBMTを体験し、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
6	失行: 概要と評価	失行の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
7	失行: 評価と治療	失行のスクリーニング検査を体験し、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
8	失認: 概要と評価	失認の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
9	失認: 評価と治療	失認のスクリーニング検査を体験し、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
10	言語障害: 概要と評価	言語障害の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
11	言語障害: 評価と治療	標準失語症検査(SLTA)を体験し、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
12	遂行機能障害: 概要と評価	遂行機能の所見や症状、評価方法について理解できる。			個人
13	遂行機能障害: 評価と治療	WCST、FABを体験して、結果の解釈を述べる事ができる。ケーススタディを通し介入方法を学び、治療計画立案できる。			グループ
14	社会的行動障害・感情障害 : 概要と評価、治療	社会的行動障害・感情障害の所見や症状、評価方法について理解できる。DEX、FBI、SDSを体験し、結果の解釈を述べる事ができる。			個人
15	高次脳機能障害と社会復帰支援	高次脳機能障害支援事業の活用や就労支援について理解できる。高次脳機能障害に対する運転再開について、理解できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%	小テスト 30%	
【教科書】	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版 (医学書院)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 小テストを行いますので、復習をしてください。					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年期作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子 病院(作業療法士)6年勤務			薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】 老年期作業療法の目的・対象・具体的介入内容を理解できる。老年期作業療法実践のための知識および技術を身につけることができる。					
【学習目標(到達目標)】 ①老年期における作業療法の目的・目標を理解することができる。 ②老年期作業療法の土台となる理論を理解し活用することができる。 ③その人らしい生活を援助するための評価・治療技術を身につけることができる。 ④認知症を持つ対象者への評価および介入を実践できる。 ⑤整形疾患のある対象者の評価および治療技術を身につけることができる。				【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】 理論的な背景から具体的な介入技術まで幅広く体験しながら学びます。能動的に取り組むようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老年期作業療法の背景	高齢化社会の実情や課題を説明できる。老年期作業療法の根拠となる社会福祉制度について説明できる。			個人
2	老年期作業療法の対象	老年期作業療法の対象となる高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し説明できる。			個人
3	「その人らしさ」を尊重する作業療法	役割・生きがい・生活習慣・環境の評価を理解できる。「その人らしさ」を理解する要素について情報収			個人
4	認知症の基礎知識①: AD	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。			個人
5	認知症の基礎知識②: VaD、DLB	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。			個人
6	認知症の基礎知識③: FTLD、その他	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。			個人
7	認知症に関連する評価方法	認知症に関連する評価方法や環境、作業療法の目的などを理解し、説明できる。			グループ
8	認知症者と家族の視点と支援方法	認知症者と家族を支援する上で、必要な視点や方法を学び、説明できる。			個人
9	主な認知症と作業療法①	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる。			グループ
10	主な認知症と作業療法②	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる。			グループ
11	主な認知症と作業療法③	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる。			グループ
12	高齢者の病期に応じた治療・援助	高齢期の病期ごとに起こる病態を学び、治療方法や支援方法を学び、説明することができる。			個人
13	老年期症候群と予防医学について	フレイル、サルコペニア、廃用症候群について学び、予防医学に視点からの介入方法について学ぶ			個人
14	老年期の整形外科疾患と作業療法①	高齢者に起こりやすい骨折について学び、評価・介入方法を学び、説明できる。			個人
15	老年期の整形外科疾患と作業療法②	高齢者に起こりやすい骨折について学び、評価・介入方法を学び、説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70% 発表会の結果 30%		
【教科書】	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版 (医学書院)				
【参考書】	認知障害作業療法ケースブック 疾患別にみる認知症と作業療法 AD, DLB, FTLDを中心に (メジカルビュー社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		演習内容を振り返り、疑問点をまとめる時間を必ず設けるようにしてください。			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
発達障害作業療法学 (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代			田中
		肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務(内JICA5年、作業療法士)			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。国家試験科目に該当する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①正常発達の知識を作業療法の治療に応用できる ②発達期領域の作業療法「評価」の実際について習得する ③発達障害領域の基本的な「治療的アプローチ」について習得する ④疾患・障害別の評価項目や治療アプローチの基本について習得する ⑤				考え抜く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】1年次の「人間発達学」、2年次の「小児科学」を復習して取り組んでください					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	発達障害領域の作業療法概論①		発達障害の定義, 対象疾患, チームアプローチについて理解する.		個人
2	発達障害領域の作業療法概論②		発達障害領域の作業療法評価の概要と流れを理解する.		個人
3	作業療法評価①(動作分析・課題分析)		小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し、観察場面での評価に活用できる (ADL関連行為)		グループ
4	作業療法評価②(動作分析・課題分析)		小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し、観察場面での評価に活用できる(学業関連行為)		グループ
5	作業療法評価③(評価バッテリー)		小児領域の評価バッテリー(心身機能・身体構造レベル/活動・参加レベル)を整理し、OT評価に活用できる		グループ
6	作業療法評価⑤(評価のまとめ、立案)		小児領域の評価についてまとめ、事例に合わせた評価計画立案と実施ができる		グループ
7	治療理論と評価・技術①-1		「感覚統合理論」を理解し、JSI-R, 感覚プロフィール、JMAP等を用いて感覚運動・認知面の評価ができる		グループ
8	治療理論と評価・技術①-2		「感覚統合理論」を理解し、OT介入方法の基礎を習得する		グループ
9	治療理論と評価・技術②-1		「神経発達学的治療理論」を理解し、原始反射や運動面の評価ができる		グループ
10	治療理論と評価・技術②-2		「神経発達学的治療理論」を理解し、ハンドリングの基礎を習得する		グループ
11	治療理論と評価・技術②-3		「神経発達学的治療理論」を理解し、ハンドリングからシーティング・座位保持装置につなげる		個人
12	治療理論と評価・技術③-1		「応用行動分析理論」を理解し、行動面の評価ができる		個人
13	治療理論と評価・技術③-2		「応用行動分析理論」を理解し、SSTなどコミュニケーションや社会面へのOT介入方法を身につける		個人
14	家族支援		小児領域の生活支援・家族支援について理解する		個人
15	前期のまとめ		前期のまとめを行い、小児領域の評価と治療について説明できるようになる		グループ
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験 70% レポート 30%	
【教科書】		標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版 (医学書院)			
【参考書】		適時紹介します			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習、グループ活動の準備			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
発達障害作業療法学 (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代			田中
		肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務(内JICA5年、作業療法士)			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。国家試験科目に該当する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する ②発達期領域の作業療法「評価」の実際について習得する ③発達障害領域の基本的な「治療的アプローチ」について習得する ④疾患・障害別の評価方法と治療アプローチの基本について習得する ⑤				考え抜く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】		1年次の「人間発達学」、2年次の「小児科学」を復習して取り組んでください			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法実践②脳性麻痺・重症心身	脳性麻痺・重症心身の特徴をふまえ、作業療法評価、治療プログラム立案、実施の一連の流れについて理解し、実施することができる。(ADLを中心にプログラム立案・実施する)			グループ
2					
3					
4					
5		グループ発表・質疑応答を通して理解を深める			グループ
6	作業療法実践②発達障害	発達障害(自閉スペクトラム症, ADHD, 学習障害など)の特徴を理解し、作業療法評価・立案・アプローチについて理解し、プログラム立案、実施準備ができる。			グループ
7					
8					
9					
10		グループ発表・質疑応答を通して理解を深める			グループ
11	治療各論①	脳性麻痺・重症心身の評価と治療について説明ができる			個人
12	治療各論②	デュシャンヌ型筋ジストロフィーの評価と治療について説明ができる			個人
13	治療各論③	分娩麻痺、二分脊椎の評価と治療について説明ができる			個人
14	治療各論④	知的障害・発達障害の評価と治療について説明ができる			個人
15	全体のまとめ	小児領域全体の作業療法評価と介入について説明ができる			個人
期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験 発表会の結果	70% 30%	
【教科書】	標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版 (医学書院)				
【参考書】	適時紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		グループ活動の準備			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内部障害作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一			高野
		病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法で関わる内部疾患各々の疾患についての理解は重要である。本講では各疾患の特徴をふまえた作業療法支援について理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①内部疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】 実習に向けた主要科目となります。覚えるだけでなく、想起・引用を想定した講義参加をしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目ガイダンス	講義の進め方, 事前学習の方法について説明する。 内部疾患の特徴について復習。			個人
2	治療学の基礎1 検査所見と身体所見	各疾患の検査及び身体に関する所見を理解する。			個人
3	治療学の基礎2 吸引 (星)	作業療法士が吸引する意味とアセスメント及びリスクをふまえた手順を理解する。			個人
4	治療学の基礎3 吸引 (星)	作業療法士が吸引する意味とアセスメント及びリスクをふまえた手順を理解する。			個人
5	治療学各論1-1 呼吸器疾患	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
6	治療学各論1-2 呼吸器疾患	疾患事例を通して評価の計画について理解する。			個人
7	治療学各論2-1 循環器疾患	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
8	治療学各論2-2 循環器疾患	疾患事例を通して評価の計画について理解する。			個人
9	治療学各論3-1 がん	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
10	治療学各論3-2 がん	疾患事例を通して評価の計画について理解する。			個人
11	治療学各論4-1 サルコペニアとリハ栄養	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
12	治療学各論4-2 サルコペニアとリハ栄養	疾患事例を通して評価の計画について理解する。			個人
13	治療学各論5-1 糖尿病	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
14	治療学各論5-2 糖尿病	疾患事例を通して評価の計画について理解する。			個人
15	治療学各論6-1 下部尿路機能障害	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	小林 編:身体障害作業療法学2 内部疾患編(羊土社) 上杉 監:PT・OT入門 イラストで分かる内部障害(医歯薬出版)				
【参考書】	浅野 編:なるほどなっとく内科学 改訂第2版(南山堂)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 classroomを通じて、事前に資料を配布。					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
中枢神経系作業療法学 (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子 病院(作業療法士)6年勤務			薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】 中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。				【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】 実習に向けて実践的なアプローチを考えていけるよう中枢系の解剖・生理を復習すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目ガイダンス	講義の進め方、事前学習の方法について説明する。脳の解剖、中枢神経と末梢神経の機能について復習。			個人・グループ
2	治療学の基礎1 運動学習	人が学習する基本理論と実践方法について理解する。			個人・グループ
3	治療学の基礎2 行動変容	日常生活上での麻痺手の使用改善に対する意義を理解する。			個人・グループ
4	治療学の基礎3 知覚再教育	感覚、知覚の障害に対する治療理論を理解する。			個人・グループ
5	治療学の基礎4	抑制と促通に力点をおいた治療の基本理論を理解する。			個人・グループ
6	治療学の基礎5 生活行為	MTDLPを使用した基本的な考え方を理解する。			個人・グループ
7	治療学の基礎6 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。			個人・グループ
8	治療学の基礎7 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。			個人・グループ
9	治療学の基礎8 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ、アクティビティの利用について理解する。			個人・グループ
10	治療学の基礎9 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ、アクティビティの利用について理解する。			個人・グループ
11	治療学各論1 脳卒中	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ：目標設定と介入プログラム			個人・グループ
12	治療学各論2 脊髄損傷	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ：目標設定と介入プログラム			個人・グループ
13	治療学各論3 神経変性疾患	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ：目標設定と介入プログラム			個人・グループ
14	治療学各論4 神経免疫疾患	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ：目標設定と介入プログラム			個人・グループ
15	治療学のまとめ	事例を通して治療場面の推論の立て方を学ぶ。 グループワークテーマ：クリニカルリーズニング、EBOT、治療理論			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	課題の達成度 20%	
【教科書】	身体機能作業療法学 (医学書院)				
【参考書】	病気がみえる 脳・神経 (メディックメディア)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 生理学、解剖学の教科書も都度参考にしてください					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
中枢神経系作業療法学 (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 純子 病院(作業療法士)6年勤務			薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】 中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。				【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】 実習に向けて実践的なアプローチを考えていけるよう中枢系の解剖・生理を復習すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	治療学各論5	ボバース療法、促通反復療法について理解する。 課題指向型リハビリテーションについて理解する。			個人・グループ
2	治療学各論6 課題指向型リハビリテーション	演習 事例を通して理論についての理解を深め実践する。			個人・グループ
3	治療学各論7 認知運動療法	認知運動療法について理解する。 事例を通じて理論についての理解を深める			個人・グループ
4	治療学各論8 CVA	演習 事例を通して理論について理解を深める。			個人・グループ
5	治療学各論9 CVA	演習 事例を通して理論について理解を深める。			個人・グループ
6	治療学各論10 脊髄損傷	演習 事例を通して理論について理解を深める。			個人・グループ
7	治療学各論11 脊髄損傷	演習 事例を通して理論について理解を深める。			個人・グループ
8	治療学各論12 パーキンソン病	演習 事例を通して理論について理解を深める。			個人・グループ
9	治療学演習1	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。			個人・グループ
10	治療学演習2	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。			個人・グループ
11	治療学演習3	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。			個人・グループ
12	治療学演習4	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。			個人・グループ
13	治療学演習1 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。			個人・グループ
14	治療学演習2 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。			個人・グループ
15	治療学演習3 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%		
教科書】	身体機能作業療法学 (医学書院)				
参考書】	病気がみえる 脳・神経 (メディックメディア)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		生理学、解剖学の教科書も都度参考にしてください			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
末梢神経系作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一 <sup>1)</sup> 、半谷 智辰 <sup>2)</sup>			高野
		1) 病院(作業療法士)7年勤務、2) 病院(作業療法士)18年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	3	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で関わる末梢神経疾患各々の疾患についての理解は重要である。本講では各疾患の特徴をふまえた作業療法支援について理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①末梢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】 実習に向けた主要科目となります。覚えるだけでなく、想起・引用を想定した講義参加をしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目ガイダンス 高野	講義の進め方、事前学習の方法について説明する。 末梢神経疾患の特徴について復習。			個人
2	身体機能への作業療法 高野	医療現場における作業療法について理解をする。 Keyword: 疾患別リハビリテーション、臨床的推論、2つのアプローチ論			個人
3	治療学の基礎1 関節可動域 高野	関節可動域制限に対する基礎知識、介入方法について理解する Keyword: 構造、発生要因、最終域感、関節可動域練習			個人
4	治療学の基礎2 筋力・筋持久力 高野	筋力低下に対する基礎知識、介入方法について理解する。 Keyword: 筋収縮の種類、測定方法、筋カトレーニング			個人
5	治療学の基礎3 作業遂行 高野	作業遂行に対する支援について理解する。 Keyword: 作業遂行における10の側面、評価方法、観察、目標設定			個人
6	治療学各論1 骨折・関節障害 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム			個人
7	治療学各論1 骨折・関節障害 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断、病態分類など、評価項目			個人
8	治療学各論2 脊髄損傷 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム			個人
9	治療学各論2 脊髄損傷 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断、病態分類など、評価項目			個人
10	治療学各論3 関節リウマチ 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム			個人
11	治療学各論3 関節リウマチ 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断、病態分類など、評価項目			個人
12	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム			個人
13	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断、病態分類など、評価項目			個人
14	治療学各論5 頸椎症・腰痛症 半谷	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム			個人
15	治療学各論5 頸椎症・腰痛症 半谷	疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断、病態分類など、評価項目			個人
期末試験	筆記試験 高野	評価方法	筆記試験 80%	受講態度 20%	
【教科書】	脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)、作業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第4版(文光堂)				
【参考書】	適時、講義内で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 classroomを通じて、事前に資料を配布。予習課題も提示する。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床作業療法学(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		内柴 佑基			内柴
		病院7年(作業療法士)勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
疾患や障害に応じた評価計画の立案について原則を理解し実践できるようになる。評価の結果に基づき、MTDLPを用いた課題の整理および分析ができる。分析した結果を統合と解釈し説明できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患・障害の基礎知識を説明できる。 ②疾患・障害の特徴に応じた評価計画立案ができ、根拠を説明できる。 ③評価結果をICF,MTDLPアセスメントシートに整理して記載できるようになる。 ④評価結果の関係性について論理的に説明できる。 ⑤疾患・障害および対象者の作業遂行文脈を勘案した治療計画の原則が理解できる。				知識・理解 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】 本講義はactive learning方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するための積極性がが必要です。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	講義ガイダンス	情報収集⇒検査・測定⇒結果の解釈⇒治療計画立案での「臨床的思考過程」の重要性が理解できる。			個人
2	評価の4要素	評価に必要な情報収集・面接・観察・検査(測定)の4つの要素について内容を理解し説明できる。			個人
3	作業を基盤とした治療実践	対象者の「作業」を中心とした治療計画立案の構造が理解できる。基本的プログラムの内容、方法が理解できる。			グループ
4	身体障害領域事例① 基本情報	脳血管障害についての基本的な知識を説明することができる。評価計画を立案することができる。			グループ
5	身体障害領域事例② 基本情報	脳血管障害についての基本的な知識を説明することができる。評価計画を立案することができる。			グループ
6	身体障害領域事例③ 評価計画実践	対象者に立案した評価結果を実践しフィードバックを基に「模倣」レベルまでの検査・測定が実践できる。			グループ
7	身体障害領域事例④ 評価計画実践	対象者に立案した評価結果を実践しフィードバックを基に「模倣」レベルまでの検査・測定が実践できる。			グループ
8	身体障害領域事例⑤ 統合と解釈	対象者の評価結果をICFにまとめ、課題を整理できる。課題の関係性を説明することができる。			グループ
9	身体障害領域事例⑥ 統合と解釈	対象者の評価結果をICFにまとめ、課題を整理できる。課題の関係性を説明することができる。			グループ
10	身体障害領域事例⑦ 治療計画立案	対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。			グループ
11	身体障害領域事例⑧ 治療計画実践	治療計画立案したプログラムについて実践し、フィードバックを受けて修正することで「実施」レベルの準備ができる。			グループ
12	身体障害領域事例⑨ 報告会準備	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を準備することができる。			グループ
13	身体障害領域事例⑩ 報告会	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を行い、発表することができる。			グループ
14	記録作成①	記録の種類、記載すべき内容を理解することができる。SOAP形式の記録方法を理解し実践できるようになる。			個人
15	記録作成②	記録の種類、記載すべき内容を理解することができる。SOAP形式の記録方法を理解し実践できるようになる。			個人
期末試験	なし	評価方法	レポート 50% 課題の達成度 30%	受講態度 20%	
【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント (MEDICAL VIEW) 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第3版 (文光堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		演習およびグループワーク時に、PC使用します。持参必須。レポートの遅延なく提出して			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床作業療法学(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		内柴 佑基			内柴
		病院7年(作業療法士)勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
評価の結果に基づいてICF、MTDLPを用いた課題の整理および分析ができる。分析した結果を統合と解釈し説明できる。対象者に適合した治療計画が立案できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患・障害の特徴に応じた評価計画立案ができ、根拠を説明できる。 ②評価結果をICF,MTDLPアセスメントシートに整理して記載できるようになる。 ③評価結果の関係性について論理的に説明できる。 ④疾患・障害および対象者の作業遂行文脈を勘案した治療計画の原則が理解できる。 ⑤対象者に合わせた基本的プログラム立案できる。				知識・理解 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】 本講義はactive learning方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するための積極性がが必要です。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	精神障害領域事例① 評価計画立案		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の文脈を踏まえた評価計画立案ができる。		グループ
2	精神障害領域事例② 評価		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の文脈を踏まえた評価ができる。		グループ
3	精神障害領域事例③ 評価		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の文脈を踏まえた評価ができる。		グループ
4	精神障害領域事例④ 評価		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の文脈を踏まえた評価ができる。		グループ
5	精神障害領域事例⑤ 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてICFに整理して、統合と解釈を説明できる。		グループ
6	精神障害領域事例⑥ 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてICFに整理して、統合と解釈を説明できる。		グループ
7	精神障害領域事例⑦ 治療計画立案		事例の統合と解釈に基づいて目標設定を行い、治療計画を立案できる		グループ
8	精神障害領域事例⑧ 治療計画立案		事例の統合と解釈に基づいて目標設定を行い、治療計画を立案できる		グループ
9	老年期領域事例① 評価計画立案		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる。		グループ
10	老年期領域事例② 評価計画立案		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。 対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる。		グループ
11	老年期領域事例③ 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる。課題の関係性を説明できる。		グループ
12	老年期領域事例④ 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる。課題の関係性を説明できる。		グループ
13	老年期領域事例⑤ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
14	老年期領域事例⑥ 報告会準備		報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を準備することができる。		グループ
15	老年期領域事例⑦ 報告会		報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を行い、発表することができる。		グループ
期末試験			評価方法	レポート 50% 課題の達成度 30%	受講態度 20%
【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第3版 (文光堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		演習およびグループワーク時に、PC使用します。持参必須。レポートの遅延なく提出して			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習 I (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴佑基 <sup>1)</sup> , 薄井俊介, 羽川孝幸, 薄井純子, 田中絹代			薄井(純)
		1) 病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	4	前期	30(60)	演習・実習	2
【授業の概要・目的】					
医療専門職は、対象者と関わるうえで態度、知識、技術と臨床的思考が必須となる。本講義では演習を通して前述する技能を活用し、機能障害・能力低下に対する介入技能の習得・実施すること、介入への根拠づけができること					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な、基礎医学・臨床医学・実地・OT専門の知識を深めることができる。 ②領域別の作業療法過程について理解を深め、根拠づけした説明をすることができる。 ③評価結果をもとに、対象者に介入実施内容を説明し、介入実施を適切に行うことができる。 ④ガイドラインに沿った作業療法プログラムを実施することができる。 ⑤介入内容や経過について、考察することができるようになる。				考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 論理的思考力	
【履修上の注意】 演習が中心であり、実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	関節可動域運動(OSCE)	薄井	関節可動域運動について理解して、実施することができる		グループ
2	関節可動域運動(OSCE)	薄井	関節可動域運動について理解して、実施することができる		グループ
3	筋力増強運動(OSCE)	羽川	筋力増強運動について理解して、実施することができる		グループ
4	筋力増強運動(OSCE)	羽川	筋力増強運動について理解して、実施することができる		グループ
5	促通手技(OSCE)	内柴	促通手技について理解して、実施することができる		グループ
6	促通手技(OSCE)	内柴	促通手技について理解して、実施することができる		グループ
7	起き上がり(OSCE)	田中	起き上がりの分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
8	起き上がり(OSCE)	田中	起き上がりの分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
9	起立・着座(OSCE)	羽川	起立・着座の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
10	起立・着座(OSCE)	羽川	起立・着座の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
11	移乗(OSCE)	薄井	移乗の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
12	移乗(OSCE)	薄井	移乗の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
13	歩行(OSCE)	薄井(純)	歩行の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
14	歩行(OSCE)	薄井(純)	歩行の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
15	食事(OSCE)	田中	食事の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
期末試験	課題による評価		評価方法	課題の達成度 80% 受講態度 20%	
【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第4版(文光堂)				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 実技実習室を予約してある時間を使って、課題の予習・復習に取り組むこと					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習 I (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		内柴佑基 <sup>1)</sup> , 薄井俊介, 羽川孝幸, 薄井純子, 田中絹代			薄井(純)
		1) 病院(作業療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	4	前期	30(60)	演習・実習	2
<b>【授業の概要・目的】</b>					
医療専門職は、対象者と関わるうえで態度、知識、技術と臨床的思考が必須となる。本講義では演習を通して前述する技能を活用し、機能障害・能力低下に対する介入技能の習得・実施すること、介入への根拠づけができること					
<b>【学習目標(到達目標)】</b>				<b>【受講して得られる力】</b>	
①作業療法実践に必要な、基礎医学・臨床医学・実地・OT専門の知識を深めることができる。 ②領域別の作業療法過程について理解を深め、根拠づけした説明をすることができる。 ③評価結果をもとに、対象者に介入実施内容を説明し、介入実施を適切に行うことができる。 ④ガイドラインに沿った作業療法プログラムを実施することができる。 ⑤介入内容や経過について、考察することができるようになる。				考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 論理的思考力	
<b>【履修上の注意】</b> 演習が中心であり、実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	食事 (OSCE) 田中		食事の分析・介入について理解して、実施することができる		グループ
2	更衣 上衣 (OSCE) 田中		更衣(上衣)の分析・介入について理解して、実施することができる。		グループ
3	更衣 下衣 (OSCE) 田中		更衣(下衣)の分析・介入について理解して、実施することができる。		グループ
4	対象者を捉える視点 薄井(純)		トップダウン・ボトムアップによる評価、ICFを活用した対象者の捉え方などを復習し、統合と解釈をまとめることが		個人
5	臨床技能・臨床思考過程① 症例：脳血管障害 薄井(純)		脳血管障害症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
6	臨床技能・臨床思考過程② 症例：脳血管障害 薄井(純)		脳血管障害症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
7	臨床技能・臨床思考過程③ 症例：脳血管障害 薄井(純)		脳血管障害症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
8	臨床技能・臨床思考過程④ 症例：認知症 内柴		認知症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることが		グループ
9	臨床技能・臨床思考過程⑤ 症例：認知症 内柴		認知症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることが		グループ
10	臨床技能・臨床思考過程⑥ 症例：認知症 内柴		認知症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめることが		グループ
11	臨床技能・臨床思考過程⑦ 症例：内部障害 薄井		内部障害の症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
12	臨床技能・臨床思考過程⑧ 症例：内部障害 薄井		内部障害の症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
13	臨床技能・臨床思考過程⑨ 症例：統合失調症 羽川		統合失調症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
14	臨床技能・臨床思考過程⑩ 症例：統合失調症 羽川		統合失調症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
15	臨床技能・臨床思考過程⑪ 症例：統合失調症 羽川		統合失調症症例に対して、作業療法評価計画・統合と解釈・プログラム立案から実践・考察までの流れをまとめる		グループ
期末試験	課題による評価		評価方法	課題の達成度 80% 受講態度 20%	
<b>【教科書】</b>		実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第4版(文光堂)			
<b>【参考書】</b>		作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版.			
<b>【授業時間外に必要な学習の具体的内容】</b>		実技実習室を予約してある時間を使って、課題の予習・復習に取り組むこと			
<b>【本講義についての質問先】</b>		担当教員	<b>【質問方法】</b>	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療倫理 ※ 実務経験のある教員の授業科目		笹島 美沙希			笹島
		障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
医療専門職に求められる行動の自律を理解するため、社会環境の変化と技術の進展に伴う医療、福祉、および研究における倫理、並びに倫理原則について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 各授業のテーマについて我が国の現状を説明できる。 ② 各授業テーマについてどのような課題があるのか説明できる。 ③ 各授業テーマの課題に対する自分の考えを述べることができる。				専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 考え抜く力	
【履修上の注意】 配布資料、ノートを持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	倫理とは	生命倫理の今日的課題について考える。 生命倫理の基本原則について説明できる。			個人
2	インフォームドコンセント	臨床現場における医療者と患者関係について考える。 守秘義務について説明できる。			個人
3	医療倫理	医療機関における臨床倫理について考える。 医療倫理の重要性について説明できる。			個人
4	出生前診断	着床前診断、出生前診断について考える。 性別の選択、人工妊娠中絶の現状について説明できる。			個人
5	生殖補助医療	生殖補助医療技術について考える。 生殖補助医療技術の問題点について説明できる。			個人
6	遺伝子・ゲノム医療	遺伝子・ゲノム医療について考える。 遺伝子・ゲノム医療の課題について説明できる。			個人
7	臓器移植	臓器移植について考える。 子供の臓器提供の現状について説明できる。			個人
8	高齢者の医療、福祉	高齢者の医療と福祉について考える。 高齢者の医療と福祉をめぐる課題について説明できる。			個人
9	エンドオブライフ・ケア	緩和ケアについて考える。 安楽死・尊厳死の現状について説明できる。			個人
10	救急医療・災害医療	救急医療・災害医療における医療倫理について考える。 トリアージについて説明できる。			個人
11	ロボット・AI	医療におけるロボットとAIについて考える。 マインドリーディングとプライバシーについて説明できる。			個人
12	医学研究	動物・ヒトを対象とした医学研究について考える。 科学者の行動規範、不正行為、利益相反について説明できる。			個人
13	医療情報	医療情報の保護と共有について考える。 医療情報の特性と範囲について説明できる。			個人
14	公衆衛生	ヘルスプロモーションの視点から感染症対策について考える。 公衆衛生について概要を説明できる。			個人
15	医療とジェンダー	医療とジェンダーについて考える。 ジェンダーの概念について説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	レポート 小テスト	70% 20%	受講態度 10%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業テーマの要点を整理する(課題)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
コミュニケーション論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		白土 貴紀			白土
		病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
医療従事者に求められるコミュニケーション能力を養うため、グループ(またはペア)での体験学習を行う。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 自分の考えを整理し要点を伝えることができる。 ② 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 ③ 相手の意見を尊重して聞くことができる。 ④ 相手の意見を正しく理解して解釈することができる。 ⑤ 他者と協働して意見をまとめ発表することができる。				チームで働く力 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	自己の再発見	自分自身を様々な側面から見つめてみる。 自分について新たな発見をする。			グループ
2	他者理解 ①	一つのルールに従って行動する。 メンバー同士の関わりについて気付く。			グループ
3	他者理解 ②	大切にしていることに順位をつける作業を行う。 自分や他者の大切にしているものの多様性について気付く。			グループ
4	多様性	メンバーと協力しながら作業する。 助け合いの気持ちを持つ。			グループ
5	双方向コミュニケーション ①	一方向と双方向のコミュニケーションを体験する。 コミュニケーションのあり方について気付く。			グループ
6	双方向コミュニケーション ②	情報をわかりやすく伝え合い、順番を確認する作業を行う。 意思疎通を図る大切さに気付く。			グループ
7	傾聴 ①	傾聴的な聴き方の姿勢やスキルを考え体験する。 聴き手の姿勢次第で話相手の気持ちが変わることにつづく。			グループ
8	傾聴 ②	対応を分担した役割に応じて話し合いを行う。 対応の違いにより相手がどのように感じるかについて気付く。			グループ
9	ホスピタリティー・マインド ①	目隠しをした相手をサポートをしながら歩行する。 相手への心配りについて気付く。			グループ
10	ホスピタリティー・マインド ②	望ましい声掛けとは何かについて話し合いを行う。 相手に寄り添う気持ちで話を聞き自分の思いも伝える。			グループ
11	自己主張 ①	相手の発言に対し自分の気持ちをさわやかに伝える。 相手も受け入れができる伝え方について気付く。			グループ
12	自己主張 ②	テーマの是非について互いの主張を説明しあう。 相手が受け入れるように伝える際の相手との関係性に気づく。			グループ
13	合意形成 ①	情報をまとめながら行動日程を明らかにする。 意思決定や協力のありようについて気付く。			グループ
14	合意形成 ②	情報をまとめつつ目的にまでの道順を明らかにする作業を行う。 意思決定や協力のありようについて気付く。			グループ
15	メンバーシップ	ある場所の位置関係や配置を情報をまとめながら明らかにする作業を行う。 様々なリーダーシップのありようにつづく。			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	レポート 70% 授業への貢献 20%	受講態度	10%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 体験学習を通して気づいたことや、日常の中で活かせることについてまとめる。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学 I (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			十文字
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動学の概要及び上肢・脊柱の関節運動について解剖学的知識を含め理解・説明できるようになる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①身体運動の面と軸を理解し、各関節の運動作用を軸を起点に考えることができる ②関節の形状を理解し、運動を作用を考える際にも応用できるようになる ③筋収縮のメカニズム・収縮の様態を理解し、説明できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 態度・志向性	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	運動学の基礎	基本肢位、運動と変位、運動の面と軸を理解することができる			個人
2	運動力学の基礎	力の概念、力と運動について理解することができる			個人
3		仕事とエネルギー、力と滑車について関係を理解することができる			個人
4	身体運動とモーメント	力のモーメント、重心について理解することができる			個人
5	身体運動とてこ	3種類のとてこ、関節モーメントと関節応力の関係について理解することができる			個人
6	運動器の構造と基礎	骨の役割と分類、骨の基本構造、骨質の構造について理解することができる			個人
7		骨のモデリング・リモデリング、骨代謝について理解することができる			個人
8	関節の構造と機能	広義の関節分類、関節の基本構造、関節包と滑液、関節軟骨について理解することができる			個人
9		靭帯、滑膜性関節の分類、関節包内運動について理解することができる			個人
10	骨格筋の構造と機能	骨格筋の概要、骨格筋の基本構造について理解することができる			個人
11		骨格筋の微細構造、骨格筋の収縮機序、筋収縮のためのATP供給・生成過程について理解することができる			個人
12		筋線維のタイプ、運動単位と筋収縮の調節、筋収縮による張力発生の特異性について理解することができる			個人
13		筋肥大と筋萎縮、筋の感覚受容器、腱の基本構造と機能について理解することができる			個人
14	頸部～体幹の運動 頸部・脊柱の運動と解剖	上肢の解剖、運動方向をについて理解することができる			個人
15	胸郭の運動 胸郭の運動と解剖	下肢の解剖、運動方向について理解することができる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂(医歯薬出版)				
【参考書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学(羊土社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学 I (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			十文字
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動学の概要および上肢・下肢の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①四肢の運動機能について理解することができる。 ②姿勢・歩行について説明できるようになり、動作観察の一部ができるようになる ③解剖学と生理学の知識を統合できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】解剖学をしっかり復習して下さい					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	上肢帯と上肢の運動① 上肢帯に作用する筋		上肢帯、肩甲帯に付着している筋群の起始・停止、神経支配について理解・説明できる		個人
2	上肢帯と上肢の運動② 肩関節に作用する筋		肩関節の筋の作用や動きについて理解できる フォースカップル機構		個人
3	肘関節と前腕の運動① 肘関節の骨・靭帯		肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる		個人
4	肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋作用		肘関節の特徴と運動方向の名称を説明できる 肘関節の筋作用を理解することができる		個人
5	手関節と手の運動① 手関節・手指の解剖		手関節・手指の解剖や特徴を理解し説明できる		個人
6	手関節と手の運動② 手関節と手指の関節		手関節・手指の関節の特徴や運動学的特徴を説明できる		個人
7	上肢の運動作用についての復習		上肢の運動作用について理解し、説明できるようにする		個人
8	下肢帯と下肢の運動		下肢の運動について理解できる		個人
9	股関節の運動①		股関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる		個人
10	股関節の運動②		膝関節の運動が理解できる		個人
11	膝関節の運動①		膝関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる		個人
12	膝関節の運動②		膝関節の運動が理解できる		個人
13	足関節(足部)の運動①		足関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる		個人
14	足関節(足部)の運動②		足関節の運動が理解できる		個人
15	下肢運動まとめ		下肢の運動について理解できる		個人
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	
【教科書】		基礎運動学 第6版 補訂(医歯薬出版)			
【参考書】		PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学(羊土社)			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学(骨の名称、筋肉の名称・走行)			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人体の構造と機能 ※ 実務経験のある教員の授業科目		川崎 萌絵			川崎
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
人体がどのように成り立っているのかを学びます。人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)とはたらき(機能)について学習し、解剖学・生理学・運動学の理解につながるイメージをもてるよう取り組みます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体で代表的な器官の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する				知識・理解 創造的思考力 考え抜く力	
【履修上の注意】はさみ・のり・カッター・定規・筆記用具の準備をし講義に臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	細胞の仕組み		基本的な構造と機能を理解できる。		個人
2	身体運動の仕組み		随意運動の発現が理解できる。		個人
3	身体運動の仕組み		骨格系の構造と機能が理解できる。		個人
4	身体運動の仕組み		筋の機能や特性が理解できる。		個人
5	身体運動の仕組み		運動における生理変化を理解できる。		個人
6	神経系の仕組み		神経系の分類と構成される要素が理解できる。		個人
7	神経系の仕組み		神経細胞とネットワークが理解できる。		個人
8	神経系の仕組み		記憶と学習のメカニズムが理解できる。		個人
9	循環の仕組み		血液の成分と機能を理解できる。		個人
10	循環の仕組み		全身の循環動態を理解できる。		個人
11	呼吸の仕組み		呼吸器の構造と機能を理解できる。		個人
12	呼吸の仕組み		呼吸運動やガス交換を理解できる。		個人
13	代謝の仕組み		消化や吸収の機序が理解できる。		個人
14	排泄の仕組み		排泄の機序を理解できる。		個人
15	まとめ・復習		学習でポイントとなる部分について再度確認し、理解できる		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	小テスト 20% 筆記試験 80%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎医学のテキストを参考にして復習を行いましょう。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
リハビリテーション医学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		笹島 美沙希			笹島
		障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
根拠に基づく理学療法の実践にあたり、リハビリテーションの評価や治療法など科学的基礎を広く学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① リハビリテーション医学の特殊性について説明できる。 ② 障害を分類し生活機能の評価について説明できる。 ③ 機能障害の評価方法について説明できる。 ④ 臨床で接する機会の多い疾患の評価方法について説明できる。 ⑤ リハビリテーションの治療法について説明できる。				知識・理解	
【履修上の注意】 教科書, 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学の特殊性について学ぶ。 リハビリテーション医学の定義と対象について説明できる。			個人
2	医療モデルと診断・評価	障害の分類および診断と評価について学ぶ。 国際障害分類と生活機能評価について説明できる。			個人
3	運動障害の評価	運動障害の病態と評価について学ぶ。 筋力, 可動域制限などの評価法について説明できる。			個人
4	呼吸・循環の評価	運動負荷上問題となる呼吸と循環の評価について学ぶ。 呼吸と循環の機能の評価法について説明できる。			個人
5	日常生活活動の評価	日常生活活動(動作)の評価について学ぶ。 日常生活活動(動作)の評価法について説明できる。			個人
6	運動療法と運動学習	リハビリテーション治療について学ぶ。 筋力増強や関節可動域改善などの治療法を説明できる。			個人
7	物理療法	物理的エネルギーを利用した治療法を学ぶ。 物理療法の種類とそれぞれの特徴について説明できる。			個人
8	脳血管障害	脳血管障害の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。			個人
9	神経・筋疾患	神経・筋疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。			個人
10	骨関節疾患	骨関節疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。			個人
11	呼吸・循環器疾患	呼吸・循環器疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。			個人
12	糖尿病, 末梢循環不全	糖尿病, 末梢循環不全の病態とリハビリテーションについて学ぶ。 病態とアプローチ法について説明できる。			個人
13	悪性腫瘍, 熱傷	がんと熱傷のリハビリテーションについて学ぶ。 がんと熱傷のリハビリテーションについて説明できる。			個人
14	再生医療	再生医療とリハビリテーションの関わりについて学ぶ。 神経ネットワークの形成に関わるアプローチについて説明できる。			個人
15	スポーツ外傷, 障害者スポーツ	スポーツに関わるリハビリテーションについて学ぶ。 スポーツ外傷, 障害者スポーツへのアプローチについて説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 小テスト	60% 40%	
【教科書】	特に指定しない				
【参考書】	特に指定しない				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業テーマの要点を整理する(課題)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療入門 ※ 実務経験のある教員の授業科目		川崎 萌絵			川崎
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
医療提供の仕組みやその実際についての理解を深められるように、医療や福祉の分野で実際に医療やケアを提供している医療関係職種や管理者、ケアを提供している実務スタッフなどから、現状と課題など医療専門職としての基礎を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 我が国の医療の体制について概要を説明できる ② 医療専門職の役割と求められる能力について説明できる ③ 医療専門職として備えるべき接遇について理解し、実践できる				知識・理解 チームで働く力 論理的思考力 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】講義内で使用するため、単語帳の準備をすること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	理学療法士・作業療法士とは	理学療法士・作業療法士について理解できる 理学療法士の役割について説明できる			個人
2	医療専門職	医療専門職について他職種を理解できる 医療専門職に求められる能力について説明できる			個人
3	現代医療の現場	人々の社会生活と医療の接点を考える 現代医療の現場について概要を説明できる			個人
4	医療の歴史	医療の成り立ちについて理解できる 医療の変遷について説明できる			個人
5	健康と疾病および障害	心身の健康と疾病について学ぶ 障がいの成り立ちと障害受容について説明できる			個人
6	医療専門職の態度・姿勢1	臨床において求められる姿勢・態度について学ぶ 患者に対峙した際の接遇について理解できる			個人
7	医療専門職の態度・姿勢2	症例を通して必要な接遇について考える 症例を通して適切な対応を実践できる			グループ
8	医療面接1	専門職に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ 理学療法士に求められるコミュニケーション技術を実践できる			個人
9	医療面接2	専門職に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ 理学療法士に求められるコミュニケーション技術を実践できる			グループ
10	医療安全1	チーム医療と医療安全について学ぶ 医療事故の要因、予防、チーム医療について説明できる			個人
11	医療安全2	症例を通して医療安全の視点から対応について考える			グループ
12	臨床思考・治療	一連の理学療法の流れについて学ぶ 評価から治療計画の立案までの臨床推論について説明できる			個人
13	医療システム	我が国の医療システムについて学ぶ 医療システム、経済、関連法律について説明できる			個人
14	研究	研究の目的について学び、研究の必要性について考える			個人
15	生涯学習	生涯学習の必要性について理解する 医療者が備えるべき生涯学習能力について説明できる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	レポート 小テスト	60% 20%	課題の達成度 20%
【教科書】	指定しない				
【参考書】	講義内で参考図書を紹介する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		医療に関するニュースや時事について積極的に情報を閲覧すること			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎理学療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			川崎
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
理学療法士の仕事を理解するために、症例を通して問題解決に導く思考過程を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象となる障害について理解する。 ②障害の程度を把握するための手段について理解する。 ③障害に対して、問題解決の方法を検討することができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	初回オリエンテーション	講義の進め方, 評価方法について理解する。 臨床思考の基本的なプロセスを理解する。			個人
2	症例紹介(整形外科疾患)	整形外科疾患に対する臨床思考の一例を提示する。			グループ
3	症例検討(整形外科疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し, 文章として表現する。			グループ
4	症例検討(整形外科疾患) 仮説立案, 評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て, その仮説を検証するための方法を検討する。			グループ
5	症例検討(整形外科疾患) 問題点抽出	症例が, 日常生活で起こり得る問題点を予測する。			グループ
6	症例検討(整形外科疾患) 介入方法の検討	理学療法士として, 問題解決するための方法を検討する。			グループ
7	症例検討(整形外科疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する。			個人
8	症例検討(整形外科疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る。			グループ
9	症例紹介(中枢神経疾患)	中枢神経疾患に対する臨床思考の一例を提示する。			グループ
10	症例検討(中枢神経疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し, 文章として表現する。			グループ
11	症例検討(中枢神経疾患) 仮説立案, 評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て, その仮説を検証するための方法を検討する。			グループ
12	症例検討(中枢神経疾患) 問題点抽出	症例が, 日常生活で起こり得る問題点を予測する。			グループ
13	症例検討(中枢神経疾患) 介入方法の検討	理学療法士として, 問題解決するための方法を検討する。			グループ
14	症例検討(中枢神経疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する。			グループ
15	症例検討(中枢神経疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る。			個人
期末試験	実施しない。	評価方法	課題の達成度 80%	受講態度 20%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の内容をよく復習しておいてください。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎理学療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		川崎 萌絵			川崎
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
理学療法士の仕事を理解するために、症例を通して問題解決に導く思考過程を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象となる障害について理解する。 ②障害の程度を把握するための手段について理解する。 ③障害に対して、問題解決の方法を検討することができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	初回オリエンテーション	講義の進め方, 評価方法について理解する。 臨床思考の基本的なプロセスを理解する。			個人
2	症例紹介(整形外科疾患)	整形外科疾患に対する臨床思考の一例を提示する。			グループ
3	症例検討(整形外科疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し, 文章として表現する。			グループ
4	症例検討(整形外科疾患) 仮説立案, 評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て, その仮説を検証するための方法を検討する。			グループ
5	症例検討(整形外科疾患) 問題点抽出	症例が, 日常生活で起こり得る問題点を予測する。			グループ
6	症例検討(整形外科疾患) 介入方法の検討	理学療法士として, 問題解決するための方法を検討する。			グループ
7	症例検討(整形外科疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する。			個人
8	症例検討(整形外科疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る。			グループ
9	症例紹介(中枢神経疾患)	中枢神経疾患に対する臨床思考の一例を提示する。			グループ
10	症例検討(中枢神経疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し, 文章として表現する。			グループ
11	症例検討(中枢神経疾患) 仮説立案, 評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て, その仮説を検証するための方法を検討する。			グループ
12	症例検討(中枢神経疾患) 問題点抽出	症例が, 日常生活で起こり得る問題点を予測する。			グループ
13	症例検討(中枢神経疾患) 介入方法の検討	理学療法士として, 問題解決するための方法を検討する。			グループ
14	症例検討(中枢神経疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する。			グループ
15	症例検討(中枢神経疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る。			個人
期末試験	実施しない。	評価方法	小テスト 受講態度	60% 40%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業の内容をよく復習しておいてください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法演習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		川崎 萌絵			川崎
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
理学療法について幅広く学び、理学療法士に必要な技術や能力を理解する。グループワークを通じ、コミュニケーション能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①解剖学的知識を用いて、初歩的な理学療法評価を学ぶ ②ADLや基本動作、動作介助などについて理解する ③代表的な補装具について理解する ④代表的なスポーツ障害や応急処置(RICE処置)について理解できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】 実技演習と理学療法演習Ⅱの見学も実施します。実習着、実習靴を準備し臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	理学療法の概論	理学療法士の様々な働き方を学習する			個人
2	問診	問診に必要なスキルを理解し、ロールプレイを通して身につける			グループ
3	視診・触診	視診・触診の基本的な確認事項を理解し、実際に体験してみる			グループ
4	バイタルサインについて	バイタルサインについて理解できる			グループ
5	肢長・周径・可動域の測定	上・下肢の肢長・周径・可動域の測定ができる			グループ
6	肢長・周径・可動域の測定	上・下肢の肢長・周径・可動域の測定ができる			グループ
7	移動支援(車いす・杖・歩行器)	車いす・杖・歩行器の仕組みを理解し、安全に移動ができる			グループ
8	バランス不良と理学療法	バランス不良の原因を理解し、適切な理学療法を選択できる			グループ
9	疼痛と理学療法	疼痛の種類や特徴を理解し、適切な理学療法を選択できる			グループ
10	認知症と理学療法	認知症の種類や特徴を理解し、適切な理学療法を選択できる			グループ
11	筋力と理学療法	筋力訓練の方法や実施場面について理解できる			グループ
12	歩行と理学療法	在宅で求められる理学療法士の役割が理解できる			個人
13	在宅リハビリと理学療法	在宅で求められる理学療法士の役割が理解できる			個人
14	小テストと解説	総合的な理解度を確認する			個人
15	まとめ	理学療法演習Ⅱへ向けて			個人
期末試験	実施しない	評価方法	レポート 課題の達成度	50% 40%	受講態度 10%
【教科書】	特に指定しない				
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 配布資料の復習、課題の提出をしっかりと行ってください					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動療法演習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		笹島 美沙希			笹島
		障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な運動療法の知識と技術を身に着けることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①運動療法の概要について理解し、説明できる ②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる ③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる ④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	運動療法総論		運動療法の種類、目的、効果、禁忌などを学ぶ 運動療法を行う上で、必要な標準予防策を身に着ける		個人
2	関節可動域制限に対する運動療法① 関節可動域運動(上肢)		上肢・下肢・体幹の各関節に対して関節可動域練習を行う 四肢を動かす際のハンドリングやendfeelを体験し、身体に 触れる際の注意点や禁忌事項を理解し、実施できる	グループ	
3	関節可動域制限に対する運動療法② 関節可動域運動(上肢)				
4	関節可動域制限に対する運動療法③ 関節可動域運動(下肢)				
5	関節可動域制限に対する運動療法④ 関節可動域運動(下肢)				
6	関節可動域制限に対する運動療法⑤ 関節可動域運動(体幹)				
7	関節可動域制限に対する運動療法⑥ ストレッチング(上肢)				上肢・下肢・体幹の各筋に対してストレッチングを行う ストレッチングの目的、効果、種類について理解する 安全なストレッチングの方法を理解し、実施する
8	関節可動域制限に対する運動療法⑦ ストレッチング(上肢)				
9	関節可動域制限に対する運動療法⑧ ストレッチング(下肢)				
10	関節可動域制限に対する運動療法⑨ ストレッチング(下肢)				
11	関節可動域制限に対する運動療法⑩ ストレッチング(体幹)				
12	関節可動域制限に対する運動療法⑪ mobilization総論		mobilizationの目的、効果、種類について理解する mobilizationの適応と禁忌を理解し、実施する	グループ	
13	関節可動域制限に対する運動療法⑫ mobilization手関節				
14	関節可動域制限に対する運動療法⑬ mobilization足関節				
15	まとめ		前期で学習した部分の実技テストを行う		個人
期末試験	実施しない		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版(医学書院)				
【参考書】	講義内で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、運動学の復習、骨の名称や筋の走行を理解する			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動療法演習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			笹島
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2
【授業の概要・目的】					
基本的な運動療法の知識と技術を身に着けることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①運動療法の概要について理解し、説明できる ②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる ③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる ④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	協調運動障害に対する運動療法① バランストレーニング		運動療法の種類、目的、効果、禁忌などを学ぶ 運動療法を行う上で、必要な標準予防策を身に着ける		グループ
2	協調運動障害に対する運動療法② バランストレーニング				
3	筋力低下に対する運動療法① 筋力増強運動総論		上肢・下肢・体幹の各筋に対してストレッチングを行う ストレッチングの目的、効果、種類について理解する 安全なストレッチングの方法を理解し、実施する		グループ
4	筋力低下に対する運動療法② 筋力増強運動(上肢)				
5	筋力低下に対する運動療法③ 筋力増強運動(上肢)				
6	筋力低下に対する運動療法④ 筋力増強運動(下肢)				
7	筋力低下に対する運動療法⑤ 筋力増強運動(下肢)				
8	筋力低下に対する運動療法⑥ 筋力増強運動(体幹)				
9	歩行障害に対する運動療法① t-cane、歩行器		歩行障害に対して歩行介助の練習を行う 松葉杖やt-caneなどの基本的な歩行補助具の使用方を理解し、歩行練習を実施する		グループ
10	歩行障害に対する運動療法② 松葉杖				
11	呼吸障害に対する運動療法		呼吸器障害に対して呼吸介助を行う 体位肺痰やスクイーピングの方法を理解し、実施する		グループ
12	アスレティックリハビリテーション		アスレティックリハビリテーションの目的、効果、方法、種類を学び、実施する		グループ
13	持久力低下に対する運動療法		有酸素運動の目的、効果について理解する トレッドミルや自転車エルゴメータを使用して持久カトレーニングを行う 持久力向上に効果的な負荷量について理解する		グループ
14					
15	まとめ		後期で学習した部分の実技テストを行う		個人
期末試験	実施しない		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版(医学書院)				
【参考書】	講義内で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、運動学の復習、骨の名称や筋の走行を理解する					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院勤務(理学療法士)14年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
<p>主な骨表示点、筋(起始・停止・走行)、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。身体運動の基礎となる原理を理解する。</p>					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<p>①体表解剖の理解を深める。 ②表層の筋、ランドマーク、動脈、末梢神経を触知できる。 ③触診技術を習得する</p>				<p>専門職としてのスキル・意識 知識・理解 態度・志向性</p>	
【履修上の注意】解剖学をしっかり復習した上で臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	運動学Ⅱ 総論	運動学的思考から姿勢・動作を理解する			個人
2	運動学・力学の理解	人体運動を科学的に理解するために必要な運動学および力学の基礎を学び、それを基盤として姿勢および動作の評価・分析技術を習得する。臨床・スポーツ現場での応用力を養うことを目的とする			個人
3					個人
4					個人
5					個人
6	姿勢分析	静的および動的姿勢の評価方法を体系的に学ぶ。骨格アライメント、筋バランス、運動連鎖の観点から姿勢を分析し、機能障害やパフォーマンス低下の要因を特定する能力を養う。加えて、姿勢改善のための基本的介入戦略を理解する			個人
7					個人
8					個人
9					個人
10					個人
11	動作分析	ヒトの基本動作(立つ・歩く・走る・持ち上げる等)を対象に、バイオメカニクスおよび運動学・運動力学の観点から分析する能力を養う。臨床・スポーツ現場において問題点を抽出し、改善戦略を立案できる基礎力を修得する			個人
12					個人
13					個人
14					個人
15	まとめ	姿勢・動作・歩行分析まとめを行う			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	レポート 課題の達成度	80% 10%	受講態度 10%
【教科書】	観察による歩行分析(医学書院)				
【参考書】	基礎運動学(第7版 医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		筋肉の走行・起始、停止を理解すること			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲 病院勤務(理学療法士)14年			櫻村
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
対象者の歩行評価を行う為に、身体運動の基礎となる原理や諸理論を評価し、歩行動作から問題点を抽出する一連の過程を学びます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①正常歩行で求められる機能を説明できる。 ②歩行動作から逸脱動作を抽出し線画を交え記述できる。 ③観察をもとに仮説を立て立証手段を列記できる。				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】教科書を持参して下さい					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 総論	科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明。 身体運動の基礎、観察と分析の意義。			個人
2	運動と生理機能	運動による呼吸・循環・腎機能の変化について学ぶ。			個人
3	運動の中枢神経機構	運動プログラム・フィードバック機構について学ぶ。			個人
4	身体運動のエネルギー代謝	身体運動によるエネルギー代謝について学ぶ。			個人
5	健常歩行の前提条件 歩行周期	ヒトの歩容(歩き方)の特徴および運動戦略について学ぶ。 健常歩行、正常とは、歩幅、歩隔、歩行周期、各相の役割・機能			個人
6	相分けと表記方法 歩行周期	線画(スティックピクチャー)の描き方、スマートフォンの利用方法を理解する。			個人
7	歩行の指標	歩容以外の指標について学ぶ。 歩行速度、ステップ、ストライドを計測しケータスを算出する。			個人
8	歩行観察①	健常者の歩行観察を行い、その結果を表記できる。			個人
9	歩行観察②	健常者の歩行観察を行い、その結果を表記できる。			個人
10	歩行観察③ 発表	観察の結果について、歩容の説明ができる。			個人
11	歩行分析①	症例を使用し、歩行観察から得られた結果について、その原因を仮説として挙げるができる。			個人
12	歩行分析②	症例を使用し、歩行観察から得られた結果について、その原因を仮説として挙げるができる。			個人
13	歩行分析③	仮説立証のための評価項目の立案とその解釈について学ぶ。			個人
14	歩行分析④	仮説立証のための評価項目の立案とその解釈について学ぶ。			個人
15	まとめ	まとめ			個人
期末試験	実施しない	評価方法	レポート 小テスト	60% 40%	
【教科書】	観察による歩行分析(医学書院)				
【参考書】	基礎運動学(第7版 医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		関節の構造および筋の起始停止、作用について復習を行うこと			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間発達学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
リハビリテーションの専門職として、対象者の課題をどのように解決し、支援すべきか考えるために、対象者の発達過程を理解する。本講義では、対象となる新生児から高齢者までの発達過程や、各ライフサイクルの特徴を総合的に学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人間の発達をライフサイクルという視点に立って学び、各発達時期の特徴について理解する。 ②身体、運動、認知、心理、社会性など、領域別の発達過程と特徴を理解する。 ③各発達時期における課題および理学療法士としての関わり方を理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	人間発達学総論	発達の基本法則、発達段階の分類について理解する。フロイト、エリクソン、ピアジェなどの発達理論を理解する。			個人
2	人間発達の見方と発達検査	人間発達の見方を理解し、発達検査の進め方の概要を説明できる。			個人
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の正常発達について、その発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
4	原始反射・姿勢反応	新生児期特有の原始反射について理解する。発達過程で獲得する姿勢反応について理解する。			個人
5	乳児期の発達総論	乳児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
6	乳児期の運動発達 新生児期～3か月	乳児期の運動発達過程を理解し、説明できる。各姿勢での特徴や反応について理解する。			個人
7	乳児期の運動発達 4か月～6か月	乳児期の運動発達過程を理解し、説明できる。各姿勢での特徴や反応について理解する。			個人
8	乳児期の運動発達 7か月～12か月	乳児期の運動発達過程を理解し、説明できる。各姿勢での特徴や反応について理解する。			個人
9	幼児期前期・後期の発達	幼児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
10	学童期の発達	学童期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
11	青年期・成人期の発達	青年期と成人期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
12	老年期の発達	老年期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的特徴を理解し、説明できる。			個人
13	ADLの発達	各発達段階における情緒、社会性、ADL、遊びの発達について理解し、説明できる。			個人
14	上肢機能の発達	物の把持、リーチ、操作など、手の巧緻機能の発達過程を理解する。			個人
15	まとめ	各ライフサイクルにおける発達過程を見直し、それぞれの特徴を説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	なし。講義資料を使用する。				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業で説明した要点をよく復習しておいてください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
小児科学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		笹島 美沙希			笹島
		障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
人間の発達の過程を踏まえ、小児期における代表的な疾患や障害の特性、理学療法の基本的な考え方について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①発達段階と理学療法の関連性について概要を理解する。 ②主な疾患および障害の特徴を理解する。 ③主な疾患や障害に対する理学療法士の関わり方を理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	初回オリエンテーション	発達系理学療法の対象について理解する。 療育における理学療法士の役割について理解する。			個人
2	発達総論	運動発達に関する用語、運動発達理論を理解する。 理学療法における発達の視点について理解する。			個人
3	新生児疾患①	新生児に関する用語、新生児の分類を理解する。 新生児の身体的特徴について理解する。			個人
4	新生児疾患②	ハイリスク新生児の定義、その要因について理解する。 新生児に多い疾患について理解する。			個人
5	脳性麻痺	脳性麻痺の概念、疫学、障害特性を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
6	重症心身障害児	重症心身障害児の概念、障害特性を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
7	遺伝性疾患	21トリソミーを中心に、遺伝性疾患の定義・成因・ 分類などについて理解する。			個人
8	神経・筋疾患	筋ジストロフィー症を中心に、 神経・筋疾患の病態について理解する。			個人
9	確認テスト	前半部分の確認テストを行う。			個人
10	呼吸器疾患	小児の呼吸器疾患の病態を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
11	循環器疾患	小児の循環器疾患の病態を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
12	血液・造血器疾患	小児の血液・造血器疾患の病態を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
13	整形疾患①	二分脊椎の概念、疫学、障害特性を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
14	整形疾患②	ペルテス病およびその他の整形疾患の病態を理解する。 理学療法士の関わり方を説明できる。			個人
15	まとめ	各疾患の病態、理学療法士の関わり方について、 総復習を行う。			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】		指定なし。配布する資料を使用する。			
【参考書】		講義の中で適宜紹介します。			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業で説明した要点をよく復習しておいてください。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		白土 貴紀			白土
		病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
老年医学, 高齢者医療について学び, 高齢者リハビリテーションに求められる考え方を理解する.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① ヒトの生理・運動・精神機能の加齢変化について説明できる. ② 高齢者の特徴的な症候と疾患について説明できる. ③ 高齢者に対する総合的(医学・社会学・経済学的)なアプローチについて説明できる.				知識・理解	
【履修上の注意】 教科書, 配布資料を持参すること.					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老化と老年病	老化と高齢者の疾患について学ぶ. 老化と高齢者の疾患の特徴について説明できる.			個人
2	加齢に伴う変化	生理・運動・精神機能の加齢変化について学ぶ. 生理・運動・精神機能の加齢変化について説明できる.			個人
3	高齢者の機能評価	高齢者の総合的機能評価について学ぶ. 高齢者の機能評価や栄養状態の評価について説明できる.			個人
4	高齢者に特有な症候	高齢者に多い症候と老年症候群について学ぶ. 高齢者に多い症候と老年症候群について説明できる.			個人
5	運動器疾患	骨粗鬆症と高齢者の運動器疾患について学ぶ. 骨粗鬆症と高齢者の運動器疾患の特徴について説明できる.			個人
6	神経疾患	高齢者の神経疾患について学ぶ. 高齢者の神経疾患および老化との関連について説明できる.			個人
7	精神疾患	高齢者の精神疾患について学ぶ. 認知症と高齢者の精神疾患の特徴について説明できる.			個人
8	循環器疾患	高齢者の循環器疾患について学ぶ. 高齢者の循環器疾患の特徴について説明できる.			個人
9	呼吸器疾患	高齢者の呼吸器疾患について学ぶ. 高齢者の呼吸器疾患の特徴について説明できる.			個人
10	消化器疾患	高齢者の消化器疾患について学ぶ. 高齢者の消化器疾患の特徴について説明できる.			個人
11	内分泌疾患	高齢者の内分泌疾患について学ぶ. 高齢者の糖尿病と内分泌疾患の特徴について説明できる.			個人
12	血液・免疫疾患	高齢者の血液・免疫疾患について学ぶ. 高齢者の血液・免疫疾患の特徴について説明できる.			個人
13	腎・泌尿器疾患	高齢者の腎・泌尿器疾患について学ぶ. 高齢者の腎・泌尿器疾患の特徴について説明できる.			個人
14	皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患, 感染症	高齢者の皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患および感染症について学ぶ. 高齢者の皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患および感染症の特徴を説明できる.			個人
15	高齢者をとりまく環境	高齢者の環境を踏まえ, そのリハビリテーションについて学ぶ. 高齢者の医療・看護・介護・福祉・保健・リハについて説明できる.			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%	小テスト 30%	
【教科書】	特に指定しない. 参考になるものがあれば, その都度紹介する				
【参考書】	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 (医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各授業のテーマについて, 配布資料, 講義内容の復習を実施して下さい.				
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法演習Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			十文字
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義・演習	1
【授業の概要・目的】					
理学療法士に必要なコミュニケーションスキルや協調性について学び、また、郡山市障害者福祉センターで行われる健康運動教室に参加し、利用者に喜んでいただくことで理学療法士のやりがいを感じる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①ワークを通し、自分の長所・やりがい等を明確にし健康運動教室目標を見つけることができる ②ワークを通し、コミュニケーションスキルと手法について理解することができる。 ③健康運動教室に参加し、運動の説明、実施をすることができる。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性 創造的思考力	
【履修上の注意】動きやすい服装で授業に参加して下さい					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	健康運動教室オリエンテーション	健康運動教室の学習目標・意義を理解し、グループ・個人の目標を明確にする			個人・グループ
2	運動処方について	運動処方の基準を学習し、理解する			個人・グループ
3	血圧の測定	血圧の測定の意味を理解し、正確に測定ができる			個人・グループ
4	自分と向き合うワーク アイズブレイク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。			個人・グループ
5					
6	他者を理解するワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。			個人・グループ
7	健康運動教室事前準備	各グループに分かれ、実施内容を確認した上で役割分担を行う			グループ
8		自分の役割を理解し、責任をもって行動することができる			
9	健康運動教室①	郡山市障害者福祉センターで健康運動教室に参加し、利用者に対して目的に合わせた運動を実施できる			グループ
10					
11	健康運動教室発表準備	自分の役割を理解し、責任をもって行動することができる			グループ
12					
13	健康運動教室発表①	グループ毎にグループワークの結果を発表し、その内容に対して質疑応答を行う			グループ
14					
15	健康運動教室発表②実演	1年生の前で実演し、ポイントを押さえて運動を説明できる			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	発表会の結果	60%	授業への貢献
【教科書】	特に指定なし				
【参考書】	特に指定なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		運動処方について復習をする			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
検査・測定演習(1/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
理学療法評価を実施するにあたり必要な検査測定技術を身につける また、それぞれの検査・測定を行う意義について理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①健常者を対象にバイタルサインの測定を適切に行うことができる ②健常者を対象に形態計測を行うことができる ③健常者を対象に関節可動域検査を行うことができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】実習着を着用する					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	バイタルサインの評価		意識レベルの判定、血圧、脈拍、呼吸、体温、経費的酸素飽和度の測定方法を習得する キーワード: JCS、GCS、体表から触知できる動脈、異常な呼吸状態、血圧の正常値など		グループ
2					
3	形態計測		形態計測の意義、目的、方法を習得する 四肢長、肢節長、周径の技能を習得する 形態の異常について考察できる キーワード: 身長、体重、四肢長、肢節長、周径		グループ
4					
5	確認テスト		バイタルサイン及び形態計測の技能に関して確認テストを行い、習熟度を確認する		グループ
6					
7	関節可動域検査		関節可動域検査の定義・目的を理解する 関節可動域の正常値を理解する 関節可動域の測定法を習得する 講義形式で解説した後、学生同士で演習を行う キーワード: 基本肢位と解剖学的肢位、開始肢位、関節の運動方向、角度計、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」		グループ
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15	確認テスト		関節可動域の技能に関して確認テストを行い、習熟度を確認する		個人
期末試験	実施しない		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版(医学書院)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、運動学の復習、骨の名称や運動方向を理解する			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
検査・測定演習(2/3) ※実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
理学療法評価を実施するにあたり必要な検査・測定技術を身につける。 また、それぞれの検査・測定を行う意義について理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①徒手筋力検査の目的を理解し、説明できる。 ②健常者を対象に、徒手筋力検査を正確に実施できる。 ③代償運動について理解し、代償運動を抑制できる。 ④徒手筋力検査の結果を正確に記載し、解釈ができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 情報活用能力	
【履修上の注意】		必ず実習着を着用して参加してください。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	初回オリエンテーション	徒手筋力検査法の概要について理解する。			グループ
2	筋力検査(下肢:股関節)	股関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
3	筋力検査(下肢:股関節)	股関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
4	筋力検査(下肢:膝関節)	膝関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
5	筋力検査(下肢:足関節～足部)	足関節周囲、足部の筋に対する検査を実施できる。			グループ
6	筋力検査(上肢:肩関節)	肩関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
7	筋力検査(上肢:肩関節)	肩関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
8	筋力検査(上肢:肘関節)	肘関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
9	筋力検査(上肢:手関節～手部)	手関節・手部関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
10	筋力検査(上肢:手指)	手指関節周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
11	筋力検査(体幹)	体幹周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
12	筋力検査(頸部)	頸部周囲の筋に対する検査を実施できる。			グループ
13	脳神経支配筋の検査	脳神経支配筋の筋に対する検査を実施できる。			グループ
14	実技試験	徒手筋力検査の確認を行い、正確な技術を身につける。			グループ
15	実技試験	徒手筋力検査の確認を行い、正確な技術を身につける。			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%		
【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版(医学書院出版) 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版)				
【参考書】	特になし。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		技術習得のため、適宜自主練習も実施してください。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
検査・測定演習(3/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
理学療法評価を実施するにあたり必要な検査・測定技術を身につける 各種検査・測定を行う目的を理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①対象者を想定し、各種検査方法の目的を説明できる ②対象者を想定し、各種検査を実施できる ③道具を適切に使用し、安全に検査を実施することができる ④各種疾患の病態を踏まえながら検査を実施することができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 態度・志向性	
【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	一般評価事項	医学的情報の収集と状態観察の方法を習得する			グループ
2	一般評価事項	血液、尿など生化学検査の目的や基準を理解する 全身状態の把握とリスク管理の方法を習得する			グループ
3	深部腱反射	深部腱反射について理解する 代表的な深部腱反射の検査方法を習得する			グループ
4	病的反射・表在反射	表在反射・病的反射について理解する 代表的な反射検査を習得する			グループ
5	筋緊張検査	筋緊張のメカニズムを理解し、説明できる Modified Ashworth Scale(MAS)を説明し実施できる			グループ
6	バランス検査	静的バランス・動的バランス・運動戦略について説明できる Romberg試験、Mann試験、片脚立位検査を実施できる			グループ
7	バランス検査	Functional Reach Test、Time up and go testを実施できる			グループ
8	確認テスト①	反射検査、筋緊張検査、バランス検査の習熟度を確認する			グループ
9	姿勢反射	姿勢反射について理解し説明できる 検査方法や評価の意義を説明できる			グループ
10	協調性検査	協調運動や協調運動障害について説明できる 代表的な協調性検査を実施できる			グループ
11	脳神経検査	脳神経の機能を理解できる 各脳神経に対して検査を実施できる			グループ
12	高次脳機能検査	高次脳機能・高次脳機能障害について理解できる 代表的な検査を実施できる			グループ
13	片麻痺機能検査	連合反応と共同運動を理解できる Brunnstrom Stageの概要を理解できる			グループ
14	片麻痺機能検査	検査を実施しBrunnstrom Stageを判別できる			グループ
15	確認テスト②	協調性検査や脳神経検査、高次脳機能検査、片麻痺機能検査の習熟度を確認する			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	実技試験 受講態度	80% 20%	
【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版(医学書院)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		空き時間を有効に使い、検査方法の確認や手技の復習を行いましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢・装具学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子			佐久間
		大学病院等(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
切断について理解する。切断の理学療法について理解する。各種義肢・装具について理解する。義肢装具の適応・チェックアウトを理解する。義肢や装具のバイオメカニクスを理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①切断・義肢について理解できる ②切断者への理学療法について理解できる ③各種義肢について理解できる ④義肢のチェックアウトについて理解できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】 教科書を持参して下さい、小テストを実施しますので復習に努めて下さい					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	義肢学総論(切断と義肢)	切断の原因や疫学、切断術、義肢について理解する 義肢の支給体系について理解する			個人
2	下肢切断と理学療法評価	下肢切断術後の理学療法評価について理解する			個人
3	大腿義足ソケットの種類と適合評価	大腿切断の特徴について理解する 大腿義足のソケットの種類や適合評価について理解する			個人
4	膝義足ソケットの種類と適合評価	膝離断の特徴について理解する 膝義足のソケットの種類や適合評価について理解する			個人
5	大腿義足・膝義足アライメント	大腿義足・膝義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行について理解する			個人
6	下腿義足ソケットの種類と適合評価	下腿切断の特徴について理解する 下腿義足のソケットの種類や適合評価について理解する			個人
7	サイム義足ソケットの種類と適合評価	サイム切断の特徴を理解する サイム義足のソケットの種類や適合評価について理解する			個人
8	下腿義足・サイム義足アライメント	下腿義足・サイム義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行について理解する			個人
9	股義足ソケットの種類	股離断の特徴について理解する 股義足の種類やソケットについて理解する			個人
10	股義足のアライメント	股義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメントについて理解する			個人
11	足部部分義足の種類と適合評価	下肢切断者の理学療法プログラムを理解する 理学療法の役割とチームアプローチについて理解する			個人
12	継手・足部	継手・足部の種類とメカニズムについて理解する			個人
13	下肢切断者に対する理学療法	断端管理の種類と方法、拘縮予防について理解する 義足歩行およびADL練習について理解する			個人
14	症例検討	症例を通し、切断術後の理学療法評価やリハビリテーション、義肢の作製の流れについて理解する			個人
15	上肢切断	上肢切断の特徴を理解する 義手の種類を理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	PTOTビジュアルテキスト 義肢装具学 第2版 (羊土社)				
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や配布資料の復習をしっかりと行ってください					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢・装具学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子			佐久間
		大学病院等(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
装具の基本的な構造、種類、名称を理解し、各種装具の適応とチェックアウトを理解できることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①装具作成までの一連の流れを理解できる ②各種装具の名称・基本構造・特徴・チェックアウトを説明できる ③各疾患に対する装具の適応と特徴を説明できる				知識・理解 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】授業中に小テストを行います。自己学習に努めてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	装具学総論	装具の基本原則について説明できる			個人
2	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる			個人
3	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる			個人
4	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる			個人
5	足継手の制御機構	足継手の種類と機構・機能がわかる			個人
6	疾患別装具療法① 脳卒中片麻痺の装具	脳卒中片麻痺用の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
7	疾患別装具療法② 対麻痺の装具	対麻痺用の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
8	疾患別装具療法③ 整形外科的装具	整形外科的装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
9	疾患別装具療法④ 頸椎・胸腰椎疾患の装具	頸椎・胸腰椎疾患の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
10	疾患別装具療法⑤ 末梢神経障害の装具	末梢神経障害の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
11	疾患別装具療法⑥ 脊柱側弯症の装具	脊柱側弯症の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
12	疾患別装具療法⑦ 小児疾患の装具	小児疾患の装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
13	疾患別装具療法⑧ 関節リウマチの装具	関節リウマチの装具の名称と適応、特徴についてわかる			個人
14	靴型装具	靴型装具の構造と名称、適応についてわかる			個人
15	車椅子・杖	車椅子・杖の構造と名称、採寸方法についてわかる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版 異常とその対応がわかる動画付き (羊土社)				
【参考書】	特に指定しない				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業で学んだ装具種類と名称についての復習を行う			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患のADL動作の特徴を説明することができる。 ②ADL動作の指導、介助方法を説明することができる。				知識・理解 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力	
【履修上の注意】教科書を持参して下さい。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション ADLの概念と範囲		講義の流れやポイントを理解できる 理学療法士によるADLの定義を理解できる		グループ
2	ADLの概念と範囲		理学療法士によるADLの定義を理解できる		グループ
3	ADLと障がい		障がいの捉え方を理解できる 障がいとADLの関連性を理解できる		グループ
4	ADLとQOL		QOLについて理解することができる QOLについて評価する方法を理解できる		グループ
5	ADLの運動学的分析		身体の動きと運動学の関連性を理解できる		グループ
6	ADL評価		代表的なADL評価法を理解する		グループ
7	ADL評価の実際 バーセルインデックス		ADL評価の方法について理解する バーセルインデックスを用いて採点することができる		グループ
8	ADL評価の実際 FIM		ADL評価の方法について理解する FIMを用いて採点することができる		グループ
9	ADLの実際 脳卒中		脳卒中の病態を理解する 脳卒中に対するADL評価と指導の計画を立てることができる		グループ
10	ADLの実際 脊髄損傷		脊髄損傷の病態を理解する 脊髄損傷に対するADL評価と指導のポイントを理解できる		グループ
11	ADLの実際 神経筋疾患		神経筋疾患の病態を理解する 疾患に応じたADL評価のポイントを理解できる		グループ
12	ADLの実際 関節リウマチ		関節リウマチの病態を理解する 関節リウマチに対するADL指導のポイントを理解できる		グループ
13	ADLの実際 人工骨頭置換術		人工骨頭置換術後の病態を理解する 人工骨頭置換術後に対する理学療法評価ができる		グループ
14	ADLの実際 下肢切断		下肢切断後の病態を理解する 下肢切断後に対する生活活動管理やADL管理ができる		グループ
15	ADLの実際 呼吸器疾患		呼吸器疾患・循環器疾患の病態を理解する 呼吸器疾患・循環器疾患に対するADL評価が理解できる		グループ
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験 60% 小テスト 20%	受講態度 10%
【教科書】	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版 (医学書院) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編](金原出版)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎科目の知識を活用しますので、不足している部分については十分復習しましょう					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学 I (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
中枢神経系で代表的な脳卒中と脊髄損傷の病態について学び、基礎的な知識を定着することができる。 各疾患の評価方法や治療方法について理解を深めることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①中枢神経系の構造と機能について理解を深める ②各種疾患の病態について理解を深める ③各種疾患に応じた理学療法評価、治療方法について理解を深める				知識・理解 論理的思考力	
【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	中枢神経系の構造と機能(1)	中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を理解する 神経系の違いや各種伝導路を説明できる			個人
2	中枢神経系の構造と機能(2)	中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を理解する 神経系の違いや各種伝導路を説明できる			個人
3	脳卒中の発症および回復メカニズム	脳卒中の発症メカニズムと神経の可塑性を理解する 発症メカニズムと機能回復機序を説明できる			個人
4	脳画像と臨床症状(1)	脳画像と臨床症状について理解する CT・MRIの特徴を理解できる			個人
5	脳画像と臨床症状(2)	各種障害と病巣と理解する			個人
6	脳卒中患者に対する評価とアプローチ	脳卒中患者の理学療法評価とアプローチを理解する 脳卒中に対する評価の目的や代表的な評価を説明できる			個人
7	脳卒中の障害と理学療法 各論(1) 運動麻痺	脳卒中患者の運動麻痺を理解する 運動麻痺のメカニズムや神経機構を説明できる			個人
8	脳卒中の障害と理学療法 各論(2) 感覚障害	脳卒中患者の感覚障害を理解する 感覚障害のメカニズムや神経機構を説明できる			個人
9	脳卒中の障害と理学療法 各論(3) 異常筋緊張	脳卒中患者の異常筋緊張を理解する 異常筋緊張のメカニズムや神経機構を説明できる			個人
10	脳卒中の障害と理学療法 各論(4) 運動失調	脳卒中患者の運動失調を理解する 運動失調のメカニズムや神経機構を説明できる			個人
11	脳卒中の障害と理学療法 各論(5) 二次的機能障害	脳卒中患者の二次的機能障害 姿勢バランス障害を理解する バランス障害のメカニズムや神経機構を説明できる			個人
12	脳卒中の障害と理学療法 各論(6) 運動の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失行,注意・遂行機能障害の病態と神経機構を説明できる			個人
13	脳卒中の障害と理学療法 各論(7) 感覚の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失認,半側空間無視の病態と神経機構を説明できる			個人
14	脳卒中の障害と理学療法 各論(8) その他の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失語症,認知症の病態と神経機構を説明できる			個人
15	講義のまとめ	脳卒中に関する障害や症状について理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学,生理学を復習し授業に臨んでください					
【本講義に関しての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学 I (2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
中枢神経系で代表的な脳卒中と脊髄損傷の病態について学び、基礎的な知識を定着することができる。 各疾患の評価方法や治療方法について理解を深めることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①中枢神経系の構造と機能について理解を深める ②各種疾患の病態について理解を深める ③各種疾患に応じた理学療法評価、治療方法について理解を深める				知識・理解 論理的思考力	
【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	脊髄損傷の病態	脊髄損傷患者の病態を理解する 神経症状や様々な合併症を説明できる			個人
2	脊髄損傷患者に対する評価とアプローチ(1) 理学療法評価	脊髄損傷患者の理学療法評価を理解する 各種分類や評価を説明できる			個人
3	脊髄損傷患者に対する評価とアプローチ(2) 運動療法と日常生活動作	脊髄損傷患者の運動療法を理解する 各種運動療法やADLにおける動作・介助方法を説明できる			個人
4	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の病態,障害を理解,説明できる			個人
5	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の理学療法評価、運動療法を理解,説明できる			個人
6	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の病態,障害を理解,説明できる			個人
7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法評価,運動療法を理解,説明できる			個人
8	筋ジストロフィーの理学療法	筋ジストロフィーの病態,障害を理解,説明できる 筋ジストロフィーの理学療法評価,理学療法を理解,説明できる			個人
9	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	筋萎縮性側索硬化症の病態,障害を理解,説明できる			個人
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる			個人
11	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	ギランバレー症候群等の病態や障害を理解,説明できる 病態に応じた理学療法評価,理学療法を理解,説明できる			個人
12	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	多発性硬化症の病態,障害を理解,説明できる 多発性硬化症の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる			個人
13	末梢神経損傷の理学療法	末梢神経損傷の病態,障害を理解,説明できる 末梢神経損傷の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる			個人
14	重症筋無力症・多発性筋炎の理学療法	重症筋無力症の病態,障害を理解,説明できる 多発性筋炎の病態,障害を理解,説明できる			個人
15	講義の振り返り	神経・筋疾患に対する理学療法について理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学,生理学を復習し授業に臨んでください			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生活環境論(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子			十文字
		大学病院等(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
高齢者や障害者が、住み慣れた地域社会での生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高齢者や障害者の住環境について理解できる ②住環境整備における理学療法士の役割を理解できる ③福祉住環境コーディネーター2級相当の知識を得る				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【履修上の注意】		教科書を持参して下さい			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高齢者の住環境と住宅施策	高齢者の住宅事情と住宅施策について理解する 高齢者の住宅事情と住宅施策について説明できる			個人
2	障害者の住環境と住宅施策	障害者の住宅事情と住宅施策について理解する 障害者の住宅事情と住宅施策について説明できる			個人
3	住環境整備におけるPTの役割	住環境整備におけるPTの役割と姿勢について理解する 住環境整備におけるPTの役割と姿勢について説明できる			個人
4	障害と自立支援	高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントを理解する 高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントを説明できる			個人
5	疾患別 福祉住環境整備	疾患別の住環境整備について理解する 高齢者や片麻痺者の住環境整備について説明できる			個人
6	障害別 福祉住環境整備	障害別の住環境整備について理解する 脊髄損傷者やリウマチ者の住環境整備について説明できる			個人
7	福祉住環境整備とケアマネジメント	介護保険制度における福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解し、説明する事ができる			個人
8	福祉住環境整備の共通基本技術	住環境整備の進め方と留意点について理解する 住環境整備の進め方と留意点について説明できる			個人
9	住環境整備の基本的配慮	住環境整備の基本技術について理解する 住環境整備の基本技術について説明できる			個人
10	福祉住環境整備の手法①	住環境整備の基本的配慮について理解する 住環境整備の基本的配慮について説明できる			個人
11	福祉住環境整備の手法②	住環境整備の基本的配慮について理解する 住環境整備の基本的配慮について説明できる			個人
12	建築知識の基本	建築知識の基本について理解する 建築知識の基本について説明できる			個人
13	福祉用具	移動用福祉用具について理解する 移動用福祉用具について説明できる			個人
14	疾患モデルと福祉機器の活用①	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器を検討する			個人
15	疾患モデルと福祉機器の活用②	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器を検討する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 受講態度	80% 20%	
【教科書】	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版 医学書院				
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の内容をよく復習しておいてください。					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生活環境論(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		桜村 孝憲			桜村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
高齢者や障害者が、住み慣れた地域社会での生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高齢者や障害者の住環境について理解できる ②住環境整備における理学療法士の役割を理解できる ③福祉用具の活用について理解できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【履修上の注意】教科書を持参して下さい					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	高齢者の住環境と住宅改修	高齢者の住宅事情と住宅施策について理解する 高齢者の住宅改修を提案できる			個人
2	高齢者の住環境と住宅改修				個人
3	障害者の住環境と住宅改修	障害者の住宅事情と住宅施策について理解する 障害者の住宅改修の提案ができる			個人
4	障害者の住環境と住宅改修				個人
5	疾患別 福祉住環境整備	疾患別の住環境整備について理解する 高齢者や片麻痺者の住環境整備について提案できる			個人
6	疾患別 福祉住環境整備				個人
7	障害別 福祉住環境整備	障害別の住環境整備について理解する 脊髄損傷者やリウマチ者の住環境整備について提案できる			個人
8	障害別 福祉住環境整備				個人
9	疾患・障害別 福祉機器の提案と活用	疾患や障害を理解し、適切な福祉機器の提案ができる			個人
10	疾患・障害別 福祉機器の提案と活用				個人
11	家屋調査	家屋調査における理学療法士の役割が理解できる 模擬的な家屋調査の実施ができる 家屋調査結果に基づいた家屋改修の提案ができる			個人
12	家屋調査				個人
13	福祉用具の活用	福祉機器の活用を理解できる 高齢者住宅について理解できる			グループ
14	症例検討	症例に即した家屋改修案の提案ができる			グループ
15	まとめ	まとめ			個人
期末試験	期末試験	評価方法	レポート 60% 小テスト 30%	受講態度 10%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版(医学書院)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各種疾患の特徴を押さえておきましょう。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
見学実習 ※ 実務経験のある教員の授業科目		理学療法学科教員／臨床実習指導者			櫻村
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
チーム医療の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念の理解を深める リハビリテーションの専門家としての心構えや態度を養成する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 理学療法士に対する自己動機の確認や学習意欲を向上することができる ② 社会人および医療従事者として自覚をもった行動ができる ③ 病院・施設における理学療法士の業務を知ることができる ④ 理学療法士が対象とする主疾患について具体的な障害像を想像することができる				コミュニケーションスキル チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】社会人としての自覚と責任を持った行動で臨むようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	実習オリエンテーション	見学実習の目的を理解する			個人
2	医療機関及び介護施設見学1日目①	実習指導者や職員と適切な行動や態度をとることができる			グループ
3	医療機関及び介護施設見学1日目②				グループ
4	医療機関及び介護施設見学1日目③				グループ
5	医療機関及び介護施設見学1日目④				グループ
6	医療機関及び介護施設見学2日目①				臨床場面を見学し各疾患の障害像をイメージすることができる
7	医療機関及び介護施設見学2日目②	グループ			
8	医療機関及び介護施設見学2日目③	グループ			
9	医療機関及び介護施設見学2日目④	グループ			
10	医療機関及び介護施設見学3日目①	臨床現場の見学を通して動機付けや学習意欲を高めることができる			グループ
11	医療機関及び介護施設見学3日目②				グループ
12	医療機関及び介護施設見学3日目③				グループ
13	医療機関及び介護施設見学3日目④				グループ
14	見学実習報告会①	実習先での学習内容を発表する			グループ
15	見学実習報告会②				グループ
期末試験	実施しない	評価方法	実習評価 発表会の結果	50% 20%	レポート 30%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		基礎的な知識を確認し、各疾患の障害像を理解できるようにしましょう。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内部障害学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
本講義では、内部障害の中でも主に代謝障害について、病態や治療方法などを学ぶ。また、糖尿病や腎疾患を有する患者に対する専門職としての支援の方法を理解し、問題解決能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①糖尿病の病態と治療について理解する。 ②糖尿病患者に対する理学療法について理解する。 ③糖尿病を有する患者に対し、理学療法プログラムを考案することができる。 ④腎疾患の病態と治療について理解する。 ⑤腎疾患患者に対する理学療法について理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力	
【履修上の注意】教科書を持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	初回オリエンテーション 糖尿病の病態		糖尿病の病態, 成因, 疫学について理解する。		個人
2	糖尿病の合併症		糖尿病の急性合併症, 慢性合併症について理解する。		個人
3	糖尿病の治療①		糖尿病の主要な治療について理解する。		個人
4	糖尿病の治療②		糖尿病の合併症の進行を予防するための治療について理解する。		個人
5	糖尿病の理学療法①		糖尿病患者に実施する理学療法評価について理解する。		個人
6	糖尿病の理学療法②		運動療法, 生活指導を中心に, 糖尿病患者に対する理学療法について理解する。		個人
7	前半部分復習		前半部分の復習を行う。		個人
8	糖尿病患者の心理と行動		糖尿病患者に特有な心理状態と行動パターンについて理解する。		個人
9	ライフステージ別糖尿病患者の課題		各ライフステージにおける糖尿病患者の課題と, 対処方法, 理学療法士としての関わり方を理解する。		個人
10	症例検討①		糖尿病患者の理学療法に関する症例検討を行い, 実践的な介入方法について理解する。		グループ
11	症例検討②		各グループで検討した内容を発表する。		個人
12	腎臓の解剖・生理(復習)		腎臓の解剖と生体における役割を理解する。		個人
13	腎疾患の基礎		腎疾患の病態, 成因, 疫学について理解する。 腎疾患の主要な治療について理解する。		個人
14	腎疾患の理学療法		腎疾患患者に実施する理学療法評価を理解する。 腎疾患患者に対する理学療法を理解する。		個人
15	後半部分復習		後半部分の復習を行う。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版				
【参考書】	適宜紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や配布資料を基に復習を行ってください。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法演習Ⅲ ※ 実務経験のある教員の授業科目		吉田 俊太郎			吉田
		病院勤務(理学療法士)15年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
臨床実習へ参加するにあたり、主として中枢神経疾患に対する評価技能の習得、および医療人として相応しい態度を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 中枢神経疾患患者に対する評価の意義・目的を理解し、説明できる。 ② 中枢神経疾患患者に対する評価を適切に実施できる。 ③ 評価結果を正しく判断し、妥当な解釈ができる。 ④ 脳卒中の種類、病態、臨床症状、検査、治療(理学療法を含む)、およびADLへの影響について説明できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】必要時、実習用の服装で臨むこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	客観的臨床能力試験(OSCE)について		OSCEの概要、実施方法について説明する。 OSCEの概要について理解し、評価内容を説明できる。		個人
2	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ①		Brunnstrom Recovery Stage テスト法について解説する。 Brunnstrom Recovery Stage テスト法の実技演習を行う。		グループ
3	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ②		12段階式片麻痺機能テストの検査法について解説する。 12段階式片麻痺機能テストの検査法の実技演習を行う。		グループ
4	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ③		脳卒中の麻痺側運動機能の評価 まとめ		グループ
5	脈拍・血圧測定		バイタルサインを測定する目的を理解した上で脈拍・血圧の測定が適切に実施できるように実技演習を行う。		グループ
6	脳神経検査 ①		各種脳神経検査の方法を解説する。 脳神経Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅵについて実技演習を行う。		グループ
7	脳神経検査 ②		各種脳神経検査の方法を解説する。 脳神経Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺについて実技演習を行う。		グループ
8	感覚検査 ①		温痛覚、触圧覚の検査方法を解説する。 温痛覚、触圧覚の検査について実技演習を行う。		グループ
9	感覚検査 ②		深部感覚の検査方法を解説する。 関節覚および振動覚検査について実技演習を行う。		グループ
10	マスタリングテスト		脳神経検査、感覚検査、反射検査の習得状況の確認を行う。		グループ
11	反射検査 ①		深部腱反射、表在反射について解説する。 深部腱反射、表在反射の検査について実技演習を行う。		グループ
12	反射検査 ②		病的反射、クローヌスについて解説する。 病的反射、クローヌスの検査について実技演習を行う。		グループ
13	医療面接		医療面接の目的を理解し、適切に実施できるように実技演習を行う。		グループ
14	運動失調検査		協調運動障害の各種検査を適切に実施できるように実技演習を行う。		グループ
15	中枢神経疾患の評価		症例に則した検査法が選択でき、一連の評価ができるように実技演習を行う。		グループ
期末試験	実施しない		評価方法	レポート 100%	
【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版(医学書院) ※2年次購入済 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ※2年次購入済				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		『検査・測定演習』の内容を復習しておくこと。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療英会話		ロバート・ホルト * ROBERT HOLT			吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
The syllabus is designed to give students exposure to medical English. Lessons will focus on a topic that will allow students to practise English as either a doctor or a patient.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
Students will be expected to use English in class. English will be presented in a number of ways, i.e. reading, listening etc, and students will be expected to communicate in English.				知識・理解 コミュニケーションスキル 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	Polio And Vaccination	Reading Comprehension – Polio. Common Vocabulary.			個人・グループ
2	A Doctor's Prescription	Reading Comprehension – Basic Prescription Understanding. Common Vocabulary.			個人・グループ
3	Barometric Pressure And Migraines	Reading Comprehension – Headaches. Common Vocabulary.			個人・グループ
4	Internal Medical Exam	Reading Comprehension – Anti-Diarrheal / Anti-Gas Medicine. Common Vocabulary.			個人・グループ
5	Colon Polyps	Reading Comprehension – Stomach and Intestinal Health. Common Vocabulary.			個人・グループ
6	Respiratory Symptoms	Reading Comprehension – Breathing Issues and SARS. Common Vocabulary.			個人・グループ
7	Diabetes	Reading Comprehension – Diabetes Nowadays. Common Vocabulary.			個人・グループ
8	Coronary Arterial Problems	Reading Comprehension – Heart issues. Common Vocabulary.			個人・グループ
9	A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance	Reading Comprehension – US Health Care. Common Vocabulary.			個人・グループ
10	Allergic Reactions	Reading Comprehension – Hay Fever. Common Vocabulary.			個人・グループ
11	COVID-19	Reading Comprehension – COVID-19 response. Common Vocabulary.			個人・グループ
12	Heartburn And Endoscopy	Reading Comprehension – Heartburn and food. Common Vocabulary.			個人・グループ
13	Menopause	Reading Comprehension – Menopause, ladies health. Common Vocabulary.			個人・グループ
14	Carpal Tunnel Syndrome	Reading Comprehension – CTS, and RSI. Common Vocabulary.			個人・グループ
15	Sports Injuries	Reading Comprehension – Sports injuries, breaks and sprains. Common Vocabulary.			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	English For Medicine Revise Edition – T. Nishihara, M. Nishihara, C. Benom.				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		特になし			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法管理学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		吉田俊太郎			吉田
		病院勤務(理学療法士)15年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
多職種との連携のうえで業務を行うリハビリテーション専門職として、理学療法士に求められる管理・マネジメントについて理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 理学療法の対象者のリスク管理・マネジメントについて理解できる。 ② 理学療法に関する教育・研究・地域領域におけるリスク管理ができる。 ③ 理学療法の対象となる疾患のリスク管理について説明できる。				専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	管理・マネジメントの概観	リハビリテーション業務に求められる『管理』『マネジメント』の概念と目的について理解する。			個人
2	理学療法管理学とは	理学療法の職場管理において求められる管理業務と臨床教育の基本について理解する。			個人
3	理学療法士の職業倫理	医療専門職としての理学療法士に求められる倫理観について理解する。			個人
4	組織経営とマネジメント	病院組織における運営管理体制と医療安全管理について理解する。			個人
5	人事労務管理	病院組織における人事労務管理について理解する。			個人
6	人の管理, 人材育成	リハビリテーション部門における人的管理および人材育成について理解する。			個人
7	物品管理, 経済管理	リハビリテーション部門における設備管理および情報管理について理解する。			個人
8	自己管理	組織の構成員としての自己管理について理解する。			個人
9	理学療法業務のマネジメント	理学療法業務の概要を理解する。			個人
10	教育の役割とシステム	教育の目的と役割及び教育評価について理解する。			個人
11	教育・研究のマネジメント	養成教育制度と卒後教育について理解する。			個人
12	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント	社会保障制度について理解する。			個人
13	疾患別理学療法マネジメント	疾患別のリスクマネジメントについて理解する。			個人
14	病期別理学療法マネジメント	病期別のリスクマネジメントについて理解する。			個人
15	地域医療連携とリハビリテーション	多職種連携および地域連携のあり方について理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト レポート	80% 20%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業テーマの要点を整理する(課題)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法評価学(1/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
理学療法評価における姿勢分析、動作分析、歩行分析を理解、説明ができ実施できる 分析結果の解釈、レポートの作成ができる					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①臨床で接する頻度の高い疾患の基本的な評価項目を挙げることができる ②評価結果から妥当な解釈ができる ③一連の理学療法の流れにおいて適宜記録ができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力 統合的学習体験	
【履修上の注意】実習着を着用する					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ロジックとステップ	障害構造表を用いて、理学療法評価に必要なプロセスを確認する			個人
2	理学療法評価の基本的な流れ	理学療法評価を行う際の、基本的な流れを理解する			個人
3	問診の方法	問診を行う際の、情報収集やコミュニケーションの取り方を理解し、実践できる			グループ
4					
5	各種疾患に対する形態計測	各種疾患に対する形態計測の方法を理解し、結果の解釈ができる			グループ
6					
7	各種疾患に対する関節可動域計測	各種疾患に対する関節可動域計測の方法を理解し実施できる。また、結果の解釈ができる			グループ
8					
9	各種疾患に対する徒手筋力検査	各種疾患に対する徒手筋力検査の方法を理解し実施できる。また、結果の解釈ができる			グループ
10					
11	各種疾患に対するリスク管理	各種疾患に対するリスク管理の方法を理解し、運動等の中止基準を設定することができる			グループ
12					
13	各種疾患に対する評価項目の解釈	整形疾患、神経系疾患に対する評価の結果を理解し、解釈することができる			グループ
14					
15	実技テスト	学習の習熟度を確認するための実技テストを実施する			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%	
【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法評価学(2/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
理学療法評価における姿勢分析、動作分析、歩行分析を理解、説明ができ実施できる 分析結果の解釈、レポートの作成ができる					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①姿勢分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する ②動作分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する ③歩行分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力 統合的学習体験	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	各種分析の実際	姿勢、動作、歩行分析の目的・方法を理解する 各種分析の内容を解釈することができる 姿勢・動作・歩行を構成する因子を理解する			個人
2					
3	THA後の各種分析方法	THA後の各種分析の目的・方法を理解する THA後の内容を解釈することができる THA後の各種分析結果をレポートとしてまとめることができる			個人・グループ
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10	片麻痺症例の各種分析方法	片麻痺症例の目的・方法を理解する 片麻痺患者の各種分析内容を解釈することができる 片麻痺症例の各種分析結果をレポートとしてまとめることができる			個人・グループ
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	実施しない	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%	
【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法評価学(3/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
臨床実習に向けてケーススタディを行い、理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①症例報告書の作成方法ができる。 ②整形外科、中枢神経疾患の典型的症例のレポートが妥当な時間で作成できる。 ③作成する過程の中で、評価から統合と解釈、考察するまでの臨床思考ができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力	
【履修上の注意】わからないことは自ら質問し解決してください。積極性をもって臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ケーススタディ①	ケース提示			個人
2	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる			個人
3	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる			個人
4	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる			個人
5	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる			個人
6	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う			個人
7	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う			個人
8	レポート作成	報告書の作成			個人
9	ケーススタディ②	ケース提示			個人
10	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる			個人
11	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる			個人
12	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる			個人
13	治療プログラムの立案	評価から導かれる治療プログラムについて立案できる			個人
14	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う			個人
15	レポート作成	報告書の作成			個人
期末試験	後期期末試験	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%	
【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢装具学演習 ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子			佐久間
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
義肢装具のチェックアウト、異常歩行について再確認する。短下肢装具の採型や義肢装具士によるソケット等の作製の行程を見学して製法や留意点などを学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種義肢装具の名称、基本構造、特徴、用途を示すことが出来る ②義肢装具のチェックアウトと異常歩行の原因を推察できる ③義肢装具使用者に対する理学療法評価を実施できる ④義肢装具の採型について理解できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【履修上の注意】		教科書を持参して下さい			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	短下肢装具のチェックアウト	短下肢装具のチェックアウトについて理解する 短下肢装具のチェックアウトについて実施・体験する			グループ
2	短下肢装具のチェックアウト				グループ
3	長下肢装具のチェックアウト	長下肢装具のチェックアウトについて理解する 長下肢装具のチェックアウトについて実施・体験する			グループ
4	長下肢装具のチェックアウト				グループ
5	義肢装具の採型	プラスチック式短下肢装具の採型について理解する プラスチック式短下肢装具の採型について実施・体験する			グループ
6	義肢装具の採型				グループ
7	下肢切断の理学療法評価	下肢切断の評価について理解する 下肢切断の評価について実施・体験する			グループ
8	継手の確認	大腿義足・下腿義足の継手の機能について理解する 模擬義足を用い、義足歩行を体験する			グループ
9	義肢のチェックアウト	大腿義足・下腿義足のチェックアウトについて理解する 大腿義足・下腿義足のチェックアウトの実施ができる			グループ
10	アライメント調整と異常歩行	ベンチアライメントについて理解する ベンチアライメントの調整ができる			グループ
11	アライメント調整と異常歩行	義足の異常歩行について理解する 義足の異常歩行について問題点を抽出できる			グループ
12	下肢切断者に対する理学療法	下肢切断者に対する理学療法について理解する 下肢切断者に対する理学療法について実施・体験する			グループ
13	義肢の作製見学・体験	切断者に対する義肢の作製を見学する 切断者に対する義肢の作製を体験する			グループ
14	義肢の作製見学・体験				グループ
15	まとめ	まとめ			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	PTOTビジュアルテキスト 義肢装具学 第2版 (羊土社)				
【参考書】	義肢装具のチェックポイント 第9版 (医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・配布資料の内容をしっかりと復習してください					
【本講義に関しての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
物理療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		白土 貴紀			白土
		病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えることによって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における物理療法の意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応を理解する ④物理療法のリスク(注意・禁忌事項)を理解する				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力	
【履修上の注意】生理学をしっかり復習した上で臨んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	物理療法の基礎	物理療法の定義、歴史、リハビリテーションにおける物理療法の役割、位置づけ、今後の課題について理解できる			個人
2	温熱療法の概要	物理療法に必要な基礎的理論として熱、温熱療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
3	温熱療法各論(ホットパック、パラフィン)	表在性温熱療法の代表として、ホットパック、パラフィン浴について実施方法を学び、実施できる			個人
4	エネルギー変換療法の概要	エネルギー変換療法の種類、分類、生理学的効果、適応と禁忌について理解する			個人
5	極超短波・超短波療法	極超短波治療器、超短波治療器の具体的な実施方法について学び、実施できる			個人
6	寒冷療法	寒冷療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
7	電気刺激療法の概要	電気刺激療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
8	電気刺激療法	電気刺激療法の具体的な実施方法について学び、実施できる			個人
9	TENS総論、各論	国家試験問題による演習を通して、TENSへの理解を深めることができる			個人
10	超音波療法	超音波療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
11	超音波療法	超音波療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
12	振動刺激療法	振動刺激療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解し、具体的な実施方法について学び、実施できる			個人
13	圧迫療法・マッサージ療法	圧迫療法・マッサージ療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解できる			個人
14	光線療法	光線療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解し、具体的な実施方法について学び、実施できる			個人
15	牽引療法	牽引療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解し、具体的な実施方法について学び、実施できる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 レポート	80% 20%	
【教科書】	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版(南江堂)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		呼吸・循環系や神経・筋、代謝等に関する生理学の復習を十分にしておいてください			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】			
物理療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		白土 貴紀			白土			
		病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務						
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】			
理学療法学科	3	前期	30(60)	講義・演習	2			
【授業の概要・目的】								
各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えることによって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ								
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】				
①理学療法における物理療法の意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応を理解する ④物理療法のリスク(注意・禁忌事項)を理解する				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力				
【履修上の注意】生理学をしっかり復習した上で臨んでください。								
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法			
1	物理療法の概要の復習	物理療法の定義、歴史、リハビリテーションにおける物理療法の役割、位置づけ、今後の課題について、復習する			個人			
2	機器の使用法・注意点の復習	物理療法に必要な基礎的理論として熱、温熱療法の種類、生理学的効果、適応と禁忌について理解し、復習する			個人			
3	グループワーク	グループに分かれ、 ・ホットパック・パラフィン ・極超短波 ・寒冷療法 ・TENS,EMS ・超音波 ・振動刺激量販 以上の実習を通して、物理療法学の基礎知識をもとに各種物理療法の具体的な実施方法について実施し、効果について計測できる。 ただ単に、機器を使用するのではなく、グループで話し合う、調べる、協業するなど、主体的に取り組みを行うことで、コミュニケーション能力、他者理解、考える力を身につける。 疑似治療部位を露出させやすい服装で授業に臨むこと。			グループ			
4	グループワーク				グループ			
5	グループワーク				グループ			
6	グループワーク				グループ			
7	グループワーク				グループ			
8	グループワーク				グループ			
9	グループワーク				グループ			
10	グループワーク				グループ			
11	グループワーク				グループ			
12	グループワーク				グループ			
13	グループワーク				グループ			
14	グループワーク				グループ			
15	まとめ				実習にておこなった物理療法の実施方法、効果についてレポートにまとめる。			グループ
期末試験	実施しない				評価方法	筆記試験 80% レポート 20%		
【教科書】	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版(南江堂)							
【参考書】	なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		1・2年次の運動学と解剖学の復習をしてください						
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて				

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われているアプローチ方法や評価方法について実技を通して学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 中枢神経疾患について理解を深める。 ② 臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する。 ③ 各種アプローチ、評価方法を実際に体験することにより理解を深める。				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	脊髄損傷について	脊髄の機能解剖や脊髄損傷の原因を理解する			グループ
2	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷の症状や合併症を理解できる 脊髄損傷の評価方法を理解できる			グループ
3	外傷性脳損傷について	外傷性脳損傷の原因、症状を理解する 外傷性脳損傷の評価方法を理解できる			グループ
4	運動失調の理学療法	運動失調の原因、症状を理解する 運動失調の理学療法評価、治療方法を理解できる			グループ
5	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の原因、症状を理解する			グループ
6	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の評価・治療方法を理解できる			グループ
7	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の理学療法	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価、治療方法を理解できる			グループ
8	中枢神経疾患に対する評価	中枢神経疾患の評価方法を理解する			グループ
9	病期による理学療法の役割	急性期・回復期・生活期における理学療法の目的を理解する			グループ
10	中枢神経疾患に対する治療計画と予後	中枢神経疾患の想定される予後を理解する 予後を想定し適切な治療計画立案を行う			グループ
11	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解、説明できる 高次運動障害(失行等)の評価方法を理解できる			グループ
12	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解、説明できる 高次感覚障害(失認等)の評価方法を理解できる			グループ
13	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解、説明できる その他高次脳機能障害の評価方法を理解できる			グループ
14	精神・認知機能の評価	精神・認知機能の評価を理解、説明できる 精神・認知機能の評価方法を理解できる			グループ
15	疼痛に対する評価	疼痛の定義や分類について理解、説明できる 脳卒中後の疼痛について評価方法を理解できる			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編](金原出版)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 検査測定の方法を十分に復習し、授業の望みましょう。					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われているアプローチ方法や評価方法について実技を通して学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 中枢神経疾患について理解を深める。 ② 臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する。 ③ 各種アプローチ、評価方法を実際に体験することにより理解を深める。				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ADL,セルフケア等の評価	Barthel Index(BI),機能的自立度評価法(FIM),modified Rankin scale(mRS)について理解する			グループ
2	ADL,セルフケア等の評価	Barthel Index(BI),機能的自立度評価法(FIM),modified Rankin scale(mRS)について実施する			グループ
3	運動機能の評価	ブルーンストロームの片麻痺回復段階指標,上田式片麻痺機能テスト,SARAについて理解する			グループ
4	運動機能の評価	ブルーンストロームの片麻痺回復段階指標,上田式片麻痺機能テスト,SARAについて実施する			グループ
5	バランスの評価	機能的バランス指標(BBS),Time up and go test(TUG),Burke Lateropulsion Scale(BLS)を理解する			グループ
6	バランスの評価	機能的バランス指標(BBS),Time up and go test(TUG),Burke Lateropulsion Scale(BLS)を実施する			グループ
7	総合的身体機能の評価	脳卒中機能障害評価セット(SIAS)を理解,実施する			グループ
8	総合的身体機能の評価	脳卒中機能障害評価セット(SIAS)を理解,実施する Fugl-Meyer Assessment(FMA)を理解,実施する			グループ
9	歩行の評価	10m最大歩行速度,6分間歩行テスト,歩行の評価について理解,実施する			グループ
10	歩行の評価	10m最大歩行速度,6分間歩行テスト,歩行評価について理解,実施する 評価結果から問題点や予測を立てる			グループ
11	体幹機能の評価	体幹機能の評価(TCT,FACT)を理解,実施する			グループ
12	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療方法を理解する 治療法の概要を理解することができる			グループ
13	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療方法を理解する 治療法の概要を理解することができる			グループ
14	脳画像と臨床症状	脳画像を把握する目的を理解する 各種脳画像の特徴を説明できる			グループ
15	脳画像と臨床症状	脳画像における各種伝導路を理解する 臨床症状と脳画像から病態像を理解できる			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編](金原出版)				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 検査測定の方法を十分に復習し,授業の望みましょう。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
筋骨格系理学療法(1/3) ※実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。 本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	組織再生・修復	骨格筋・腱組織・人体組織の構造を理解し、組織の炎症について理解し説明できる			個人
2		骨・神経の治癒過程を理解し説明できる			個人
3	骨折と脱臼	骨折と脱臼の定義と病態について理解する また治療や評価について理解し説明できる			個人
4	上肢骨折の病態、評価・治療	上肢骨折の分類・リハビリテーションプログラムについて理解する			個人
5		上肢骨折に関する評価内容を理解し実施できる			個人
6		上肢骨折に関する治療内容を理解し実施できる			個人
7		上肢骨折に関する日常生活動作を理解し練習できる			個人
8	下肢骨折の病態、評価・治療	下肢骨折の分類・リハビリテーションプログラムについて理解する			個人
9		下肢骨折に関する評価内容を理解し実施できる			個人
10		下肢骨折に関する治療内容を理解し実施できる			個人
11		下肢骨折に関する日常生活動作を理解し練習できる			個人
12	変形性股関節症	変形性股関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する			個人
13		基本的な評価と治療手技が実践できる			個人
14		評価の結果を記録し、解釈ができる			個人
15		評価の結果の統合と解釈ができる			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)				
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
筋骨格系理学療法(2/3) ※実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。 本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	変形性膝関節症	変形性膝関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する			個人
2		基本的な評価と治療手技が実践できる			個人
3		評価の結果を記録し、解釈ができる			個人
4		評価の結果の統合と解釈ができる			個人
5	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷の発生機序や病態、について理解できる			個人
6		膝関節半月板損傷に関する評価・治療を理解し実施できる			個人
7	肩関節疾患の病態	肩関節の構造と機能、肩関節周囲炎の病態が理解できる			個人
8		腱板断裂の病態が理解できる			個人
9	肩関節疾患の評価・治療	肩関節疾患に関する整形外科的テストを理解し実施できる			個人
10		肩関節疾患に対する治療アプローチを理解し実施できる			個人
11	足部・足関節疾患の病態	足部機能、足部・足関節疾患の病態を理解する			個人
12		足部・足関節に関する骨折の病態を理解する			個人
13	足部・足関節疾患の評価・治療	足部・足関節疾患に関する評価方法を理解し実施できる			個人
14		足部・足関節疾患に関する治療方法を理解し実施できる			個人
15	前期筋骨格系理学療法学のまとめ	前期の筋骨格系理学療法学のまとめを行う			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)				
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
筋骨格系理学療法(3/3) ※実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			十文字
		病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。 本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	腰部解剖	脊椎手術と対応する理学療法について理解し、術所見読解のポイントがわかる			個人
2		腰痛の評価から治療を選択でき、実施できる各種検査、運動療法、ストレッチング、姿勢矯正運動			個人
3	腰部疾患	頸部痛を伴う疾患についてその病態が理解できる各種検査、運動療法、ストレッチング、姿勢矯正運動			個人
4		体幹・脊椎疾患の治療法についてまとめる			個人
5	頸椎・胸椎解剖	膝関節損傷の発生機序と病態、整形外科的治療について理解できるACL損傷、PCL損傷、MCL損傷、半月板損傷			個人
6		膝関節固有の障害に対する評価ができる			個人
7	頸椎・胸椎疾患	膝関節固有の障害に対する治療ができる			個人
8		関節リウマチについて病態、一般的な整形外科的、内科的治療が理解できる			個人
9	関節リウマチ	愛護的な評価、治療が行える			個人
10		各運動器疾患の評価ができるようになる			個人
11	整形外科的テスト	整形外科的テストの意義、目的を理解し、適切に実施することができる			グループ
12					
13	症例検討	運動器障害を有する患者の動作から仮説を立て、評価項目を列挙できる			個人
14					
15					
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)				
【参考書】	標準整形外科学 第14版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
小児発達系理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		笹島 美沙希			笹島
		障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
小児理学療法における代表的な疾患, 障害の特徴, 理学療法の考え方について, 講義および実技演習を通して理解する.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①大人と比較した小児疾患の特徴および障害像について理解し, 説明できる. ②発達検査や理学療法評価をマニュアルに従って実施できる. ③正常運動発達を理解し, 発達障害児に対する理学療法プログラムを考案できる.				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	初回オリエンテーション	理学療法の対象となる疾患について復習する. 小児理学療法における基本的な考え方を理解する.			個人
2	正常運動発達の復習	新生児期から歩行獲得までの運動発達過程を復習する.			個人
3	原始反射, 姿勢反応の復習①	脊髄レベルの反射および反応について復習する.			個人
4	原始反射, 姿勢反応の復習②	中脳～大脳皮質レベルの反射および反応について復習する.			個人
5	発達と生活機能の評価	小児領域で行う各種検査と理学療法評価について学ぶ. ケーススタディを通して実践し, 評価方法を理解する.			個人
6	脳性麻痺総論	脳性麻痺の疫学, 症状, 治療法について理解する. 脳性麻痺の理学療法の目標について理解する.			個人
7	脳性麻痺(痙直型両麻痺)	痙直型両麻痺の特徴および治療法について理解する. 痙直型両麻痺の理学療法について理解する.			個人
8	脳性麻痺(痙直型片麻痺)	痙直型片麻痺の特徴および治療法について理解する. 痙直型片麻痺の理学療法について理解する.			個人
9	脳性麻痺(アテトーゼ型)	アテトーゼ型の特徴および治療法について理解する. アテトーゼ型の理学療法について理解する.			個人
10	重症心身障害児	重症心身障害児の障害像について理解する. ポジショニング, 呼吸理学療法について理解する.			個人
11	筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症の障害像について理解する. 筋ジストロフィー症の理学療法について理解する.			個人
12	二分脊椎	二分脊椎の障害像について理解する. 二分脊椎の理学療法について理解する.			個人
13	知的障害およびその他の発達障害 ダウン症候群	発達障害の特徴と理学療法士の関わり方を理解する. ダウン症候群の理学療法について理解する.			個人
14	ハイリスク新生児	ハイリスク新生児と周産期医療の特徴を理解する. NICUにおける理学療法について理解する.			個人
15	まとめ	小児理学療法における代表的な疾患, 障害の特徴, 理学療法の考え方について, 講義内容の総復習を行う.			個人
期末 試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】		小児理学療法学テキスト 改訂第4版 シンプル理学療法シリーズ(南江堂)			
【参考書】		講義の中で適宜紹介します.			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書と授業で使用了資料を基に予習・復習を行ってください.					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
呼吸・循環器系理学療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】教科書を持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	呼吸理学療法とは	呼吸理学療法の概要を理解する。呼吸器疾患の現状を知り、理学療法の必要性を認識する			個人
2	胸部の観察・評価	胸部の解剖を理解しその観察と評価のポイントを知る			個人
3	呼吸困難・運動耐容能の評価	呼吸困難の評価、運動耐容能の評価方法を理解し、評価できる			個人
4	慢性閉塞性肺疾患(COPD)病態理解	慢性閉塞性肺疾患の肺の病態について理解する			個人
5	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の評価	肺機能や呼吸困難の重症度、運動耐容能の低下要因の評価を行える			個人
6	慢性閉塞性肺疾患(COPD)のリハビリテーション	呼吸機能低下、運動耐容能低下の要因に対するリハビリテーションプログラムを理解する			個人
7	間質性肺炎の病態理解と評価およびリハビリテーション	間質性肺炎の病態と経過、予後を考慮した運動療法について理解する			個人
8	外科手術後の急性呼吸不全に対する評価およびリハビリテーション	手術侵襲、内部環境の把握、リスク管理を把握したうえで段階的に早期離床を進める重要性を理解する			個人
9	外科手術後の急性呼吸不全に対する評価およびリハビリテーション	呼吸練習、体位変換など具体的な術後早期リハビリテーションについて理解する			個人
10	肺炎・ARDSの病態理解と評価およびリハビリテーション	肺炎の病態と肺胞換気が低下するメカニズム、各種検査を理解し早期離床のための介入方法を理解する			個人
11	気管支喘息の病態理解と評価およびリハビリテーション	気管支喘息の病態とそのコントロール、運動療法時の注意点を理解した上での介入方法を理解する			個人
12	呼吸理学療法評価・治療実技演習	胸部の観察・評価、呼吸困難の評価について演習を行う			グループ
13		呼吸理学療法の代表的な介入方法について演習を行う			グループ
14	吸痰演習	吸痰手技の実施の方法、注意点について理解し、演習を行う			グループ
15	まとめ	呼吸理学療法のまとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版				
【参考書】	適宜紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】内臓の解剖学・生理学・運動学の復習をして講義に臨むこと。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
呼吸・循環器系理学療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①循環器の構造・機能について説明できる ②循環器疾患のメカニズムについて説明できる ③循環器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】教科書を持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	循環器の基礎①	循環器系の解剖、生理を理解する 心臓リハビリテーションに必要な基礎知識を整理する			個人
2					個人
3	循環器の基礎②	心電図・不整脈の診かたについて、課題を実施し心電図への理解を深める			個人
4					個人
5	循環器疾患に対する評価	運動耐容能とその評価について理解する			個人
6	循環器疾患の病態・検査と治療	虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症などの循環器疾患の病態と検査・治療について理解する			個人
7					個人
8					個人
9	虚血性心疾患に対する理学療法	ケーススタディをし、評価計画・解釈・治療プランの立案を実施する			個人
10					個人
11	リスク管理(救急救命について)	呼吸・循環器疾患におけるリスク管理について学び、救急救命法についての理解を深める			グループ
12					グループ
13					グループ
14	心大血管術後の理学療法	心大血管術後のリスク管理と理学療法について理解する			個人
15	まとめ	まとめ			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版				
【参考書】	適宜紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		内臓の解剖学・生理学・運動学の復習をして講義に臨むこと。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術演習 ※ 実務経験のある教員の授業科目		吉田 俊太郎			吉田
		病院勤務(理学療法士)15年			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
対象者の生活像を把握し、効果的な援助・指導を行うために、基本動作および移乗動作の方法を身につける。各種疾患を想定したり、対象者を想定した日常生活動作の指導方法や介助方法を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①基本動作の・移乗動作の指導や介助のポイントを列挙できる。 ②対象者を想定した基本動作・移乗動作の指導や介助を行うことができる。 ③各種疾患に応じた日常生活動作の介助や指導を行うことができる。				問題解決力 知識・理解 情報活用能力 考え抜く力 チームで働く力	
【履修上の注意】授業に適した服装で受講するようにしましょう					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介助方法と指導の基本 起き上がり動作・立ち上がり動作	起き上がり・立ち上がり動作の介助方法を学び、実践する。 対象者を想定した方法を実践する。			グループ
2	介助方法と指導の基本 移乗動作	車椅子とベッド間の移乗動作の介助方法を学び、実践する。 対象者を想定した方法を実践する。			グループ
3	指導と介助方法の基本 床上動作	膝立ち、床からの立ち上がり動作の介助方法を学び実践する。			グループ
4	指導と介助方法の基本 その他	四つ這い、膝歩きなど介助方法を学び、実践する。			グループ
5	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 起居・移乗・移動の介助について演習を行う。			グループ
6	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 更衣・排泄・入浴の介助について演習を行う。			グループ
7	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 食事・整容・その他の介助について演習を行う。			グループ
8	疾患に応じた指導と介助 脊髄損傷	脊髄損傷患者の介助方法と指導方法を理解する。 起居・移乗・移動の介助について演習を行う。			グループ
9	疾患に応じた指導と介助 脊髄損傷	脊髄損傷患者の介助方法と指導方法を理解する。 更衣・排泄・入浴・その他の介助について演習を行う。			グループ
10	疾患に応じた指導と介助 パーキンソン病	パーキンソン病患者のADL動作の特徴を理解する。 代表的なADL動作の介助について演習を行う。			グループ
11	疾患に応じた指導と介助 神経筋疾患	神経筋疾患患者のADL動作の特徴を理解する。 代表的なADL動作の介助について演習を行う。			グループ
12	疾患に応じた指導と介助 呼吸器疾患・心疾患	呼吸器疾患・心疾患患者のADL動作の特徴を理解する。			グループ
13	疾患に応じた指導と介助 下肢骨折	下肢骨折患者のADL動作の特徴を理解する。 代表的なADL動作の介助について演習を行う。			グループ
14	疾患に応じた指導と介助 人工関節全置換術	人工関節全置換術後患者のADL動作の特徴を理解する。			グループ
15	実技試験	各種介助方法について到達度を確認する。			グループ
期末試験	筆記試験 実技試験	評価方法	筆記試験 実技試験	60% 40%	
【教科書】	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版 ※2年次購入済 脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編] ※2年次購入済				
【参考書】	講義で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎科目の知識を活用しますので、不足している部分については十分復習しましょう					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
スポーツ理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		櫻村 孝憲			櫻村
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
対象者の健全なスポーツへの取り組みをサポートするために、メディカルサポートとトレーニングサポートの現状、競技特性や障害発生メカニズムを理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①スポーツ理学療法のかかわりについて説明できる ②各競技特性を理解し、理学療法士の関わり方について自分の考えを説明できる ③各種疾患に対する評価、治療項目を理解、説明できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 態度・志向性	
【履修上の注意】特になし					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	スポーツ理学療法の概要	スポーツと理学療法の関わりについて説明できる。			個人
2	メディカルチェック	基本的なメディカルチェックとその意義を理解する。			個人
3	フットワークの実際	生理運動やactive stretching、フットワークを理解し、トレーニング中で応用して考え、実践することが出来る。			個人
4					
5					
6	肩関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における肩関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。			個人
7					
8	膝関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における膝関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。			個人
9					
10	足関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における足関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。			個人
11					
12	腰部のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における腰部のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。			個人
13					
14	テーピング	テーピングの効果について理解する ACL損傷、足関節内反捻挫に対するテーピングの巻き方を理解し実施できる			グループ
15					
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		1・2年時の解剖学、運動学、整形外科学の復習			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内部障害理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一			安中
		病院(理学療法士)8年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療学科	3	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
前期の内部障害学に続き、各種内部障害に対する支援の方法を理解する。また、それぞれの疾患について症例検討を行い、問題解決能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 腎臓、泌尿器の解剖学的構造を理解し説明できる。 ② 腎臓、泌尿器の生理学的機能を理解し説明できる。 ③ 各種疾患の症候について説明できる。 ④ 各種疾患の検査と治療について説明できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力	
【履修上の注意】教科書を持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	初回オリエンテーション 前期の内容の復習①		前期実施した糖尿病の理学療法について復習を行う。		個人
2	前期の内容の復習②		前期実施した腎疾患の理学療法について復習を行う。		個人
3	栄養とリハビリテーション①		リハビリテーションにおける栄養管理の目的を理解する。		個人
4	栄養とリハビリテーション②		サルコペニアの原因と、予防方法および治療方法を理解する。		個人
5	栄養とリハビリテーション③		各種疾患に対する栄養状態の評価方法を理解する。		個人
6	栄養とリハビリテーション④		症例を通して、栄養管理および理学療法の実践的な方法を理解する。		個人
7	がん患者に対する理学療法①		がんの病態、成因、疫学について理解する。		個人
8	がん患者に対する理学療法②		がんの主要な治療について理解する。		個人
9	がん患者に対する理学療法③		がん患者に生じる弊害について理解し、理学療法を実施する際のリスク管理を実践できる。		個人
10	がん患者に対する理学療法④		がん患者に対する理学療法評価、治療プログラムを理解する。		グループ
11	高齢者に対する理学療法①		加齢に伴う生体の変化について理解する。		個人
12	高齢者に対する理学療法②		ロコモティブシンドロームの定義と、予防を中心とした介入方法を理解する。		個人
13	高齢者に対する理学療法③		フレイルの定義と、予防を中心とした介入方法を理解する。		個人
14	高齢者に対する理学療法④		高齢者に対する理学療法評価、治療プログラムを理解する。		個人
15	総復習		後期実施した内容について総復習を行う。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版				
【参考書】	適宜紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や配布資料を基に復習を行ってください。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
地域理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗			増子
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
地域における理学療法の役割を理解するため、医療・保健・介護分野における地域リハビリテーションの概念と支援体制について学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 地域リハビリテーションの考え方について説明できる。 ② 地域リハビリテーションの支援体制について説明できる。 ③ 地域における理学療法士の役割について説明できる。 ④ 介護予防における理学療法士の役割について説明できる。 ⑤ 地域の防災と災害支援におけるリハビリテーション専門職の役割について説明できる。				知識・理解	
【履修上の注意】教科書や配布資料を必ず持参して臨むようにしましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	地域リハビリテーションについて	地域リハビリテーションの考え方や役割を学ぶ 地域リハビリテーションの考え方や役割を説明できる			個人
2	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを学ぶ 地域包括ケアシステムの制度を説明できる			個人
3	関係制度と関連法規	各種保険制度の仕組みについて学ぶ 各種保険制度の概要について説明できる			個人
4	地域におけるリスクマネジメント	リスクマネジメントの概要と必要な知識や技術を学ぶ リスクマネジメントの考え方や知識・技術について説明できる			個人
5	介護予防	サルコペニアを学び、概要や介護予防について説明できる フレイルを学び、概要や介護予防について説明できる			個人
6	認知症予防	認知症を学び、認知症予防の運動プログラムを学ぶ 認知症予防のプログラムを説明できる			個人
7	転倒予防	転倒予防の重要性と対策方法を学ぶ 転倒予防の重要性と対策方法を説明できる			個人
8	訪問リハビリテーション	訪問リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる			個人
9	通所リハビリテーション	通所リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる			個人
10	施設系(入所)リハビリテーション	施設系リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる			個人
11	終末期における理学療法	終末期の概要と役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる			個人
12	行政における療法士の役割	理学療法士等が従事している分野と役割を学ぶ 理学療法士従事している分野と役割を説明できる			個人
13	地域防災と災害支援	災害時のチーム医療を学ぶ リハビリテーション専門職の役割を説明できる			個人
14	地域での起業と社会貢献	理学療法士が起業する目的や役割を学ぶ 企業の目的と必要なステップについて説明できる			個人
15	事例 検討	事例を通して地域での理学療法士の役割を理解できる			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% 小テスト 40%	受講態度 10%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	講義内にて紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業のテーマごとに教科書を読んでおくこと。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			吉田
		免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習の修了者			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	(180)	実習	4
【授業の概要・目的】					
学内で学んだ基礎・専門基礎・専門分野の知識・技術を総合的に適用し対象者を理解するために、臨床の場で理学療法評価および治療を体験、実践する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 対象者・スタッフと適切なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築できる。 ② 診療チームの一員としての自覚を持ち、責任のある言動をとることができる。 ③ 臨床における対象者の評価やアプローチの内容と意義について説明できる。 ④ 実習指導者の直接監視下で水準 I の理学療法(記録を含む)が実施できる。 ⑤ 自己学習の成果をポートフォリオとしてまとめ、報告することができる。				コミュニケーションスキル チームで働く力 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【履修上の注意】 適宜ルーブリック評価を行い、自己の達成状況(学習成果)を明確にする。毎週末、進捗状況を報告する。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	医療施設及び医療介護施設での臨床実習	臨床実習指導者の下、臨床実習を行う。 ・実際の医療行為の枠外において、患者協力の下、評価や治療の体験を行う。 ・検査測定や治療の記録は、対象者の状態を踏まえて模擬的に実施した旨を記載する。 ・理学療法の一連の業務や役割について学ぶ。 ・関連職種の人々との連携について学ぶ。			個人
2					個人
3					個人
4					個人
5					個人
6					個人
7					個人
8					個人
9					個人
10					個人
11					個人
12					個人
13					個人
14					個人
15					個人
期末試験	実施しない	評価方法	課題の達成度 60% 発表会の結果 10%	OSCE 30%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日々の内省事項から課題解決に向け自己学習し、ポートフォリオとしてまとめる。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
在宅リハビリテーション実習 ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			吉田
		【対象学科】	【学年】	【開講時期】	
理学療法学科	3	後期	(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割、およびリハビリテーションマネジメントについて学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 地域包括ケアシステムの概要および生活期リハビリテーションの意義を説明できる。 ② 理学療法士の役割について説明できる。 ③ 対象者の評価やアプローチの内容と意義について説明できる。 ④ 対象者の予後予測の重要性について説明できる。 ⑤ 自己学習の成果をポートフォリオとしてまとめ、報告することができる。				コミュニケーションスキル チームで働く力 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【履修上の注意】 適宜ルーブリック評価を行い、自己の達成状況(学習成果)を明確にする。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	訪問、あるいは通所介護施設での在宅リハビリテーション実習	在宅における対象者のリハビリテーションに参加する。 ・地域包括ケアシステム、および生活期リハビリテーション(医療と介護の違い)について学ぶ。 ・理学療法士の役割について学ぶ。 ・理学療法士の一連の業務の流れ(マネジメント)について学ぶ。 ・記録の方法と実際について学ぶ。			個人
2					個人
3					個人
4					個人
5					個人
6					個人
7					個人
8					個人
9					個人
10					個人
11					個人
12					個人
13					個人
14					個人
15					個人
期末試験	実施しない	評価方法	課題の達成度 90%	発表会の結果 10%	
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日々の内省事項から課題解決に向け自己学習し、ポートフォリオとしてまとめる。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法マネジメント論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間 朋子			佐久間
		病院(理学療法士)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
事例を検証することで新たな考え方を模索します。生活機能をICFの観点で整理し患者像を把握し、問題点抽出・目標設定を行います。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①選択した事例から患者像把握、問題点抽出、目標設定できる。 ②ボトムアップ・トップダウン双方の考えによる思考の違いを理解し説明できる。 ③現状から目標に向けての道筋を立案できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 態度・志向性	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業の概要, すすめ方について理解する。			個人・グループ
2	事例検討①	対象事例を振り返ることで、課題の達成を妨げている要因や原因を明らかにする方法を検討し、説明する。			個人・グループ
3	事例検討②	患者(利用者)の豊かな生活、継続的な支援を実現するには何が必要なのかを考え、説明する。			個人・グループ
4	事例検討③	関係機関・専門職種との連携・協力・協働関係の築きに視点を向け、多職種連携について理解する。			個人・グループ
5	事例検討④	理学療法の課題を発見し、地域のネットワークや社会資源の構築の方法を検討し、説明する。			個人・グループ
6	事例検討⑤	当事者中心の医療を実践するために、必要な情報の収集・活用方法について検討し、説明する。			個人・グループ
7	事例発表会	まとめた事例についてグループごとに発表する。			個人・グループ
8	総合臨床実習に向けて①	治療プログラム立案について学ぶ。 必要な情報収集			個人・グループ
9	総合臨床実習に向けて②	治療プログラム立案について学ぶ。 必要な情報収集			個人・グループ
10	総合臨床実習に向けて③	治療プログラム立案について学ぶ。 必要な情報収集			個人・グループ
11	疾患別マネジメント	疾患別のマネジメントについて学ぶ。			個人・グループ
12	病期別マネジメント	病期別のマネジメントについて学ぶ。			個人・グループ
13	事例の振り返り①	治療プログラム立案に基づき事例を振り返る。			個人・グループ
14	事例の振り返り②	治療プログラム立案に基づき事例を振り返る。			個人・グループ
15	まとめ	ICFに基づいた患者像の捉え方について再考する。			個人・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	受講態度	50%	課題の達成度
				50%	
【教科書】	特に指定なし。				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		3年次までに学んできたことを復習して講義に臨んでください。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			佐久間
		免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習を修了した者			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	通年	720	実習	16
【授業の概要・目的】					
実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる				統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病院・診療所における実習Ⅰ期  原則として1日の実習時間を8時間として計画する  実習終了後、学内発表会を実施(学科教員)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる  2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる  3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる			個別・グループ
2					個別・グループ
3					個別・グループ
4					個別・グループ
5					個別・グループ
6					個別・グループ
7					個別・グループ
8					個別・グループ
9					個別・グループ
10					個別・グループ
11					個別・グループ
12					個別・グループ
13					個別・グループ
14					個別・グループ
15					個別・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	OSCE 実習評価	20% 40%	課題の達成度 40%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			佐久間
		免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習を修了した者			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	通年	720	実習	16
【授業の概要・目的】					
実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える。 ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる。 ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる。				統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病院・診療所における実習Ⅱ期  原則として1日の実習時間を8時間として計画する  実習終了後、学内発表会を実施(学科教員)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる  2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる  3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる			個別・グループ
2					個別・グループ
3					個別・グループ
4					個別・グループ
5					個別・グループ
6					個別・グループ
7					個別・グループ
8					個別・グループ
9					個別・グループ
10					個別・グループ
11					個別・グループ
12					個別・グループ
13					個別・グループ
14					個別・グループ
15					個別・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	OSCE 実習評価	20% 40%	課題の達成度 40%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
職業理解 (1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田中 絹代 <sup>1)</sup>			渡邊
		1) 作業療法士 (JICA: 独立行政法人国際協力機構) 5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数 (時間)】	【授業形態】	【単位】
国際教養ビジネス学科	1	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
自分が目指す将来の職業を考え、その職業になるための人生設計ができる。					
【学習目標 (到達目標)】				【受講して得られる力】	
①職業とはなぜ必要なのかを理解することができる。 ②自分が目指す職業を見つけることができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性	
【履修上の注意】	主体的に授業に参加しましょう				
回数	授業のテーマ (担当教員)	授業の内容・目標 (使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	職業はなぜ必要なのか? 自分の将来の夢とは何かを考えるきっかけができる。			個人
2	人生設計について	人生設計とはなにか理解し、自らの人生について考えることができる。			個人
3	キャリアについて	キャリアとはなにか理解し、自らの人生について考えることができる。			個人
4	様々な職業の理解①	様々な職業があり、その職業に必要な資格があることが理解できる。			個人
5	様々な職業の理解②	様々な職業があり、その職業に必要な資格があることが理解できる。			個人
6	対人援助職体験学習 ①	その人を知る① 1日の生活のリズムをインタビューすることができる。			グループ
7	対人援助職体験学習 ②	その人を知る② 1日の生活のリズムを詳しく聞くことができる。			グループ
8	対人援助職体験学習 ③	その人を知る③ インタビューした人について発表することができる。			グループ
9	対人援助職体験学習 ④	その人の目標についてインタビューすることができる。			グループ
10	対人援助職体験学習 ⑤	その人の目標を達成するためのプログラムを考えることができる。			グループ
11	対人援助職体験学習 ⑥	その人の目標を達成するためのプログラムを発表することができる。			グループ
12	対人援助職体験学習 ⑦	なぜ、その人を知る、目標を達成するためのプログラムを考えるのか考えることができる。			グループ
13	対人援助職体験学習まとめ①	OTとのコラボ授業で学んだことをまとめることができる。			個人
14	対人援助職体験学習まとめ②	まとめた内容を発表資料として作ることができる。			個人
15	対人援助職体験学習まとめ③	まとめた内容を発表することができる。			個人
期末試験	期末試験レポート	評価方法	発表会の結果 課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
職業理解(2/2)		渡辺 みどり 田中 絹代 <sup>1)</sup>			渡邊
※実務経験のある教員の授業科目		1) 作業療法士(JICA:独立行政法人国際協力機構)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際教養ビジネス学科	1	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
自分が目指す将来の職業を考え、その職業になるための人生設計ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①様々な職業を体験をすることで、なりたい職業とのミスマッチを防ぐことができる。 ②なりたい職業を実行できるように人生設計について具体的に示すことができる。 ③ミライを見据えた自分の人生設計に必要なことが理解できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	ガイダンス	職業はなぜ必要なのか?自分の将来の夢の実現に向けて何が必要なのかを考えることができる。			個人
17	ミライの社会について①	2050年後などを踏まえ、社会がどうなっていくか理解できる。			グループ
18	ミライの社会について②	自分のなりたい職業がどうなるのか考えることができる。			個人
19	ミライの自分と社会について	ミライの自分と社会にはどのような課題があるのか考えることができる。			個人
20	ミライの仲間と社会について	ミライの仲間と社会にはどのような課題があるのか考えることができる。			グループ
21	職業の理解①	VRTカードを利用し、自らの職業の方向や自信の程度を理解することができる。			個人
22	職業の理解②	再度、目指したい・興味がある職業について調べることができる。			個人
23	人生設計について①	自分の人生設計について具体的に示すことができる。			グループ
24	人生設計について②	自らの人生について実行できるよう計画を立てることができる。			個人
25	日本で学ぶための心構えについて	日本で学ぶ際に必要な心構えを理解し実践することができる。			グループ
26	自己セルフケアについて	セルフケアとは何かを理解して、自らのセルフケアを行うことができる。			個人
27	他者のセルフケアについて	他者セルフケアとは何かを理解して、自らできることを考えることができる。			グループ
28	総合課題演習Ⅰ	グループでミライを見据えた人生設計について必要なことはにかについてまとめることができる。			グループ
29	総合課題演習Ⅱ	グループで発表資料を作成する。			グループ
30	総合課題演習Ⅲ	グループごとに発表を行い、ミライを見据えた人生設計について深めることができる。			グループ
期末試験	期末試験レポート	評価方法	発表会の結果 60%	受講態度 40%	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ビジネス英語 I ※実務経験のある教員の授業科目		Robert Holt			田中
		公務員(4年)、ビジネス英語インストラクター(5年)			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際教養ビジネス学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
The purpose of this course is to teach students "Beginner" level Business English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English.				考え抜く力 知識・理解 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性	
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	1A - Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0-10; days of the week.			Robert Holt
2	1B - Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.			Robert Holt
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.			Robert Holt
4	2A - We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.			Robert Holt
5	2B - What's your phone number?	Wh- and How questions with be. Phone numbers; numbers 11-100.			Robert Holt
6	3A - What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary - small things.			Robert Holt
7	3B - Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary - Souvenirs.			Robert Holt
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.			Robert Holt
9	4A - Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary - people and family.			Robert Holt
10	4B - Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.			Robert Holt
11	5A - Breakfast around the world.	Present simple ( + / - ): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.			Robert Holt
12	5B - A very long flight.	Present simple ( ? ): I, you, we and they. Common verb phrases 1.			Robert Holt
13	Practical English: What time is it?	Telling the time. Saying how you feel.			Robert Holt
14	6A - She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.			Robert Holt
15	6B - A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.			Robert Holt
16	Course Review	Final review of all course material.			Robert Holt
期末 試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	English File - Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	スペリング小テストの準備のための学習(数回)				
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		